

平成10年度 市原市内発掘調査報告

はた き こ やつ 遺 跡
畑 木 小 谷

こおりもと
郡 本 遺 跡（第 5 次）

ご しょ い じた 遺 跡
五 所 居 下

にい ほり こ とり むかい 遺 跡
新 堀 小 鳥 向

1999・3

市 原 市 教 育 委 員 会

序 文

房総半島のほぼ中央に位置する市原市は、市内を南北に貫流する養老川を擁し、その豊かな自然の恵みのなか、太古より多くの人々が生活を営んできました。祇園原貝塚、姉崎古墳群、上総国分僧寺・尼寺をはじめ、市内に残る数多くの遺跡は、その足跡を現代に伝えています。

一方、昭和30年代にはじまった臨海工業地帯の建設を機に、宅地造成、交通網などの都市基盤整備、さらにはゴルフ場建設といったさまざまな地域開発が急速に進展し、多くの遺跡が破壊の危機にさらされました。開発と文化財保護との調和をいかに図るかということは常に問われてきた課題です。しかし、「心の豊かさ」を基本理念とする新たなまちづくりのなかで、文化遺産を豊かな自然とともに後世に伝えていくことは、行政に課せられた責務であります。また、生涯学習に対する関心が年々高まるなか、その活用についても、より一層努力していく必要があると考えております。

本書は、国庫及び県費の補助をうけて実施した、市内所在の遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。市原市の歴史を理解する一助として、多方面の方に活用されることを願うものであります。

最後に、今回の発掘調査、および本書の刊行に際し、ご指導、ご協力を賜りました文化庁記念物課、千葉県教育庁文化課をはじめとする関係諸機関に対し、心から謝意を申し上げる次第であります。

平成11年 3 月

市原市教育委員会

教育長 大 野 皎

例 言

- 1 本書は、国庫及び県費の補助を受けて市原市教育委員会が主体となり実施した市内に所在する遺跡における発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査及び整理作業は文化庁の国庫補助事業として助成金を受けた市原市教育委員会の依頼により財団法人市原市文化財センターが実施し、報告書刊行については市原市教育委員会で行った。
- 3 今年度実施した発掘調査は下記の通りである。
 - (1) 畑木小谷遺跡（センター調査コード セ256） 市原市畑木246-1の一部他
調 査 身体障害者寮護施設の建設に伴い、平成9年度に対象面積1,160㎡について本調査を実施した。
調査期間 平成9年10月21日～平成10年2月3日
 - (2) 郡本遺跡（第5次）（センター調査コード セ273）市原市郡本1丁目153-1他
調 査 宅地造成に伴う本調査。対象面積368㎡のうち240㎡について発掘調査を実施した。
調査期間 平成10年7月13日～平成10年7月31日
 - (3) 五所居下遺跡（センター調査コード セ274）市原市五所字居下1539-1他
調 査 教会建設に伴う確認調査。対象面積649.22㎡のうち65㎡について発掘調査を実施した。
調査期間 平成10年8月3日～平成10年8月7日
 - (4) 新堀小鳥向遺跡（センター調査コード セ280）市原市新堀字馬場947-3
調 査 老人福祉施設建設に伴う確認調査。対象面積1,023.8㎡のうち103㎡について発掘調査を実施した。
調査期間 平成10年11月16日～平成10年11月20日
- 4 本書の執筆・編集は、北見一弘が担当し、畑木小谷遺跡の遺物実測について小川浩一・鶴岡英一の協力を得た。
- 5 畑木小谷遺跡から出土した動物遺存体の分析については、早稲田大学考古学資料室の金子浩昌先生及び当センター職員の忍澤成視氏の御教示を賜った。又、同遺跡出土の黄色ガラス玉については東京大学アイソトープ総合センターの小泉好延氏先生の分析を頂いた。分析結果については附章に掲げた。
- 6 本書に使用した地形図は、市原市発行の1：25,000地形図及び1：2,500地形図である。
- 7 遺跡全体図及び遺構平面図に使用した北、断面図に使用したレベルは、畑木小谷遺跡・郡本遺跡（第5次）では遺跡周辺の基準点より座標北・水準を移設したものを使用し、五所居下遺跡・新堀小鳥向遺跡では磁北と遺跡周辺の基準点より水準を移設したものを使用している。
- 8 調査区の設定については、畑木小谷遺跡・郡本遺跡（第5次）は遺跡周辺の基準点における公共座標を使用し、五所居下遺跡・新堀小鳥向遺跡は任意の座標を使用した。
- 9 本書を作成するに当たり、当センター蜂屋孝之氏、小出伸夫氏、田所真氏、（財）君津郡市文化財センター酒巻忠史氏、柏市教育委員会吉田敬氏よりご教示を得た。記して謝意を表す。

凡 例

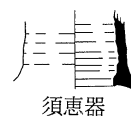
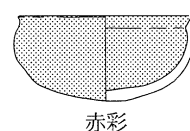
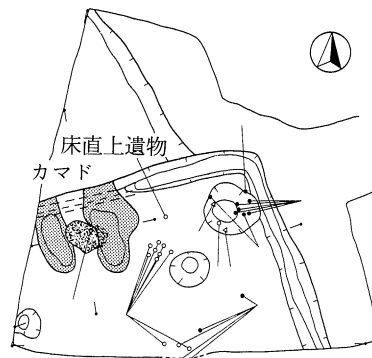
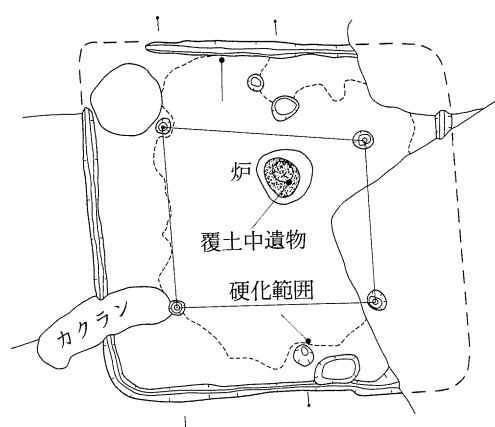
各遺構平面図の縮尺は畑木小谷遺跡では1/80を、郡本遺跡（第5次）では1/60を採用し、その他の図面については各々縮尺を変えてあるので、スケールに従っていただきたい。

土器の実測図の縮尺は基本的には1/3を、土製品・鉄製品は1/1を採用している。

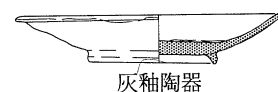
玉類の計量には Shimadzu LIBROR AEL-200 を使用した。

畑木小谷遺跡・郡本遺跡（第5次）の遺構番号については、調査時に付した番号を報告書上では変更しているので以下に記す。

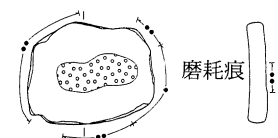
畑木小谷遺跡	039号→1号遺構	007号→2号遺構	014号→3号遺構	089号→4号遺構
	038号→5号遺構	088号→6号遺構	013号→7号遺構	018号→8号遺構
	017号→9号遺構	016号→10号遺構	036号→11号遺構	015号→12号遺構
	012号→13号遺構	004号→14号遺構	003号→15号遺構	SX-1→16号遺構
	011号→17号遺構	035号→18号遺構		
郡本遺跡（第5次）	007号→1号遺構	004号→2号遺構	008号→3号遺構	
	002号→4号遺構	006号→5号遺構	003号→6号遺構	009号→7号遺構
	001号→8号遺構			



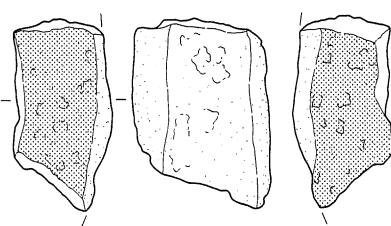
土師器・口径1/2以下



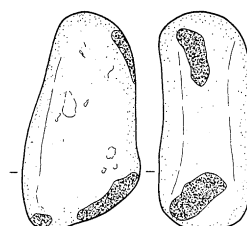
灰釉陶器



研磨痕



研磨面



敲打痕

本文目次

序文

例言

凡例

目次

第1章 調査遺跡の位置と環境	1
第2章 畑木小谷遺跡	3
第3章 郡本遺跡（第5次）	44
第4章 五所居下遺跡	53
第5章 新堀小鳥向遺跡	55
第6章 まとめ	57
附 章 市原市畑木小谷遺跡出土のガラス玉材質分析	58
抄 録	

挿 図 目 次

調査遺跡の位置と環境

第1図 市原市全体図	2	第3図 新堀小鳥向遺跡周辺の 主な遺跡	3
第2図 畑木小谷遺跡周辺の 主な遺跡	3	第4図 郡本遺跡及び五所居下遺跡 周辺の主な遺跡	4

畑木小谷遺跡

第5図 畑木小谷遺跡確認調査 トレンチ配置図	6	第17図 4号遺構実測図と遺物実測図	21
第6図 畑木小谷遺跡調査範囲と 周辺地形	6	第18図 5号遺構実測図と遺物実測図	22
第7図 畑木小谷遺跡本調査範囲 全体図	7	第19図 6号遺構実測図と遺物実測図	22
第8図 縄文時代遺構と遺物（1）	10	第20図 7号遺構実測図と遺物実測図	23
第9図 縄文時代遺構と遺物（2）	11	第21図 7号遺構遺物実測図	24
第10図 縄文時代遺構と遺物（3）	12	第22図 8号遺構実測図と遺物実測図	25
第11図 遺構外出土縄文土器（1）	14	第23図 8号遺構遺物実測図	26
第12図 遺構外出土縄文土器（2）	15	第24図 9号遺構実測図と遺物実測図	27
第13図 遺構外出土石器	17	第25図 10号遺構実測図と遺物実測図	28
第14図 1号遺構実測図と遺物実測図	19	第26図 11号遺構実測図と遺物実測図	28
第15図 2号遺構実測図と遺物実測図	19	第27図 12号遺構実測図と遺物実測図	30
第16図 3号遺構実測図と遺物実測図	21	第28図 12号遺構遺物実測図	31
		第29図 12号遺構遺物実測図	32
		第30図 13号遺構実測図と遺物実測図	33
		第31図 13号遺構遺物実測図	34

第32図	14号遺構実測図と遺物実測図……35	第37図	16号遺構遺物実測図……………40
第33図	15号遺構実測図と遺物実測図……37	第38図	16号遺構玉類実測図（1）………41
第34図	15号遺構周溝内土壌実測図………37	第39図	16号遺構玉類実測図（2）………42
第35図	15号遺構周溝内土壌出土 馬歯実測図……………38	第40図	17号遺構実測図と遺物実測図……43
第36図	16号遺構実測図……………39	第41図	18号遺構実測図……………43
郡本遺跡（第5次）			
第42図	郡本遺跡（第5次）調査範囲と 周辺地形……………44	第47図	4号・5号遺構実測図と 遺物実測図……………49
第43図	郡本遺跡（第5次）全体図………45	第48図	4号遺構遺物実測図……………50
第44図	1号遺構実測図と遺物実測図……46	第49図	6号遺構実測図と遺物実測図……51
第45図	2号遺構実測図と遺物実測図……47	第50図	7号・8号遺構遺物実測図 ……52
第46図	3号遺構実測図と遺物実測図……48	第51図	出土遺物実測図……………52
五所居下遺跡			
第52図	五所居下遺跡調査範囲と 周辺地形……………53	第53図	五所居下遺跡全体図及び 出土遺物実測図……………54
新堀小鳥向遺跡			
第54図	新堀小鳥向遺跡調査範囲と 周辺地形……………55	第55図	新堀小鳥向遺跡全体図及び 出土遺物実測図……………56

表 目 次

第1表	畑木小谷遺跡……………60	第5表	畑木小谷遺跡……………64
第2表	郡本遺跡（5次） ……62	第6表	郡本遺跡（第5次） ……64
第3表	五所居下遺跡……………63	第7表	五所居下遺跡……………64
第4表	新堀小鳥向遺跡……………63	第8表	畑木小谷遺跡第16号遺構 出土玉類観察表……………65

図 版 目 次

図版1	畑木小谷遺跡遺構写真	図版8	畑木小谷遺跡・郡本遺跡（第5次） 遺物写真
図版2	畑木小谷遺跡遺構写真	図版9	畑木小谷遺跡遺物写真
図版3	畑木小谷遺跡遺構写真	図版10	畑木小谷遺跡遺物写真
図版4	郡本遺跡（第5次）遺構写真	図版11	畑木小谷遺跡遺物写真
図版5	五所居下遺跡・新堀小鳥向遺跡 遺構写真	図版12	畑木小谷遺跡遺物写真
図版6	畑木小谷遺跡遺物写真	図版13	郡本遺跡（第5次）遺物写真
図版7	畑木小谷遺跡遺物写真	図版14	五所居下遺跡・新堀小鳥向遺跡 遺物写真

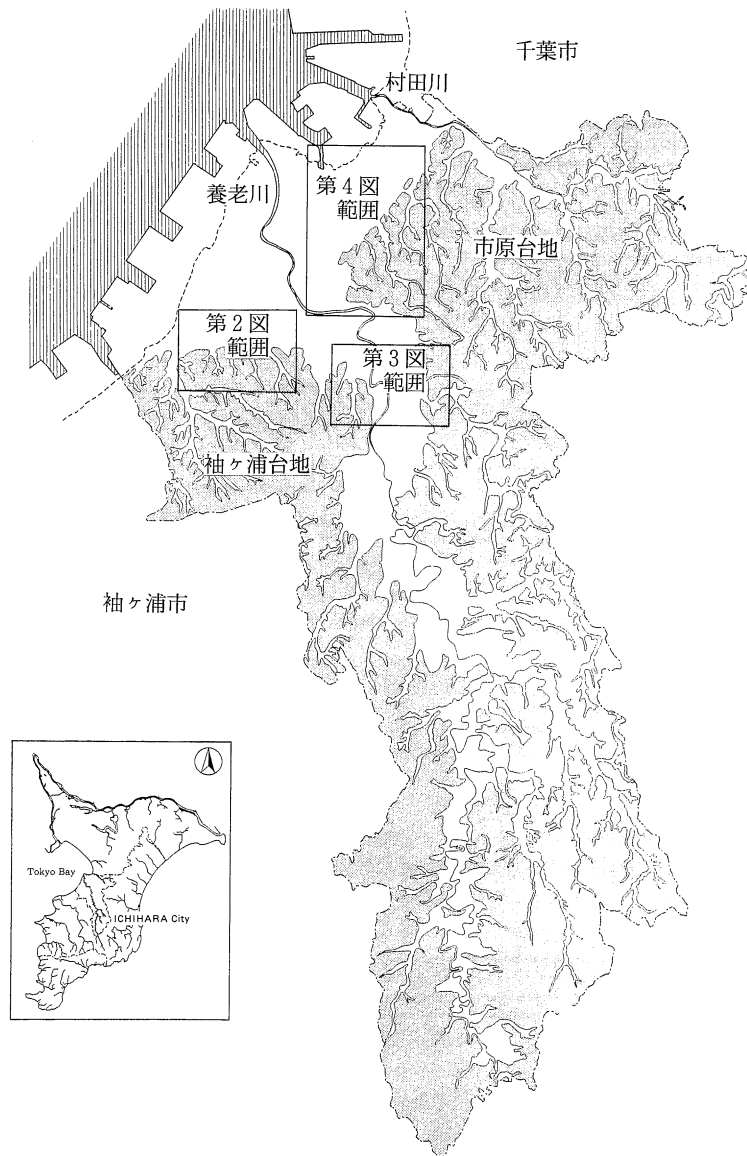
第1章 調査遺跡の位置と環境

畑木小谷遺跡は、東京湾旧海岸線より2.5kmほど南東に入った、養老川下流域を北に望む、南東から標高42mほどの洪積台地上に立地している。台地は海岸線に対し両側を小支谷に挟まれ、舌状に突き出した形を呈する。眼下の沖積平野までは30mの比高差をもつ。当地より西方に1km程の地域は海上国造、もしくはその前進となる集団の奥津城とされる**姉崎古墳群**（4世紀後半～5世紀中葉・6世紀後半～7世紀）が存在している。近年の調査では台地上の遺跡としては、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集落が確認された**毛尻遺跡・原遺跡・六孫王原遺跡**が谷を挟んで西側の台地上に位置し、同台地上に弥生時代後期からの断続的な時期の住居跡が確認された**姉崎東原遺跡・姉崎宮山遺跡**が存在する。椎津川を挟んで西側の台地上には古墳時代後期を中心とした、弥生時代後期から古墳時代前期も含む集落として**椎津茶ノ木遺跡**が認められる。砂堆上の遺跡としては古墳時代中期～後期の古墳群を検出した**妙経寺遺跡**、古墳時代中期の住居跡・古墳を検出した**姉崎上野合遺跡**が展開する。

郡本遺跡（第5次）は市原市北部、東京湾に面した旧海岸線より南東に3km程入った標高20m前後の市原台地と呼ばれる洪積台地上にある、小字名「宮ノ前」に所在する。この地は郡本八幡神社境内に残る大型建物に伴うと見られる礎石の存在等により、古くから市原郡衙推定地として重要視されている。第1次調査では、弥生時代後期・奈良・平安時代の竪穴住居跡を検出し、金銅製帯金具や墨書土器を確認している。第2次調査では弥生時代後期・奈良・平安時代の竪穴住居や、平安時代の掘立柱建物跡、土坑が検出されている。このうち平安時代の竪穴住居の中には平面形態・施設・出土遺物から特殊性が指摘されるものがある。第3次調査では、古墳時代後期・奈良・平安時代の竪穴住居跡と奈良・平安時代まで遡る可能性のある溝状遺構が検出されている。第2次調査の隣接地である第4次調査では、弥生時代後期・奈良・平安時代の竪穴住居跡、竪穴状遺構、古墳時代後期土坑、時期不明土坑・ピットと共に、第2次調査時のものも含め、直線的に配置された掘立柱建物跡等が検出され、出土遺物としては特殊文字を含む墨書土器が出土し、官衙との関連を想起させる。

五所居下遺跡は東京湾に面した旧海岸線から400m程内陸寄り、養老川と村田川に挟まれた沖積地にある砂堆と、海岸線から洪積台地間に広がる海岸平野が入り組む標高2m程の複雑な地形上に立地する。南方300mには小河川の白旗川が北上する。周辺には、同砂堆上南西1.5kmに**君塚クワノ木古墳**を含め3基の古墳がある。南東500mには古墳時代後期の木製品を多量に出土した**五所四反田遺跡**が位置し、同遺跡内を通り、北上する古代道とされる道筋は、区画整理前まで、**飯香岡八幡宮**の柳楯神事の経路であった。北西250mには地名由来ともなる、足利義明の御所跡との伝承が残る地が存在する。

新堀小鳥向遺跡は養老川下流域右岸、標高22m程の河岸段丘上に位置する。同河岸段丘上では、弥生時代中期から古墳時代後期初頭を中心とした竪穴住居跡、古墳時代中期乃至後期初頭の掘立柱建物跡、土坑、竪穴遺構を検出した**叶台遺跡**が西方250mに位置する。北方100mには円墳3基で構成される**新堀馬場古墳群**、南東300から800mには、前方後円墳を含む11基で構成される**武士古墳群**が展開する。



第1図 市原市全体図

第2図

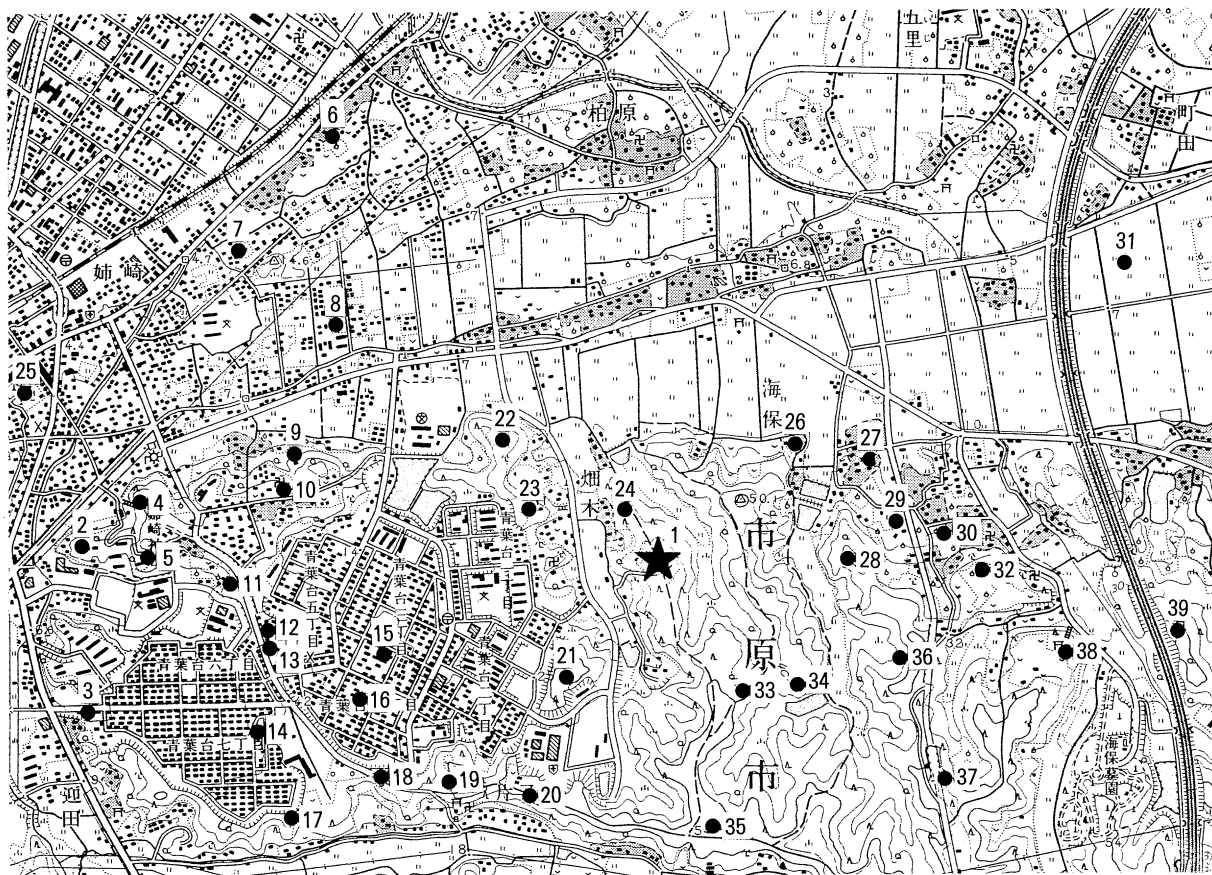
1. 畑木小谷遺跡	9. 姉崎天神山古墳	17. 大孫王原古墳群	25. 妙経寺古墳	33. 竹谷古墳群
2. 姉崎山王山古墳	10. 宝蔵寺古墳群	18. 堰頭古墳	26. 船子遺跡	34. 小谷作古墳群
3. 迎田古墳群	11. 鶴窪古墳	19. 桜台遺跡	27. 内出古墳	35. 海保広作古墳
4. 御社古墳群	12. 原1号墳	20. 見位林遺跡	28. 海保吉谷前古墳	36. 海保山王古墳群
5. 釈迦山古墳	13. 原2号墳	21. 房ノ久保古墳群	29. 小路前古墳	37. 弥宣台古墳群
6. 姉崎新田古墳	14. 毛尻遺跡	22. 姉崎要害遺跡	30. 辺田小路遺跡	38. 海保八幡台古墳群
7. 姉崎二子塚古墳	15. 徳部台古墳	23. 畑木中谷遺跡	31. 佐敷戸古墳	39. 本山遺跡
8. 山新遺跡	16. 木土窪古墳	24. 畑木向古墳群	32. 公家台古墳群	

第3図

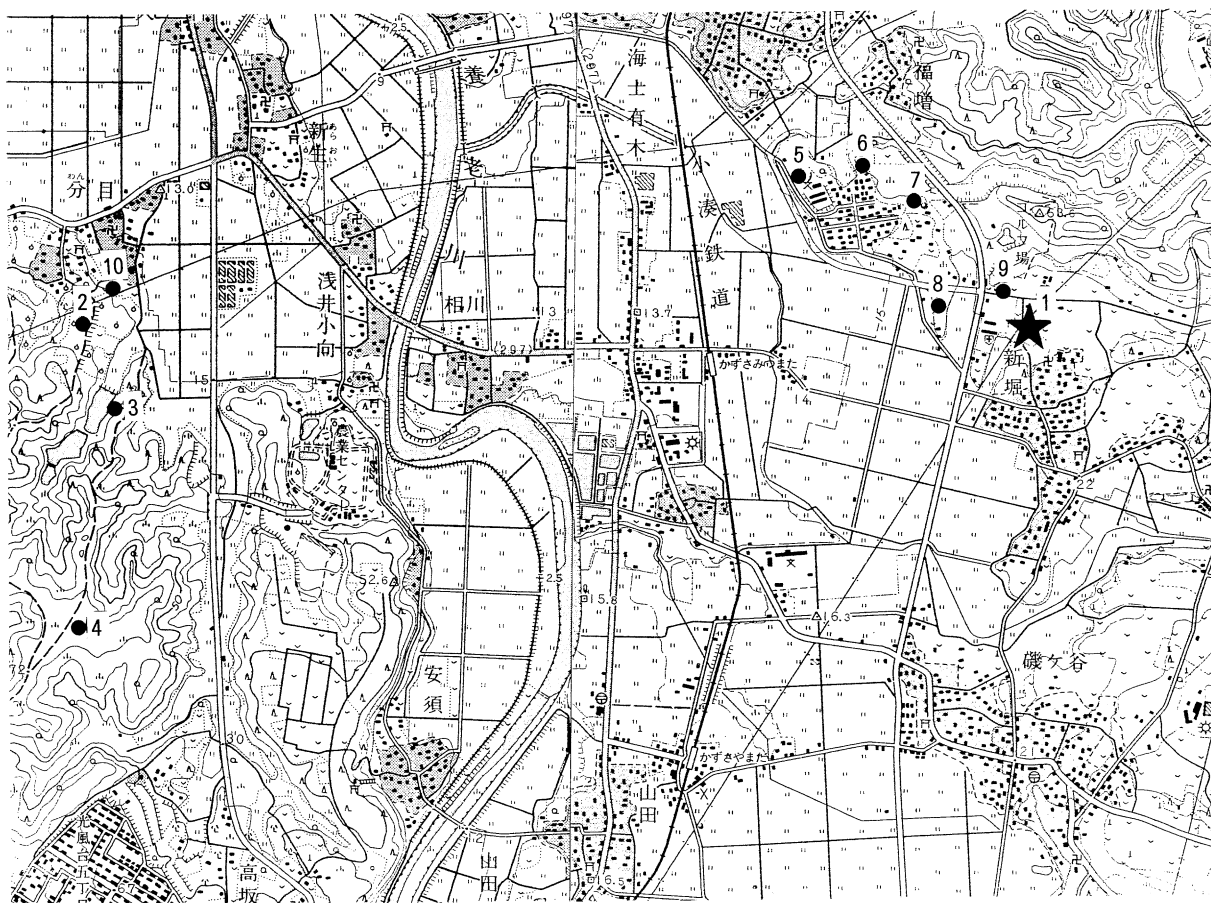
1. 新堀小鳥向遺跡	3. 新生鰻谷古墳群	5. 数郷古墳群	7. 小ノ台遺跡	9. 新堀馬場古墳群
2. 宮原堂谷遺跡	4. 荻原野遺跡	6. 正人塚古墳	8. 叶台遺跡	10. 分目古墳

第4図

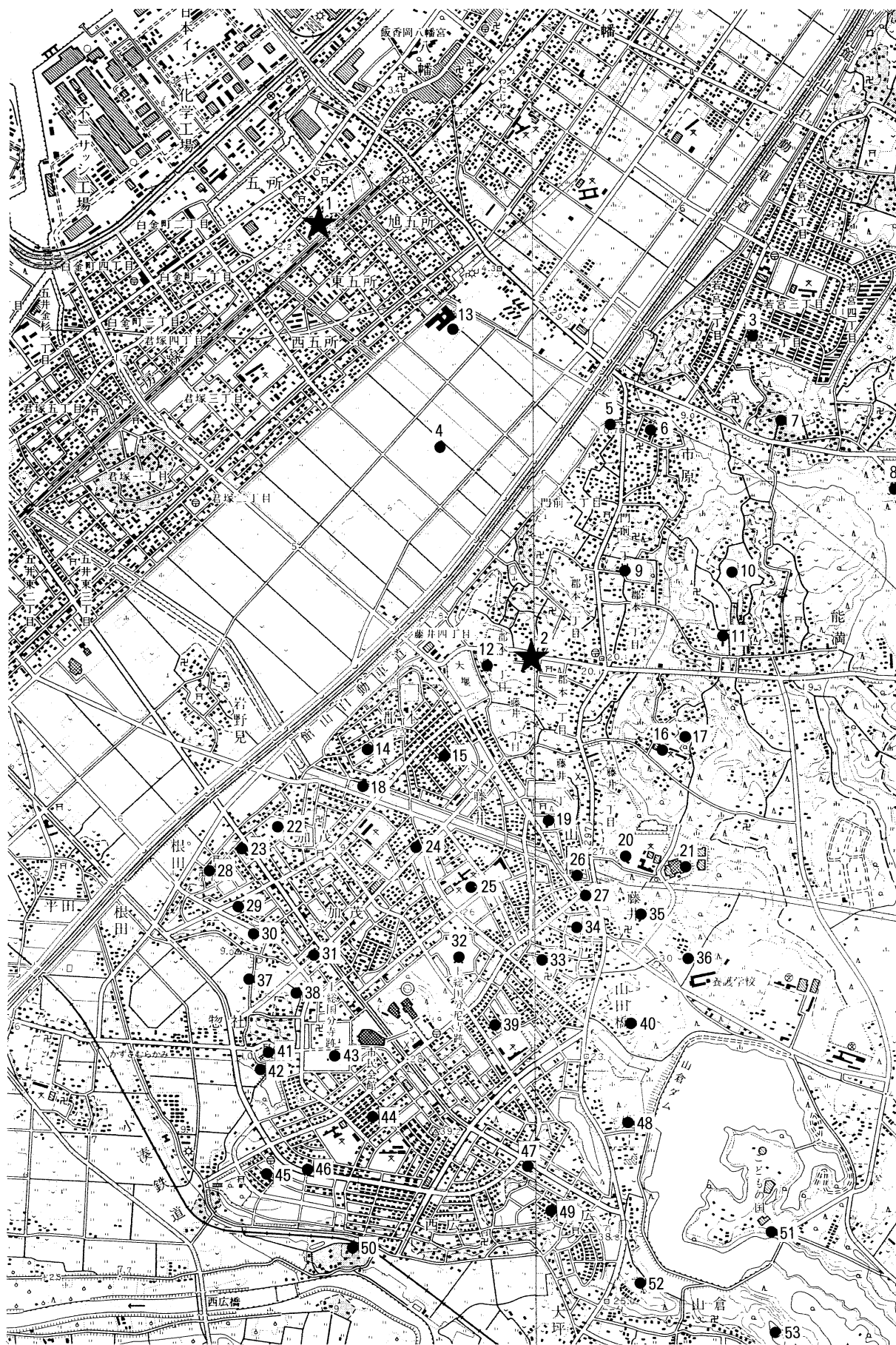
1. 五所居下遺跡	12. 三島台遺跡群	23. 台遺跡	34. 山田橋宮ノ前遺跡	45. 諏訪台古墳群
2. 郡本遺跡(第5次)	13. 五所四反田遺跡	24. 南向原古墳	35. 山田橋祇園遺跡	46. 東間部多古墳群
3. 山木古墳群	14. 郡本向原台古墳群	25. 坊作遺跡	36. 東千草山遺跡	47. 持塚古墳群
4. 市原条里制遺跡	15. 東向原遺跡	26. 稲荷台古墳	37. 中台古墳群	48. 山倉鼠服遺跡
5. 市原城跡	16. 能満遺跡群	27. 稲荷台遺跡	38. 中台遺跡	49. 東古墳群
6. 光善寺廃寺跡	17. 唐崎台遺跡	28. 松山古墳群	39. 南祇園原古墳群	50. 西広小谷古墳群
7. 山木遺跡群	18. 掘込古墳	29. 御林跡遺跡	40. 山田橋大塚台古墳	51. 孟地遺跡
8. 能満白幡台遺跡	19. 山田橋稲荷台遺跡	30. 辺田古墳群	41. 本郷古墳群	52. 山倉八郎作古墳群
9. 古甲遺跡	20. 西千草台古墳	31. 長平台古墳群	42. 神門古墳群	53. 棒坂古墳
10. 姥神社	21. 千草山遺跡	32. 上総国分尼寺跡	43. 上総国分僧寺跡	
11. 府中日吉神社	22. 西谷古墳群	33. 山田橋井戸久保遺跡	44. 蛇谷遺跡	



第2図 畑木小谷遺跡周辺の主な遺跡



第3図 新堀小鳥向遺跡周辺の主な遺跡



第4図 郡本遺跡及び五所居下遺跡周辺の主な遺跡

第2章 畑木小谷遺跡

第1節 調査方法

畑木小谷遺跡は、平成8年に確認調査が実施され、その成果をふまえ平成9年度に1.160㎡を対象に補助金分として本調査を実施した。なお、図7のとおり、西側の隣地1.190㎡を事業者負担分として調査しているため、総面積は2.350㎡となる。今回は補助対象分について報告する。調査は、遺跡周辺の基準点をもとにして公共座標を用い、20m×20mの大グリッドを設定し、南北軸を北から1、2、3…東西軸を東からA、B、C…とナンバリングしている。遺構外の遺物の取り上げ等には、2m×2mの小グリッドを用いた。

第2節 縄文時代の遺構と遺物

調査の結果検出された遺構は、縄文時代早期炉穴、陥し穴、弥生時代後期～古墳時代中期の竪穴住居跡、古墳時代中期～後期の古墳、またその周溝内には馬を埋葬した土坑、周溝を伴わない木棺直葬と考えられる古墳時代後期の土壇などが検出されている。このほか、本報告では各遺構の詳細としては取り上げていないが、調査区東側を南北方向に平行にのびる溝状遺構が2条確認されている。幅60cm～70cm、深さ20cmほどの規模で、断面形態は明瞭な底面をもたずにだらりと立ち上がる半楕円形を呈する。第7図で図示した溝状遺構は15号遺構を切っており時期を判断する遺物に欠けているが、覆土の様子から中世以前と思われる。もう一方の溝状遺構は図中に示していないが、15号遺構の周溝覆土内でのみ確認できた。覆土中層に宝永テフラが認められた。両遺構とも硬化面が確認でき、道として使用されたと考える。調査区西側境界と平行に、北側の低地より当台地上に上って市原市牛久方面に続くという道が現在も残っており、近世以前にはこれらの遺構が道として機能していた可能性がある。

1号炉穴（第8図）

C5グリッドに位置する。他遺構との切り合いはない。平面形態は長楕円形を呈する。1.34m×0.66m、深さ10cmを測る。94cm×64cmの不整形の炉が検出されている。焼土が堆積しているのみで、焼き締まった面は確認できなかった。底面においては硬化面は確認できない。

土 層 1層暗褐色土、2層暗褐色土でローム粒少量含む、3層暗褐色土で焼土粒微量含む、4層暗赤褐色土。

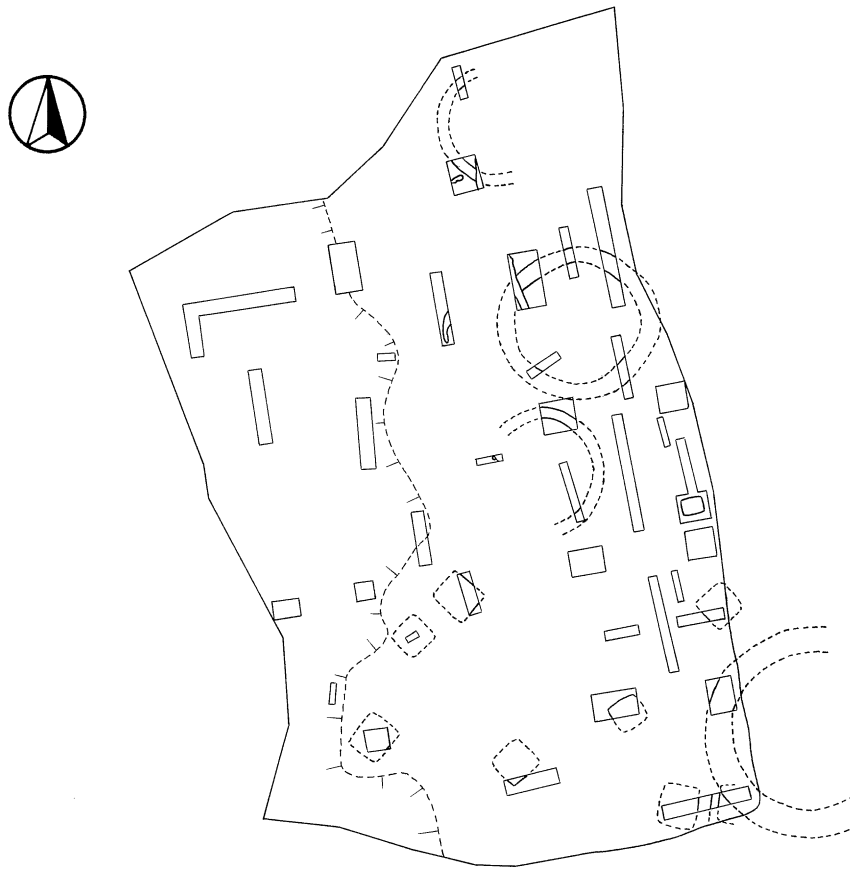
2号炉穴（第8図）

C5～6グリッドに位置する。他遺構の切り合いはない。平面形態は不整形な長楕円形を呈する。2.38m×1.08m、深さ14cmを測る。直径74cm・66cmの2つの炉が検出されている。新旧関係は不明。炉は焼きしまった面を持たない。硬化面は確認できない。

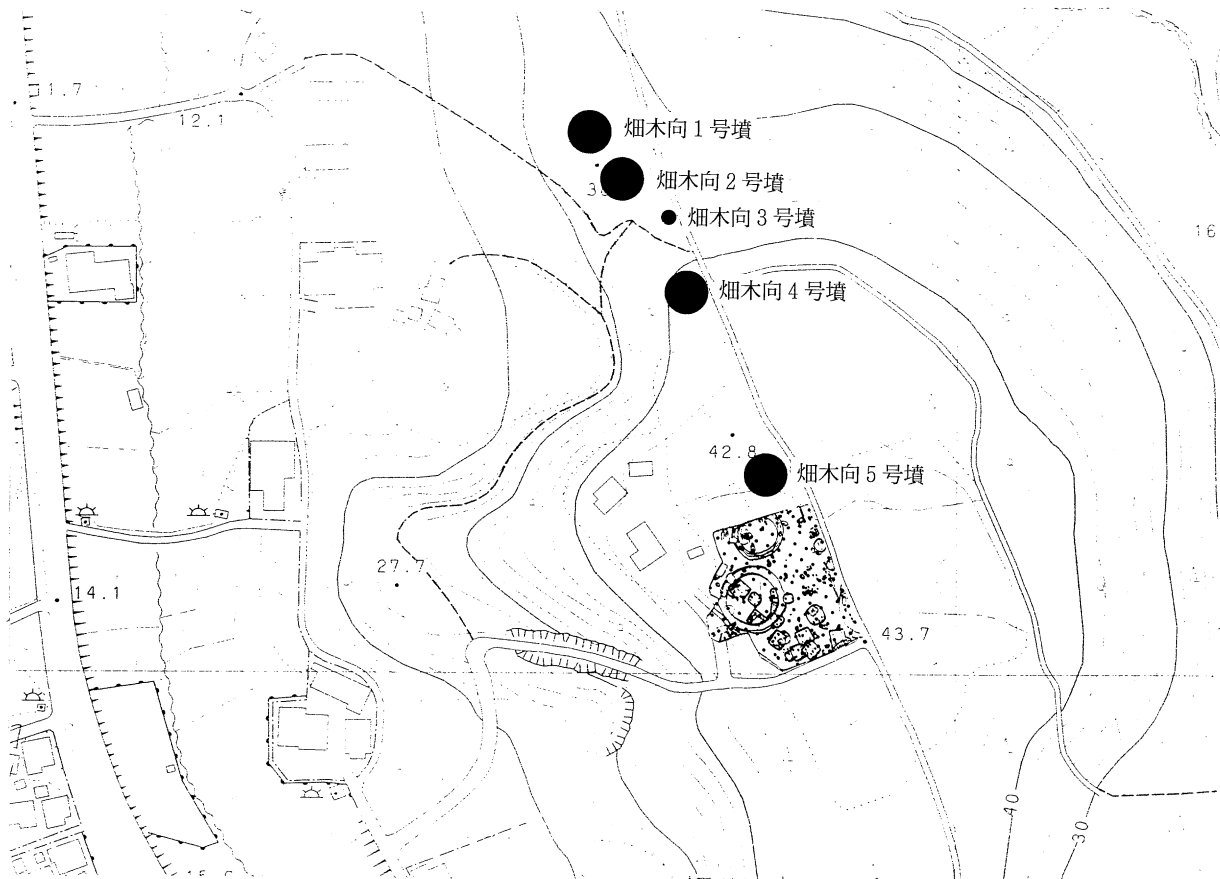
土 層 1層暗褐色土、2層暗褐色土でローム粒少量含む、3層黒褐色土、4層暗赤褐色土、5層暗黄褐色土、6層暗褐色土でローム粒多く含む。

3号炉穴（第8図）

D7グリッドに位置する。他遺構との切り合いはない。南東側で攪乱を受ける。平面形態は、不整形な長楕円形で2.10m×0.80m、深さ12cmを測る。30cm×20cmの炉と直径15cmの焼土塊2カ所が検出



第5図 畑木小谷遺跡確認調査トレンチ配置図 (1/1,000)



第6図 畑木小谷遺跡調査範囲と周辺地形 (1/2,500)

されている。炉は焼き締まった面を持たない。焼土塊は底よりやや浮いて検出された。覆土中にも焼土粒が多く混入していた。底面において硬化面は確認できなかった。

4号炉穴（第8図）

D 7 グリッドに位置する。1号陥し穴と長軸を直交させて切り合う。平面形態は長楕円形であろう。1.15m×1.00m、深さ14cmを測る。60×43cmの炉が検出されている。焼土を除去すると焼きしまった面があり、中央がややくぼむ。底面において硬化面は確認できなかった。

土 層 1層暗褐色土、2層暗赤褐色土。

1号陥し穴（第8図）

D 7 グリッドに位置する。4号炉穴と長軸を直交させて切り合う。平面形態は楕円形。底面の形態はやや方形に近い。1.35m×0.98m、深さ46cmを測る。底面中央よりやや西寄りに直径28cm、深さ20cmほどのピットがある。土層の観察により4号炉穴底部延長線上に若干土のしまりが確認されたため、本遺構がより古いと判断した。

土 層 3層暗褐色土でローム粒多く含む、4層暗黄褐色土。

5号炉穴（第9図）

C 6 グリッドに位置する。北側で攪乱を受ける。平面形態は不整形な楕円形を呈する。1.87m×1.04m、深さ6cmを測る。不整形な楕円形の炉が2カ所確認されている。70cm×57cmと53cm×34cmを測る。底面における硬化面は確認されていない。

土 層 1層暗褐色土、2層暗赤褐色土、3層暗褐色土でローム粒少量含む。

6号炉穴（第9図）

D 7 グリッドに位置する。東側を8号住居に切られる。平面形態は楕円形であろう。深さ14cmを測る。炉は壁面から底面にかけて位置し、直径64cmを測る。焼き締まりは確認されていない。底面の硬化部位は確認できない。

7号炉穴（第9図）

D 7 グリッドに位置し、遺構の南側は調査区外となる。平面形態は長楕円形を呈すると思われる。検出状態では1.60m×0.95m、深さ22cmを測る。炉は底面の南側に位置し、70×40cmの不整楕円形を呈する。焼土下層に焼き締まりが確認された。やや底面より窪む。底面においては、北側に深さ30cm、24cm×31cmを測る楕円形ピットがあり、硬化部位は確認されていない。

8号炉穴（第9図）

D 5 グリッドに位置する。平面形態は不整形形で1.08m×0.94m、深さ19cmを測る。炉は掘込みのほぼ中央に位置し、58cm×38cmの規模を持つ。焼き締まりはない。底面における硬化面は確認されていない。

土 層 1層暗褐色土、2層暗褐色土でロームブロック少量含む、3層暗褐色土でローム粒少量含む、4層暗褐色土で焼土粒微量含む、5層暗赤褐色土。

9号炉穴（第9図）

D 7 グリッドに位置する。平面形態は楕円形で1.60m×0.91m、深さ17cmを測る。炉は底面北側に位置し、51cm×43cmの規模で焼き締まりは確認されていない。底面における硬化面は検出されていない。

土 層 1 層暗褐色土、2 層暗褐色土でローム粒少量含む、3 層暗褐色土で焼土粒微量含む、4 層暗黄褐色土、5 暗褐色土で焼土粒多く含む。

10号炉穴（第10図）

D 7 グリッドに位置する。中央と南寄りに攪乱を受ける。平面形態は不整楕円形。2.65m×2.48m、深さ 9 cmを測る。炉は85cm×57cmの楕円形呈する。焼き締まりは認められない。底面における硬化面は確認できない。

土 層 1 層暗褐色土で焼土粒微量含む、2 層暗赤褐色土。

11号炉穴（第10図）

D 7 グリッドに位置する。平面形態は不整楕円形を呈する。1.58m×0.85m、深さ15cmを測る。炉は底面北側に位置し、68cm×47cmの楕円形を呈する。焼き締まりは確認できない。底面は南側が炉よりも低くなる。硬化面は認められない。

土 層 1 層暗褐色土で焼土粒微量含む、2 層暗赤褐色土。

12号炉穴（第10図）

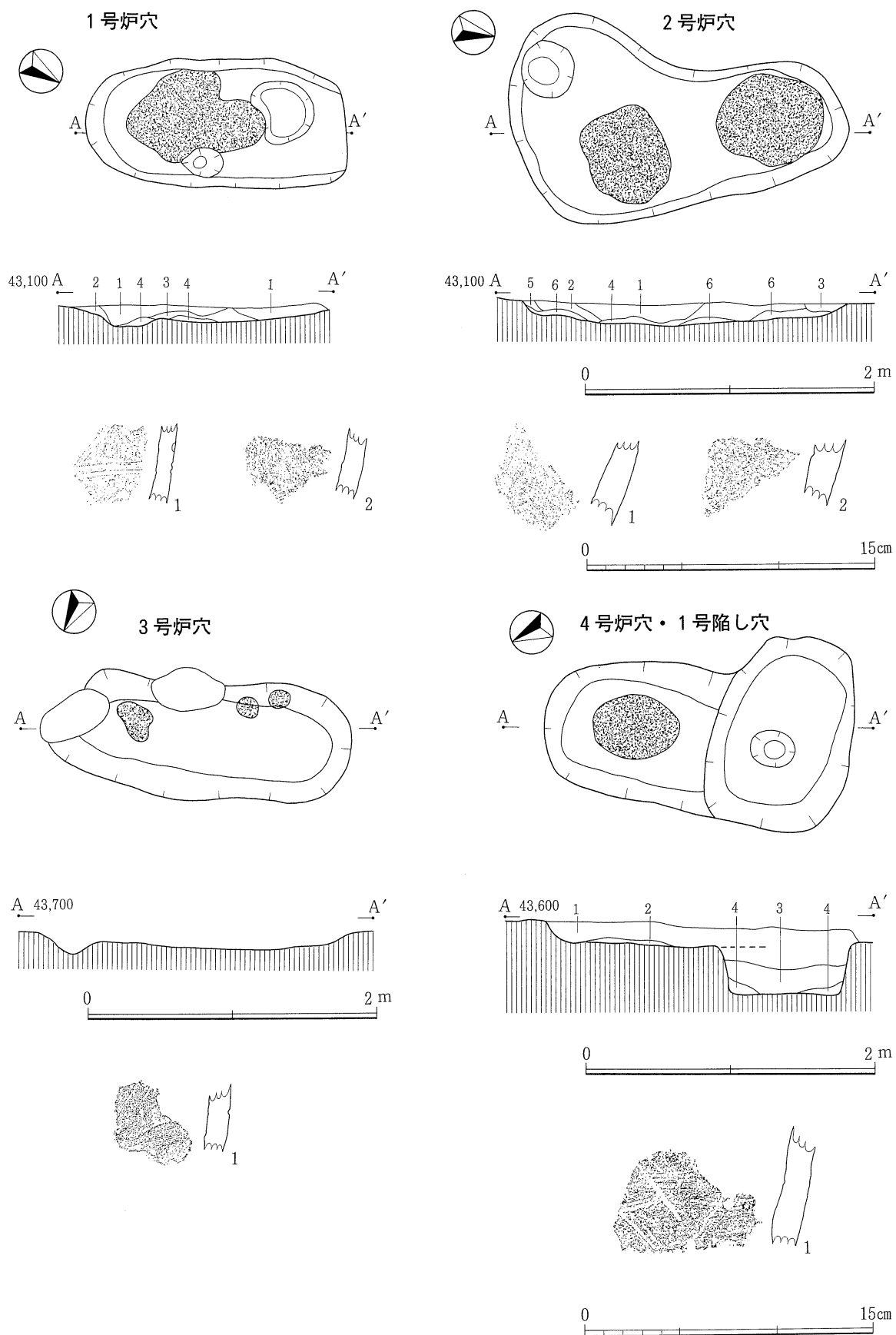
D 5 グリッドに位置する。平面形態は長楕円形を呈する。1.50m×0.76m、深さ20cmを測る。炉は34cm×23cmのものが、遺構南側に壁面から底面にかけて位置する。焼き締まりは確認できない。底面における硬化部位は認められない。

土 層 1 層暗褐色土でローム粒少量含む、2 層暗黄褐色土、3 層暗褐色土で焼土粒微量含む、4 層暗赤褐色土。

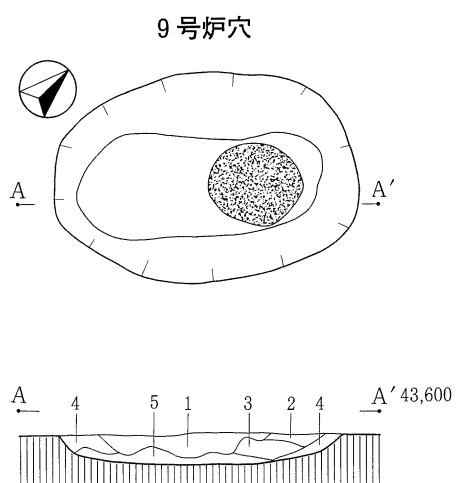
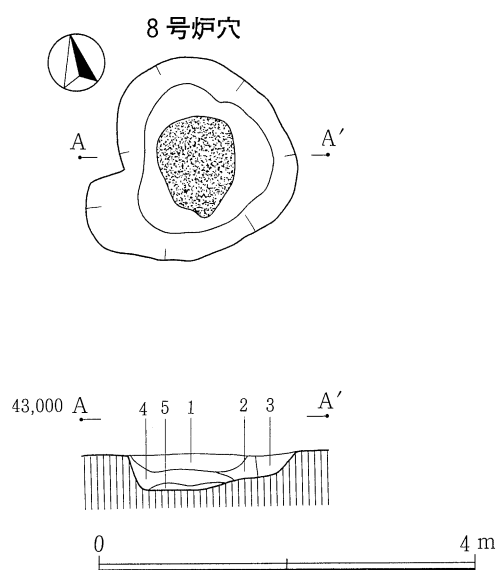
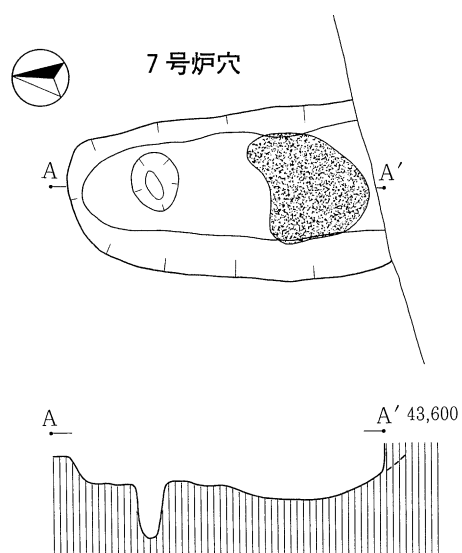
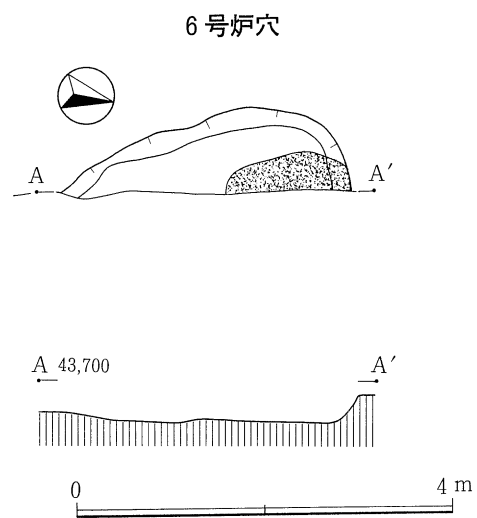
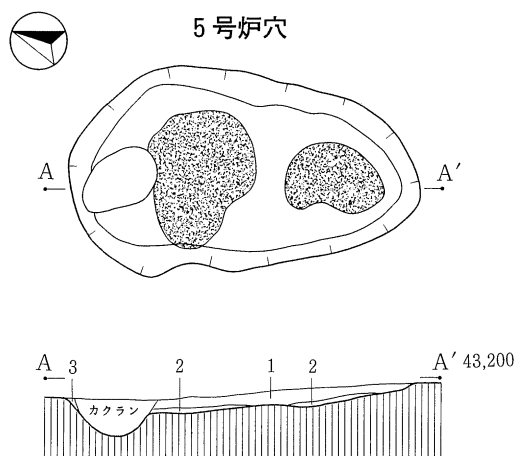
13号炉穴（第10図）

D 5 グリッドに位置する。平面形態は不整長楕円形を呈する。2.70m×1.55m、深さ21cmを測る。炉は不整長楕円形を呈し、107cm×37cmを測り、遺構西側の壁面から底面にかけて位置する。底面における硬化面は認められない。

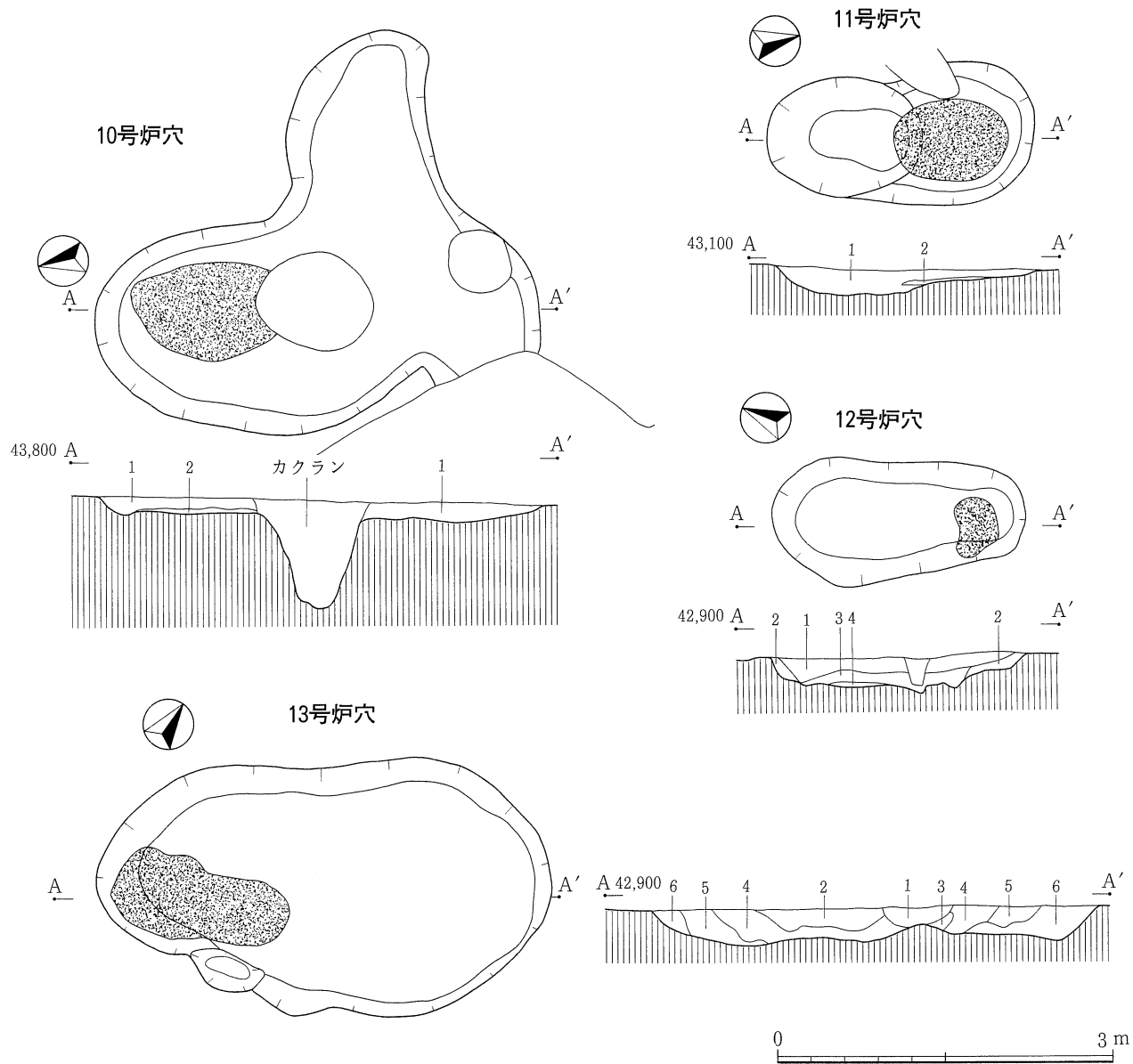
土 層 1 層暗褐色土、2 層暗褐色土でローム粒少量含む、3 ロームブロック、4 層暗褐色土でローム粒多く含む、5 層暗褐色土でロームブロック少量含む。



第8図 縄文時代遺構と遺物（1）



第9図 縄文時代遺構と遺物（2）



第10図 縄文時代遺構と遺物 (3)

第3節 遺構外出土の縄文時代遺物

概 要

発掘調査によって出土した縄文時代の遺物は、量的には少なかった。このうち、土器は早期の土器に限られており、天箱2箱程度の少量であった。この他の遺物は、有舌尖頭器、石鏃、礫斧、敲石、磨石、石皿などが出土している。今回の調査によって検出された縄文時代の明確な遺構はいわゆる炉穴に限られ、時期は早期に位置づけられることから、包含層などから出土した縄文土器の様相が遺構の状況に対応しているものと判断される。縄文時代以外の石器としては、尖頭器の基部と思われるものが1点、古墳時代以降のものと思われる砥石が出土している。本来なら項を分けるべきところだが、縄文時代の石器とともに一括して記すことにしたい。

縄文土器

出土した縄文土器は早期に限られ、型式は撚糸文式、三戸式、田戸下層式、田戸上層式、野島式である。量的に少ないため、各型式ごとに説明していく程度にとどめておきたい。

撚糸文式土器（第11図 1～11）

撚糸文式土器の出土量は少なく、器面が磨滅し撚糸原体の種類がわかりにくいものが多いが、ほとんどが間隔のあいたRの撚糸が施文されている。1～4の口唇部はやや外反するが肥厚していない。撚糸は口唇部から施文されている。掲載しなかった他の口唇部破片も肥厚したものはなく、調査によって出土した撚糸文式はみな夏島式に限定されていると思われる。11の底部も丸みがなく、やや尖っていることから夏島式として判断することができよう。

三戸式土器（第11図 12）

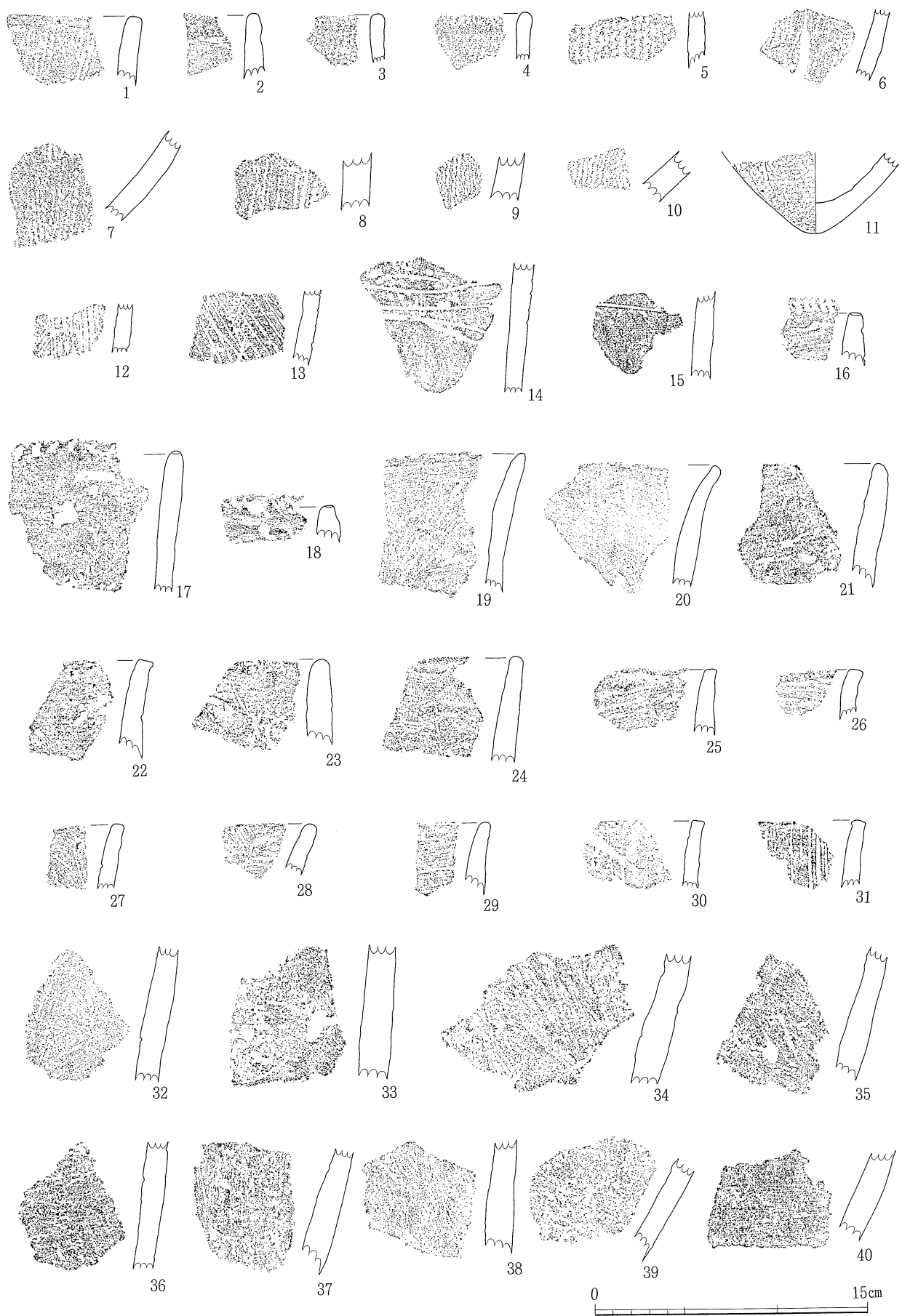
三戸式土器としたものは掲載した1点のみである。細い垂下する条線に斜方向の条線が加わっている。焼成は固く、胎土には石英砂粒が多く混入している。繊維は混入していない。あるいは田戸下層式の古い段階に含まれるかもしれない。

田戸下層式土器（第11図 13）

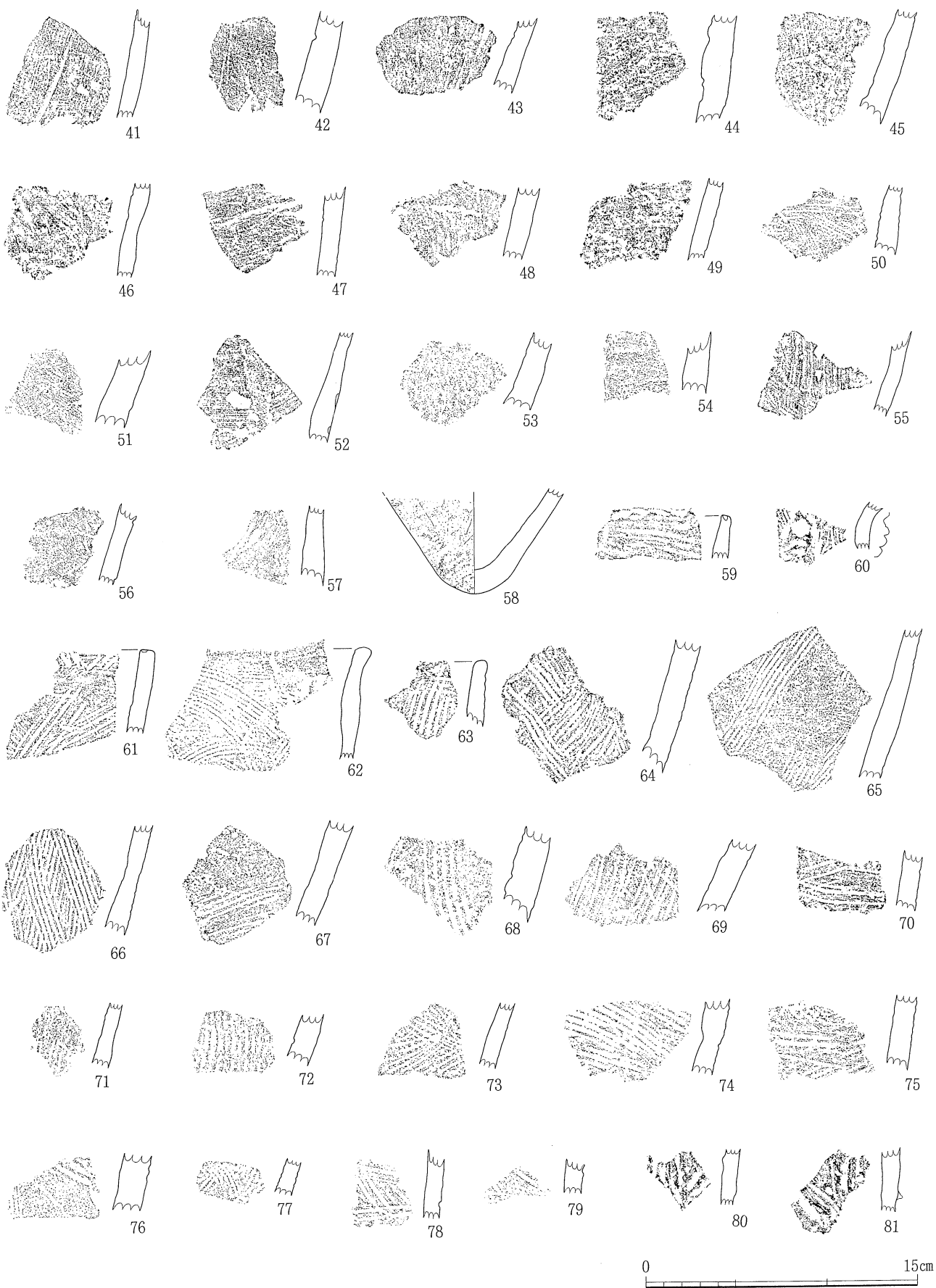
田戸下層式土器も三戸式と同じく量的には少なく、数点出土したにすぎない。掲載したのは1点のみである。13は斜向する細沈線が施されている。胎土には砂粒がほとんど混入しておらず繊維は微量入る。焼成はややあまい。

田戸上層式土器（第11・12図 14～79）

調査によって出土した早期の土器で最も多かったのが田戸上層式である。典型的な田戸上層の文様を伴う、いわゆる有文土器の量は至って少ない。逆に、口唇部に若干の文様を伴うだけの無文土器が主体を占めている。無文土器の胎土には繊維をやや多く混入するものが目立つ。有文土器が微量で無文土器が主体を占めるのは、田戸上層式土器でも後葉の土器様相を示していると考えられる。14・15は沈線による文様を伴う例である。2点とも繊維を混入していない。14は横位の沈線がやや雑に施されている。15は胴部下半の破片である。16以降はいわゆる無文土器である。16～18は、口唇部に連続するキザミが施されている。内外面ともに擦痕状の調整痕を伴っている。19～31は口縁部にまったく文様を伴っていない例である。やや外反し、口唇部の仕上げはあまり丁寧ではない。丸みのあるもの、



第11図 遺構外出土縄文土器（1）



第12図 遺構外出土縄文土器（2）

角頭状のものなどがある。31に見られる数条の沈線は文様ではなく器面調整に使った繊維束に茎状のものが入っていたためと思われる。32～58はすべて擦痕状の調整痕を伴う胴部破片ないしは底部である。調整方向は一定していない。58の尖底部は胴部の厚みとあまり変わらない。59～79は貝殻条痕を伴うものである。59は口端に押引の刺突文を伴っている。60は垂下する隆帯を伴う。隆帯には連続する刺突が施されている。61は口端に浅いキザミを伴う。61～79までの貝殻条痕は斜格子状のものが多い。

野島式土器（第12図 80・81）

野島式土器は図示した2点のみであった。同一個体と思われ、口縁部に近い部分と思われる。先端が尖り気味の微隆帯を縦と斜め方向に貼り付けている。胎土には繊維を若干混入するものの砂粒を混入せず、良好である。

石 器（第13図）

石器の出土点数は土器と同じく少なかった。1は有舌尖頭器である。先端と基部を欠いている。側縁の調整はやや粗い。残存長は3.48cm、最大幅1.60cm、最大厚0.49cm、重量3.0gである。石材は安山岩である。D7-20 グリッド出土。2は尖頭器の基部と思われる。片面に自然面を残している。残存長は2.01cm、最大幅2.87cm、最大厚0.69g、重量3.8gである。石材は安山岩である。15号遺構の覆土から出土。3は石鏃である。基部の抉りは浅い。最大長2.38cm、最大幅1.67cm、最大厚0.46cm、重量1.3gである。石材はチャートである。4は礫石斧または礫斧と呼ばれる早期特有の石器である。小振りの円礫の一端を加工し、刃部としている。最大長4.67cm、最大幅3.54cm、最大厚1.38cm、重量29.9gである。石材はチャートである。9号遺構の覆土から出土。5は敲石の破片である。石材は砂岩である。13号遺構の覆土から出土。重量77.9gである。6・7も敲石である。6は敲打痕跡を3カ所、7は2カ所伴っている。6の石材はチャートで、重量192gである。9号遺構の覆土から出土。7の石材はチャートで、重量199.1gである。14遺構の覆土から出土。8は石皿の破片と思われる。両面が研磨面となっている。石材は安山岩で、重量163.0gである。9は磨石である。両面が研磨面となっている。石材は砂岩で、重量90.2gである。16号遺構の覆土から出土。10は砥石と思われ、古墳時代以降のものと思われる。ほぼ全面に研磨面があり、どの面も若干湾曲している。石材は軽石で、重量185.9gである。15号遺構の覆土から出土。



第13図 遺構外出土石器

第4節 弥生時代の遺構と遺物

1号遺構（第14図）

遺 構 D5グリッドに位置する。住居北側及び西側の一部で壁を、炉南側と東側で床面を掘り込む攪乱を受けている。遺構の切り合いはない。平面形態は、東側が調査区外となるが不整楕円形を呈するであろう。規模は4.5m×4.2mを測り、主軸方位はN-32°-W。壁の立ち上がりは緩やかで確認面から床面まで16cmである。柱穴は検出されていない。住居北側中央より80cm×36cmの炉が備えられ、周溝は全周すると考えられる。P5は底面が住居中心方向にやや寄っており、深さは36cm。床面は炉とP5周辺で部分的に硬化がみられるのみである。覆土は攪乱を激しく受けている。

遺 物 1壁立ち上がり付近で胴部下半を欠損したまま、正位な状態で出土した。2・3・4は床直上より出土している。5・6は覆土中の遺物である。

土 層 1層暗黄褐色土、2層暗褐色土で焼土粒微量含む、3層暗褐色土でローム粒少量含む、4層暗褐色土でロームブロック少量含む。

2号遺構（第15図）

遺 構 D6グリッドに位置する。切り合いはない。住居中央南側で床面を掘り込む攪乱が認められる。平面形態は東側が調査区外となるが、不整楕円形を呈するであろう。主軸方位はN-40°-W。直径3.76mを測る。床面は平坦で、壁際を除くほぼ全面で硬化している。柱穴は検出されていない。P1は入り口施設に伴うピットで、深さ36cmを測り、底部を住居中央に向けている。P2は40cm×30cm、ほぼ円形の平面形態の貯蔵穴と考える。住居中央北側に80cm×70cmの炉が備えられている。周溝は認められない。壁は緩やかに立ち上がり、床からの高さは18cmを測る。覆土はなだらかにレンズ状を成し、自然堆積を想定させる。

遺 物 1・2・3は覆土中の遺物である。

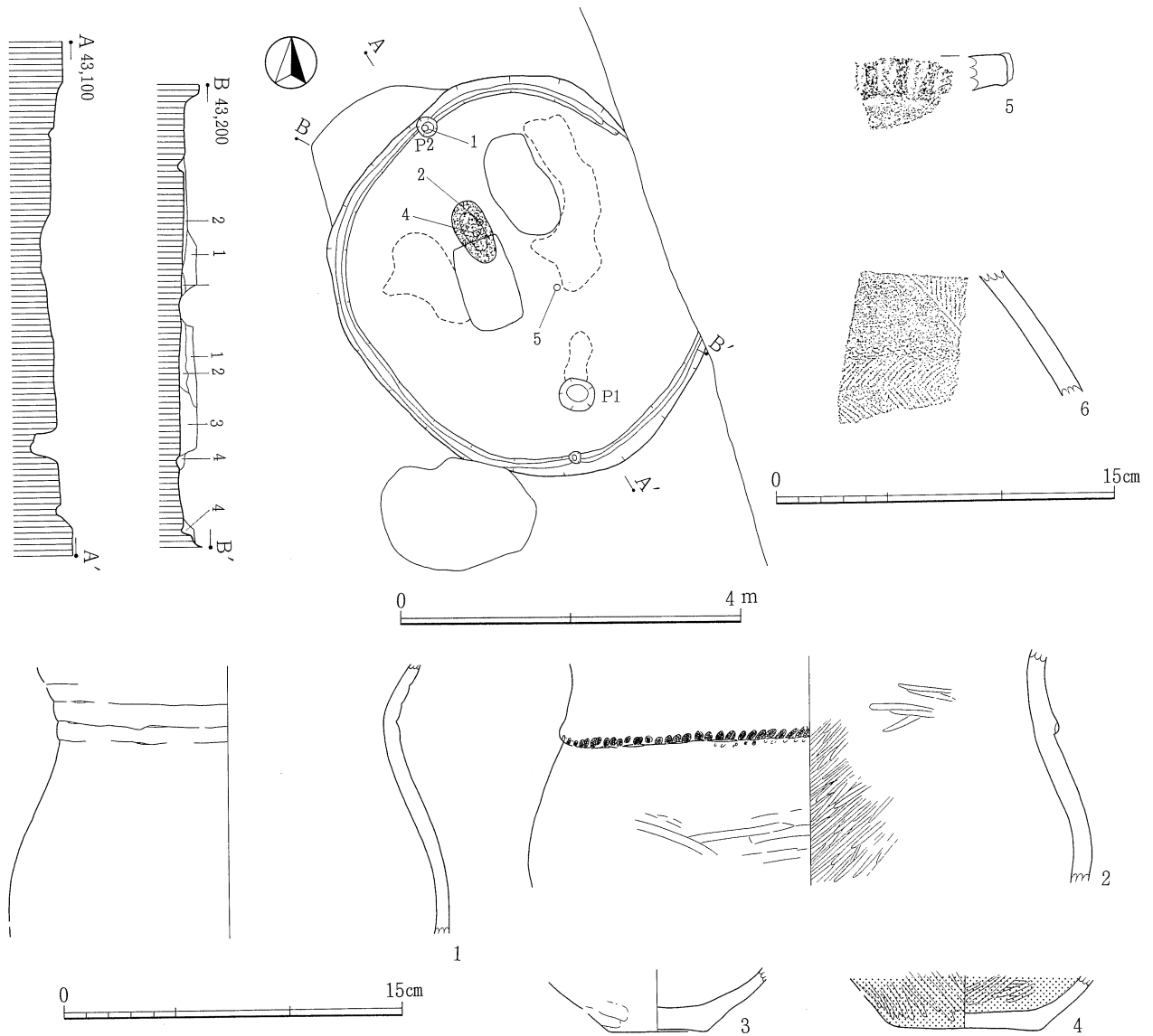
土 層 1層暗褐色土、2層暗褐色土でローム粒少量含む、3層暗褐色土でローム粒多く含む、4層暗黄褐色土でローム粒少量含む、5層暗黄褐色土でロームブロック少量含む、6層暗黄褐色土、7層暗赤褐色土、8層暗赤褐色土で焼土粒緻密、9層暗黄褐色土で被熱により焼き締まる。

3号遺構（第16図）

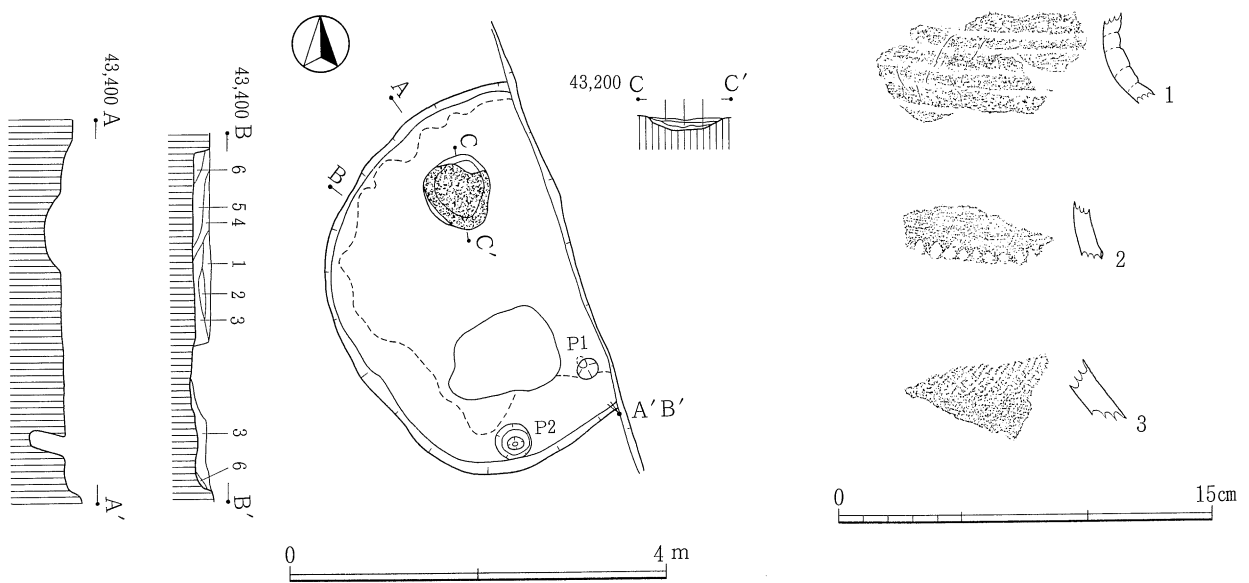
遺 構 E7グリッドに位置する。住居の北側ほぼ半分を15号遺構（古墳周溝）によって削られている。また、住居南側は調査区外となるが、平面形態は検出部位から隅丸方形と思われる。主軸方位は炉が失われていることから計測できないが、座標北よりもやや東側に主軸を持つ形態を示す。4号遺構の主軸方位に類似すると思われる。短径は3.86m。床面は、P1より北側、住居中央に硬化面があり、ほぼ平坦である。柱穴は検出されていない。施設としてはP2とした貯蔵穴の一部を認められるにとどまる。周溝は認められない。壁は緩やかに立ち上がり、12cmを測る。覆土はレンズ状に堆積し、自然堆積を想定する。

遺 物 1・2・3・4全て覆土上層からの出土である。

土 層 1層暗黄褐色土でローム粒少量含む、2層暗黄褐色土でローム粒多く含む、3層暗黄褐色土で焼土粒微量含む、4層暗黄褐色土。



第14図 1号遺構実測図と遺物実測図



第15図 2号遺構実測図と遺物実測図

4号遺構（第17図）

遺 構 D7グリッドに位置する。住居南側一部以外は12号遺構（古墳時代中期の竪穴住居）の床下から検出された。平面形態は隅丸方形であり、3.88m×3.20mの規模を持つ。主軸方位はN-7°-E。床面は一樣に締まりはなく、図示した硬化面は、相対的にやや締まっている程度に止まる。施設としては住居北側中央に70cm×60cmの炉、P2・3とした不整楕円形の貯蔵穴が検出されている。周溝、柱穴は認められない。P1の入り口ピット以外（P7は12号遺構支柱穴）、P4～P6は住居の上屋構造に関与したかは不明である。壁は垂直に近い角度を持って立ち上がり、5cm～13cmの高さを測る。覆土はそのほとんどを12号遺構により削り取られていたため、堆積状況は不明。

遺 物 1は貯蔵穴覆土中層より検出された。2・3は住居覆土中の遺物である。

5号遺構（第18図）

遺 構 C6～D6グリッドに位置する。円墳周溝に西側を切られる。平面形態は不整楕円形もしくはやや鰻の張った小判形といったところか。短径は3.44mを測る。主軸方位はN-88°-Wで、今回報告分にとどまらず、本調査で検出された弥生時代後期としたものの中では、唯一例外的な主軸の振れを示している。床面は極めて平坦で、一樣に堅緻である。住居中央西寄りに73cm×65cmの炉が検出されている。周溝は削平された西側以外は全周する。P1は入り口施設に伴うピット。P2は貯蔵穴としてはやや小ぶりか。壁はやや広がりながらも垂直に近い角度で40cm～46cmの高さを測る。覆土はほぼレンズ状に堆積している。

遺 物 5は鉄製の穂摘具である。図示したように床直上から出土しているが、現状では本遺構に伴うと考えるには疑問が残る。

土 層 1層暗褐色土、2層暗褐色土でローム粒少量含む、3層暗黄褐色土でローム粒多く含む、4層暗黄褐色土でロームブロック少量含む、5層暗黄褐色土、6層ロームブロック、7層攪乱。

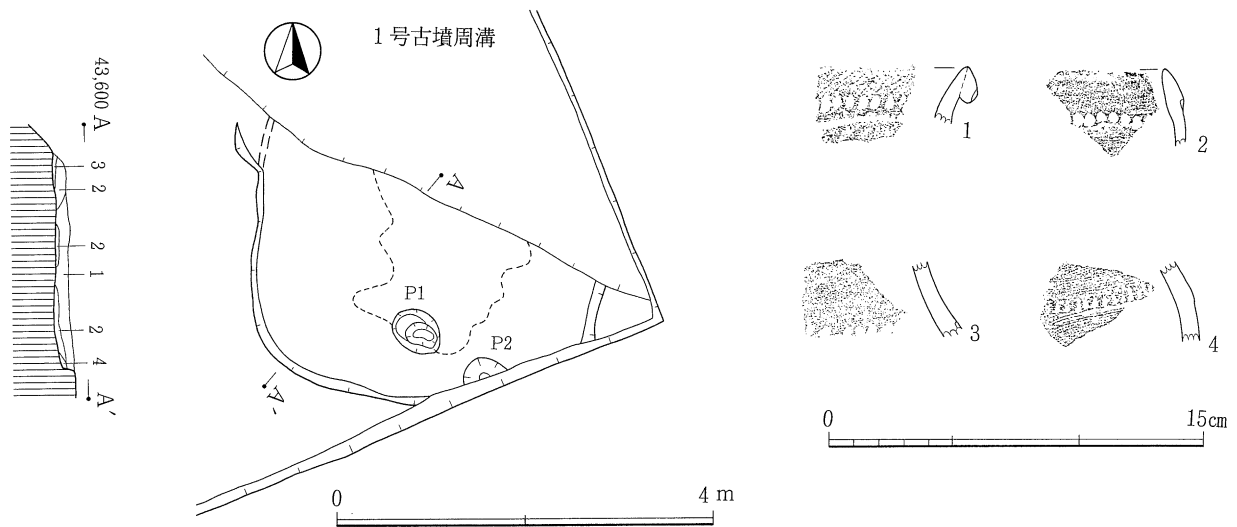
6号遺構（第19図）

遺 構 D7～E7グリッドに位置する。住居北側及び西側を8号・11号遺構（古墳時代前期）に切られ、中央を18号遺構（古墳周溝）によって床面まで掘り込まれている。遺構の南側2/3程度は調査区外に展開すると考えられる。このようなことから平面形態は断定し得ないが、僅かな遺存部分と支柱穴、炉の位置などから、やや胴長の隅丸方形を成すのではないかと考えられる。主軸方位は支柱穴（P1・P2）を結ぶラインに直交するラインを主軸と仮定すると、N-19°-Wである。床面は残存部位においては一樣に平坦で堅緻である。炉は18号遺構により削られているが、その底面とみられる焼土の集中する地点が確認できた。周溝は認められない。支柱穴はP2が住居外側に据え換えられており、建て替えの可能性がある。覆土は良好な堆積状況を観察できなかった。壁はやや開き、20cmの高さを測る。支柱穴間の距離、支柱穴と壁との距離、主軸方向等から、7号遺構と規模、形態において類似すると思われる、時期的にも近い関係にあるのではないかと考えられる。

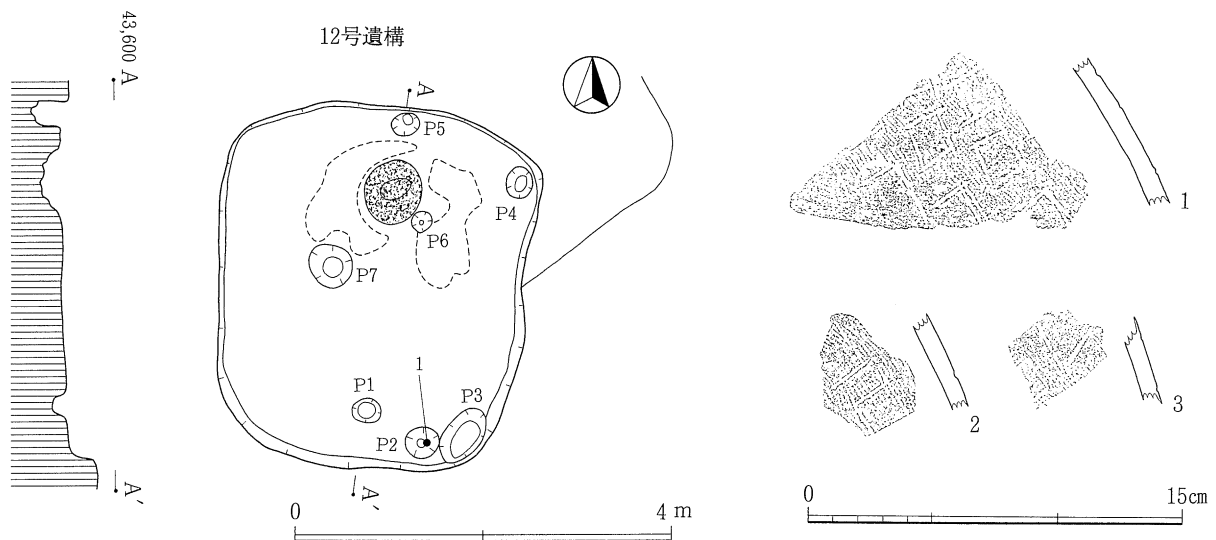
遺 物 4・5・6・7は床直上より検出。その他は覆土中からの出土である。

7号遺構（第20図）

遺 構 D6～7グリッドに位置する。北側覆土上層を13号遺構が切る。平面形態はやや丸みの残る隅丸方形。主軸方位はN-32°-W。7.02×6.40mの規模を持つ。床面はほぼ全面硬化といえ、一樣に平坦で堅緻である。施設としては、北側支柱穴ライン上に100cm×70cmの炉が、住居南側（P6）



第16図 3号遺構実測図と遺物実測図

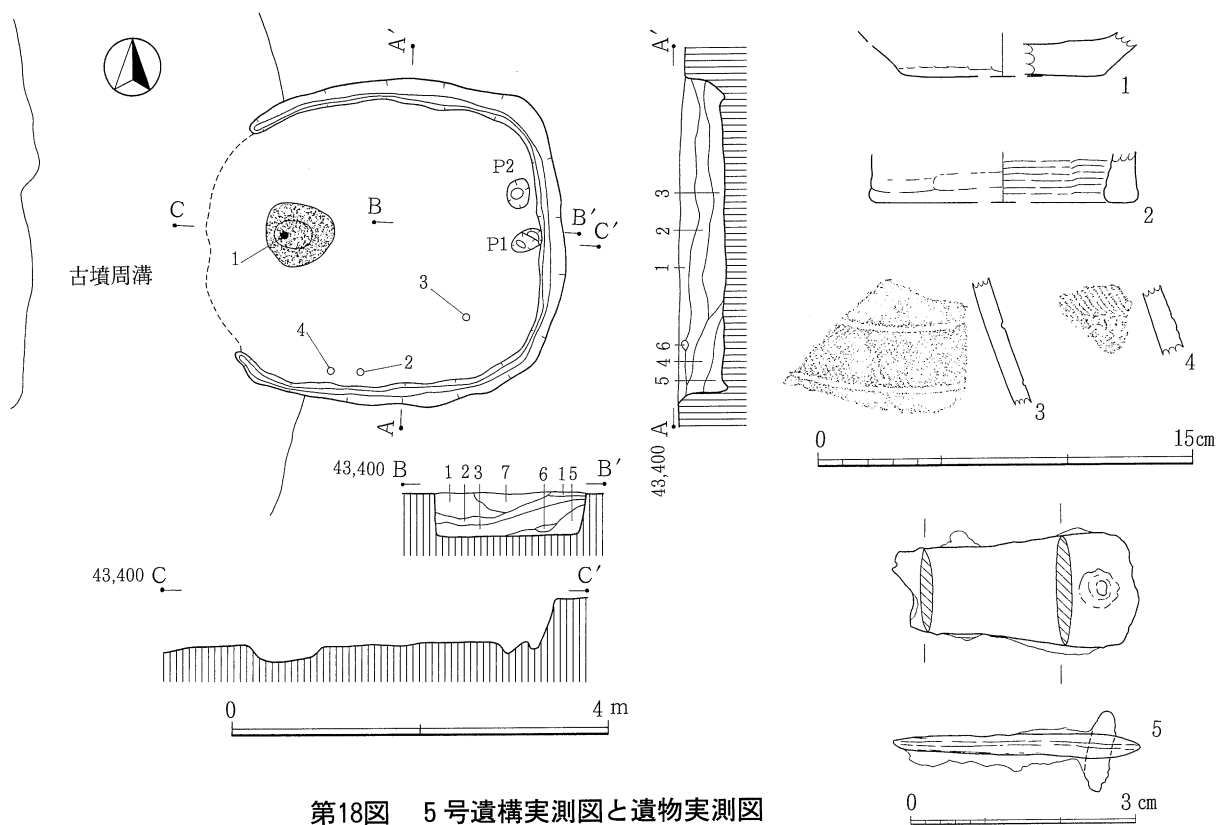


第17図 4号遺構実測図と遺物実測図

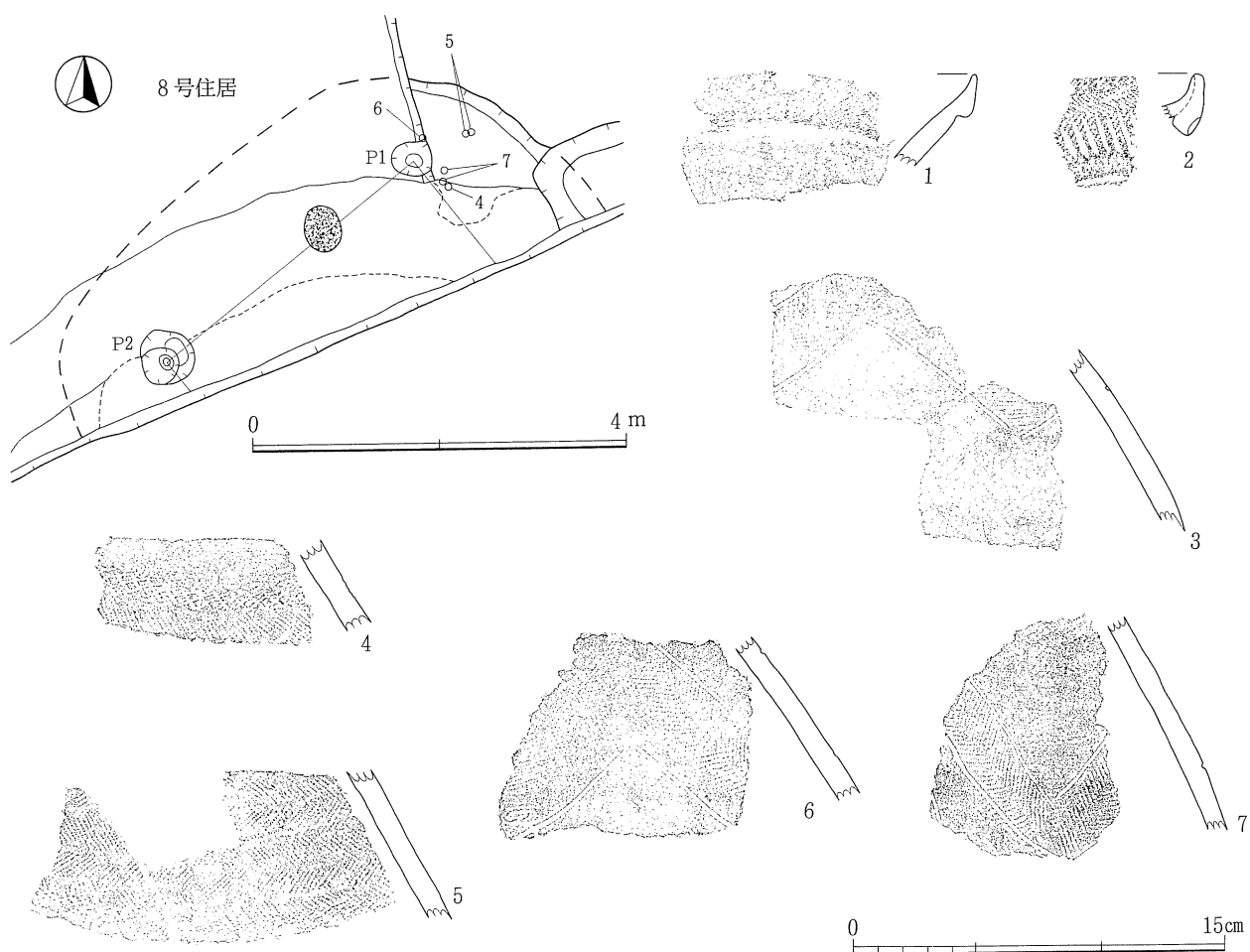
と南東隅（P 7）に貯蔵穴が認められた。P 1～P 4 支柱穴で、覆土は締まっておらず柱の抜き取りが考えられる。また、それぞれに柱あたりが確認できた。P 5 は出入り口施設に伴うもので、すり鉢状を呈し、底面は極僅かに住居中心方向寄りに存在する。P 8 はその機能は不明。周溝は全周する。壁は緩やかに立ち上がり、34cmの高さを測る。覆土はレンズ状に堆積している。

遺 物 1 はP 2 とP 5 の間で床直上に上方からの力で押し潰された様な状況で検出された。6・11 はP 6 覆土下層より検出されている。7 から10・12 は住居覆土中の遺物である。

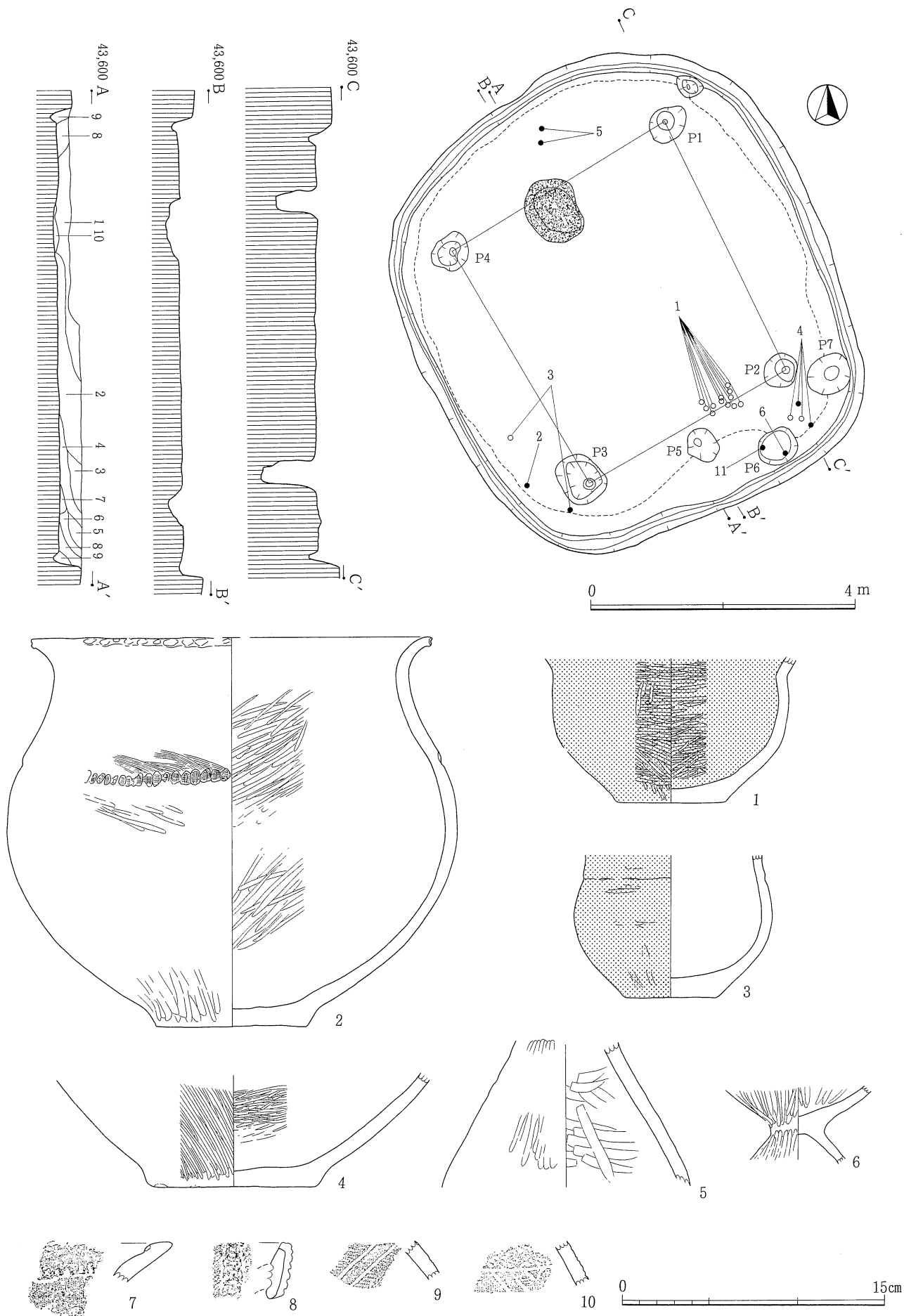
土 層 1 層暗褐色土でローム粒少量含む、2 層暗褐色土でローム粒・焼土粒少量含む、3 層暗褐色土、4 層暗黄褐色土でローム粒少量・焼土粒微量含む、5 層暗黄褐色土でローム粒多く含む、6 層暗黄褐色土でローム粒少量・焼土粒・炭化物微量含む、7 層暗黒褐色土でローム粒・炭化物少量・焼土粒微量含む、8 層暗黄褐色土でロームブロック少量含む、9 層暗黄褐色土、10 層暗赤褐色土。



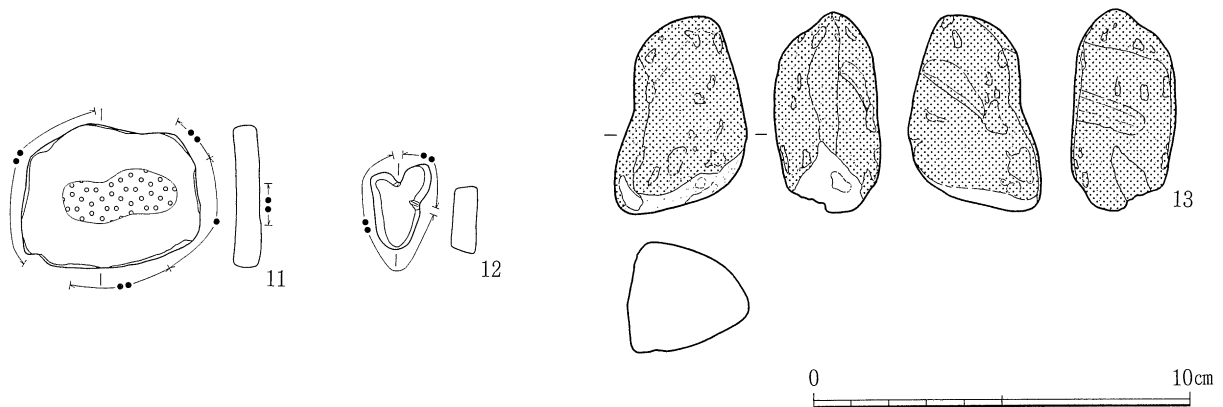
第18図 5号遺構実測図と遺物実測図



第19図 6号遺構実測図と遺物実測図



第20図 7号遺構実測図と遺物実測図



第21図 7号遺構遺物実測図

第5節 古墳時代の遺構と遺物

8号遺構（第22図）

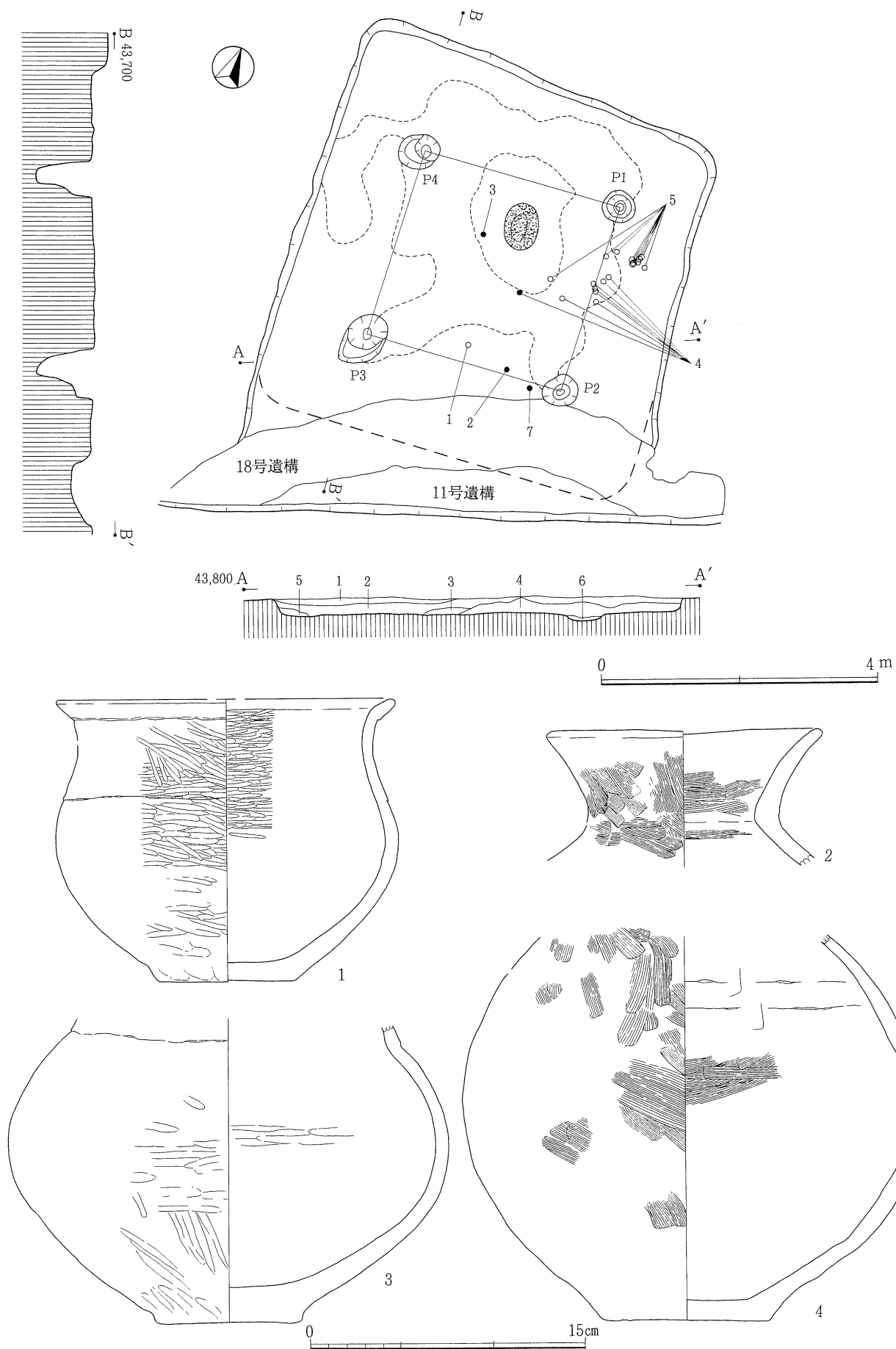
遺 構 D7グリッドに位置する。南側を18号遺構に切られる。11号遺構との新旧関係は判然としない。平面形態はやや隅の丸みが残る方形である。主軸方位はN-9°-Wである。その規模は東西方向で、5.70mを測る。硬化面はP1からP4の支柱穴の内側に集中し、その北・西側の一部にも認められる。それ以外については強い締まりは確認できない。施設としては支柱穴の内側に位置する70cm×50cmの炉が確認できるのみで、出入り口ピット、貯蔵穴についてはその痕跡は確認できなかった。周溝は巡らない様である。P1・P2の平面形態は、ほぼ円形で、底部では柱あたりを確認している。P3・P4は不整楕円形を呈する。壁は緩やかに広がり、20cmほどの高さを測る。覆土は、東側からの第一埋没土が早く入り込んでいるが、ロームブロックを多くは含まない。自然堆積と判断できる範囲と考える。

遺 物 1 確認調査時に検出。2・4は胴個体の可能性がある。5はそのほとんどが確認調査で取り上げられている。覆土上層からの出土。6は覆土中からの出土。

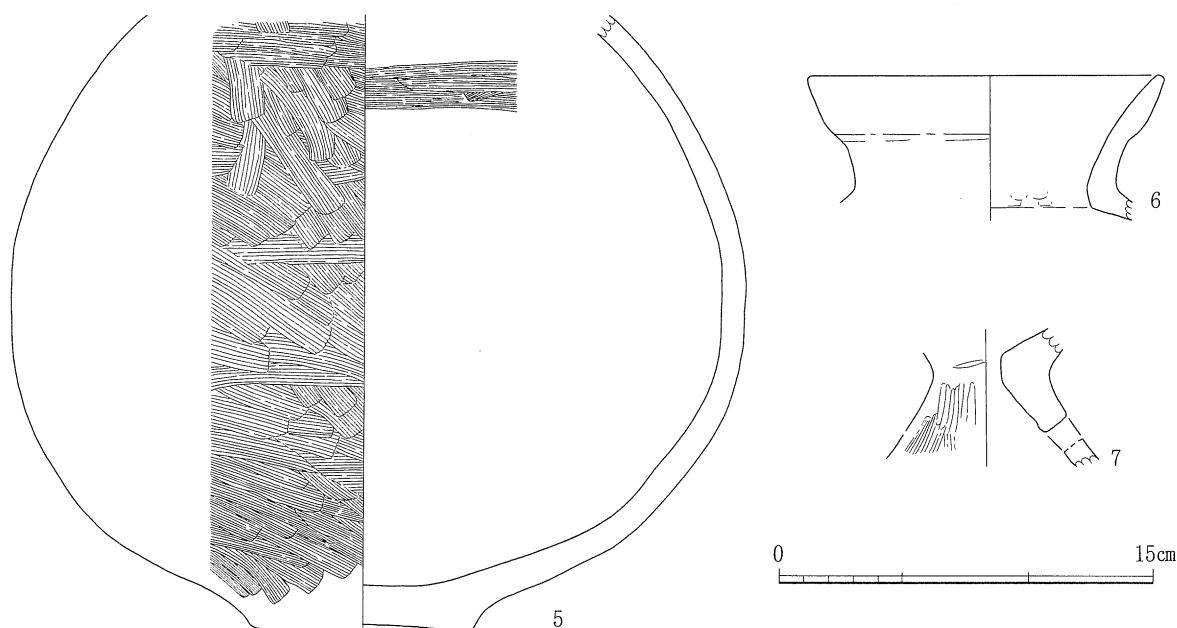
土 層 1層暗褐色土、2層黒褐色土でローム粒少量含む、3層暗褐色土でローム粒少量・焼土粒・炭化物微量含む、4層暗黄褐色土でローム粒少量・焼土粒・炭化物微量含む、5層黄褐色土でロームブロック少量含む、6層黄褐色土でロームブロック多く含む。

9号遺構（第24図）

遺 構 D7グリッドに位置する。東側を10号（古墳時代前期堅穴住居）・12号（古墳時代中期堅穴住居）に切れ、西側では堅穴住居（弥生時代後期）を切る。北西隅、P3・P4西側に近年の攪乱が床を掘り込んでいる。平面形態はやや四隅の丸みを持った方形を呈する。主軸方位はN-24°-W。5.20×5.50mの規模を持つ。床面は平坦で全体的に締まっている。炉は60cm×50cmを測り、P1とP4の支柱穴を結ぶラインより内側に位置する。周溝は切り合い・攪乱によって途切れているが、全周していた可能性がある。P1～P4が支柱穴であり、すべてに柱あたりが確認された。P5は出入り施設に伴うピットで、底面を住居中央方向に向け、斜めに開いている。P6は貯蔵穴で68cm×40cmの規模を持ち、不整だが長方形の形面形態を持つ。P7・P8は覆土上層が締まっていたため、本住居



第22図 8号遺構実測図と遺物実測図



第23図 8号遺構遺物実測図

に先行するか、一時的に利用され、住居の終末期には塞がっていたと考えられる。覆土は一様に暗褐色土で、埋没の経過は判然としない。壁は緩やかに開き26cmの高さを測る。

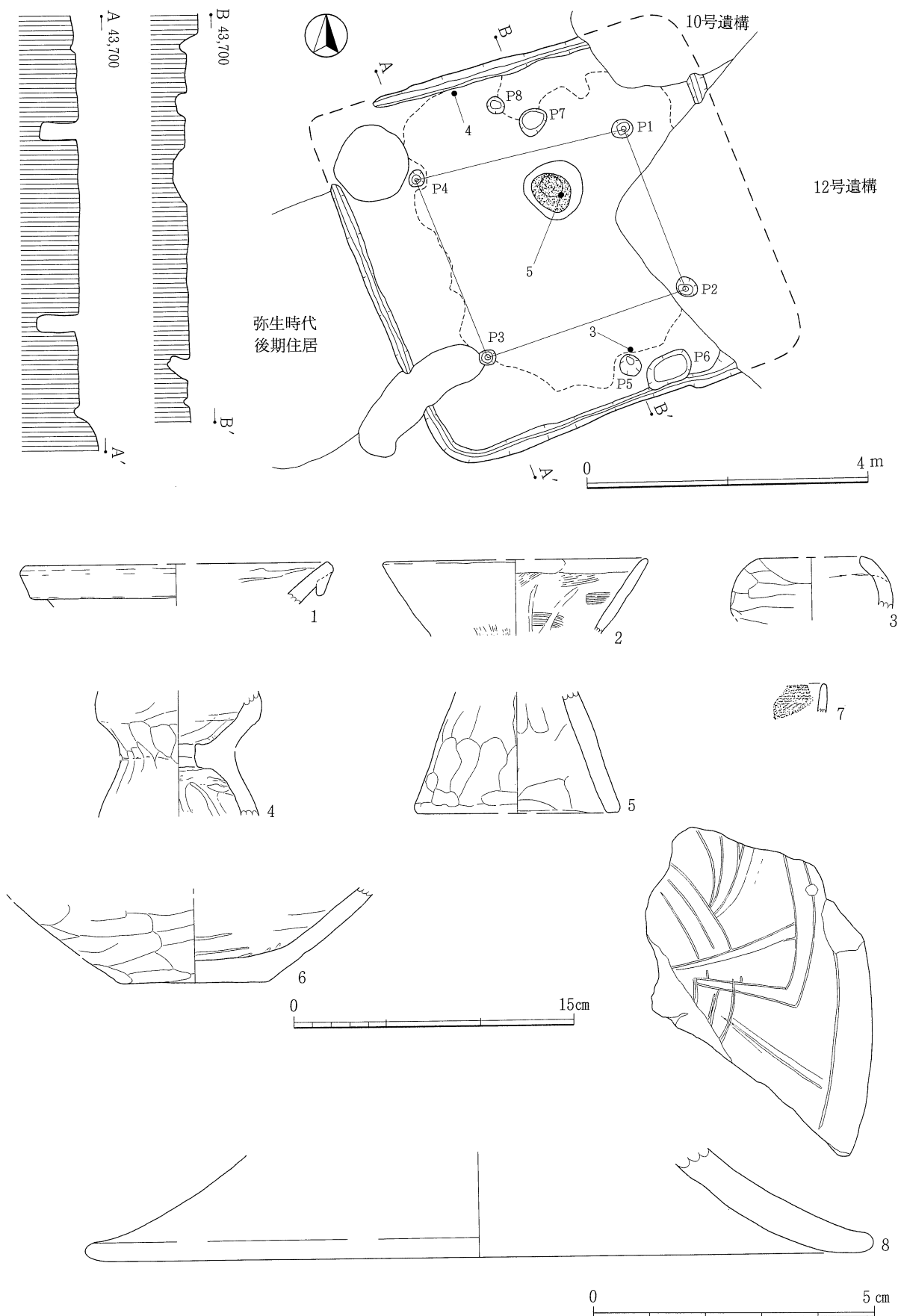
遺物 遺物量は少なく、床直上から検出された遺物は細片に尽きた。3・4・5は床面からやや浮いて検出されている。それ以外は覆土からの出土である。8は器台脚部の一部と考えられ、器表面には焼成前に施された線刻が認められる。

10号遺構（第25図）

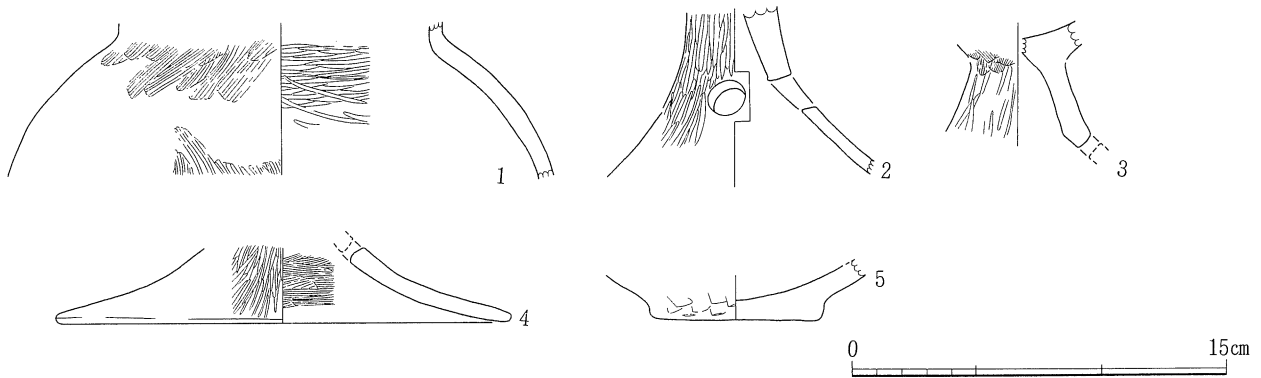
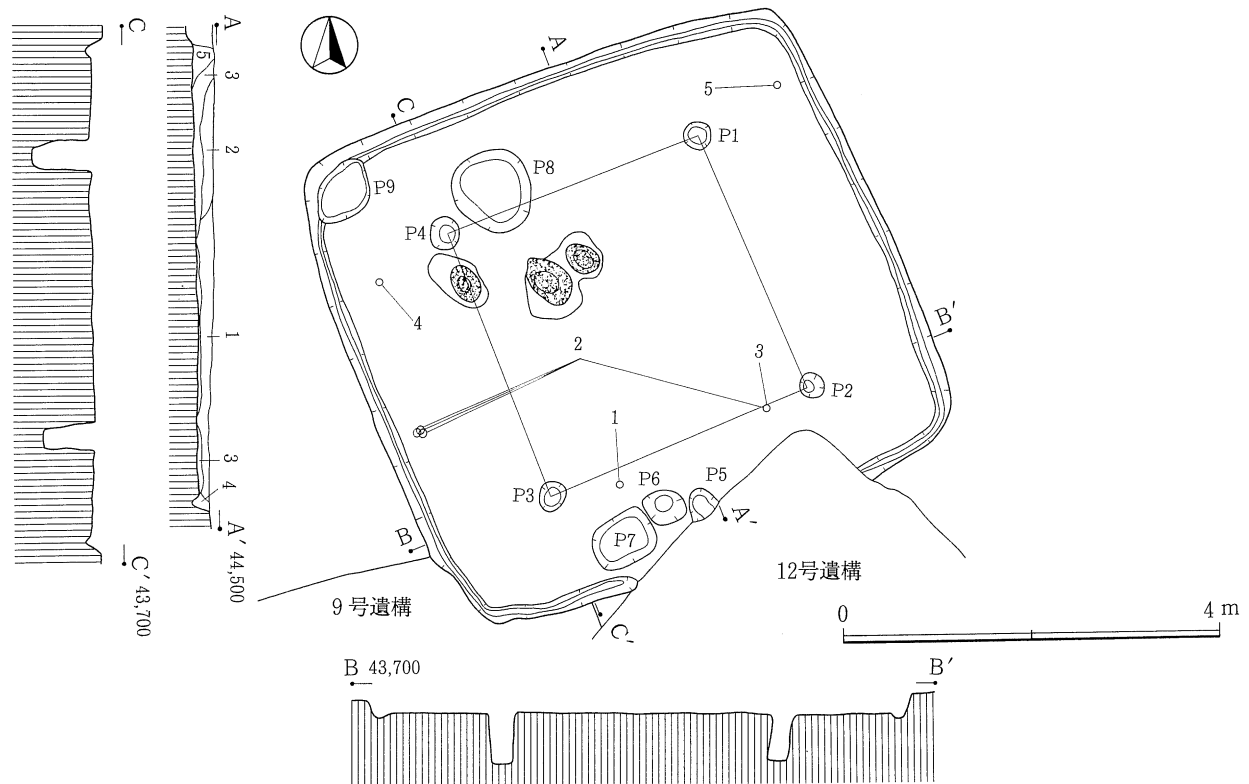
遺構 D7グリッドに位置する。南側で9号遺構（古墳時代前期竪穴住居）を切り、12号遺構（古墳時代中期竪穴住居）に切られる。平面形態は5.80m×5.50mの方形を呈す。主軸方位はN-17°-W。床面は総じて軟質で、平坦である。炉は3基確認されている。西側から40cm×30cm、60cm×40cm、40cm×30cmの規模を測る。焼土量から判断すれば、中央のものが使用頻度が高いか。周溝は他遺構により途切れるが、全周していたであろう。P1～P4が主柱穴。P5が出入り口施設に伴うピット。P6は不整楕円形。P7は不整形方形を呈する。貯蔵穴と考える。P8・P9は浅く、覆土は締まっている。内容は不明。壁は緩く開きながら立ち上がり、20cmの高さを測る。覆土は暗褐色土で、埋め戻しを想起させる要因はない。

遺物 遺物量は少ない。細片が多いが、掲載遺物はすべて、床直上より検出されている。

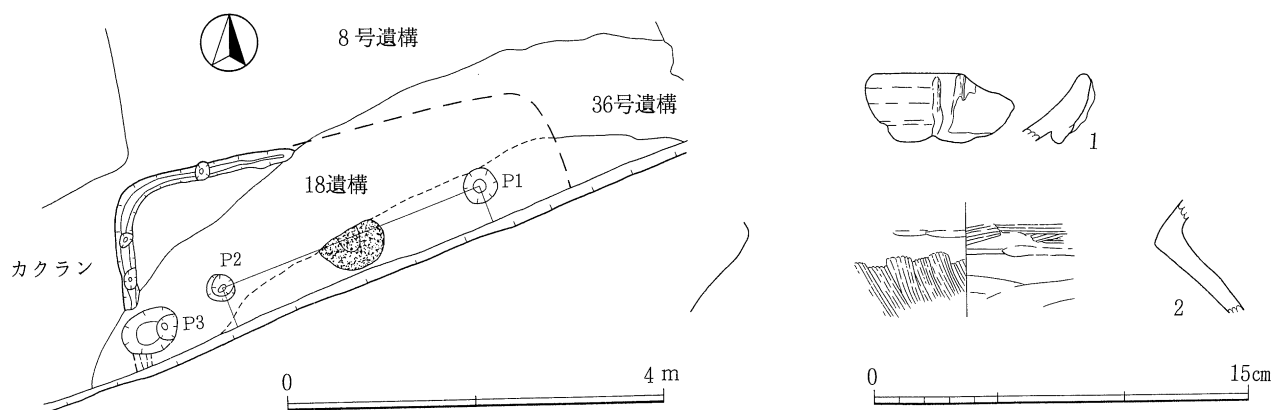
土層 1層黒褐色土でローム粒少量含む、2層黒褐色土でローム粒少量・炭化物微量含む、3層暗黄褐色土でローム粒少量・焼土粒・炭化物微量含む、4層暗黄褐色土、5層暗黄褐色土でロームブロック少量含む。



第24図 9号遺構実測図と遺物実測図



第25図 10号遺構実測図と遺物実測図



第26図 11号遺構実測図と遺物実測図

11号遺構（第26図）

遺 構 D7グリッドに位置する。南側が調査区外となっており、推定で遺構全体の約1/3の検出に止まる。中央を18号遺構（古墳周溝）に切られ、北側には8号遺構（古墳時代前期竪穴住居）が存在するが、新旧関係は判断できない。また、本遺構床下より6号住居の床を検出している。平面形態は北西隅に残る周溝から、隅に丸みを持った方形である可能性が高い。主軸方位はN-22°-W。検出時、炉の周辺に硬化面が確認できたが、東側でやや不明瞭で、住居範囲を確定できなかった。炉は北側半分を18号に破壊されている。周溝は一部残存し、小ピットを伴う。覆土は、調査区境界の土層断面でも近年の攪乱が激しく、内容は不明である。

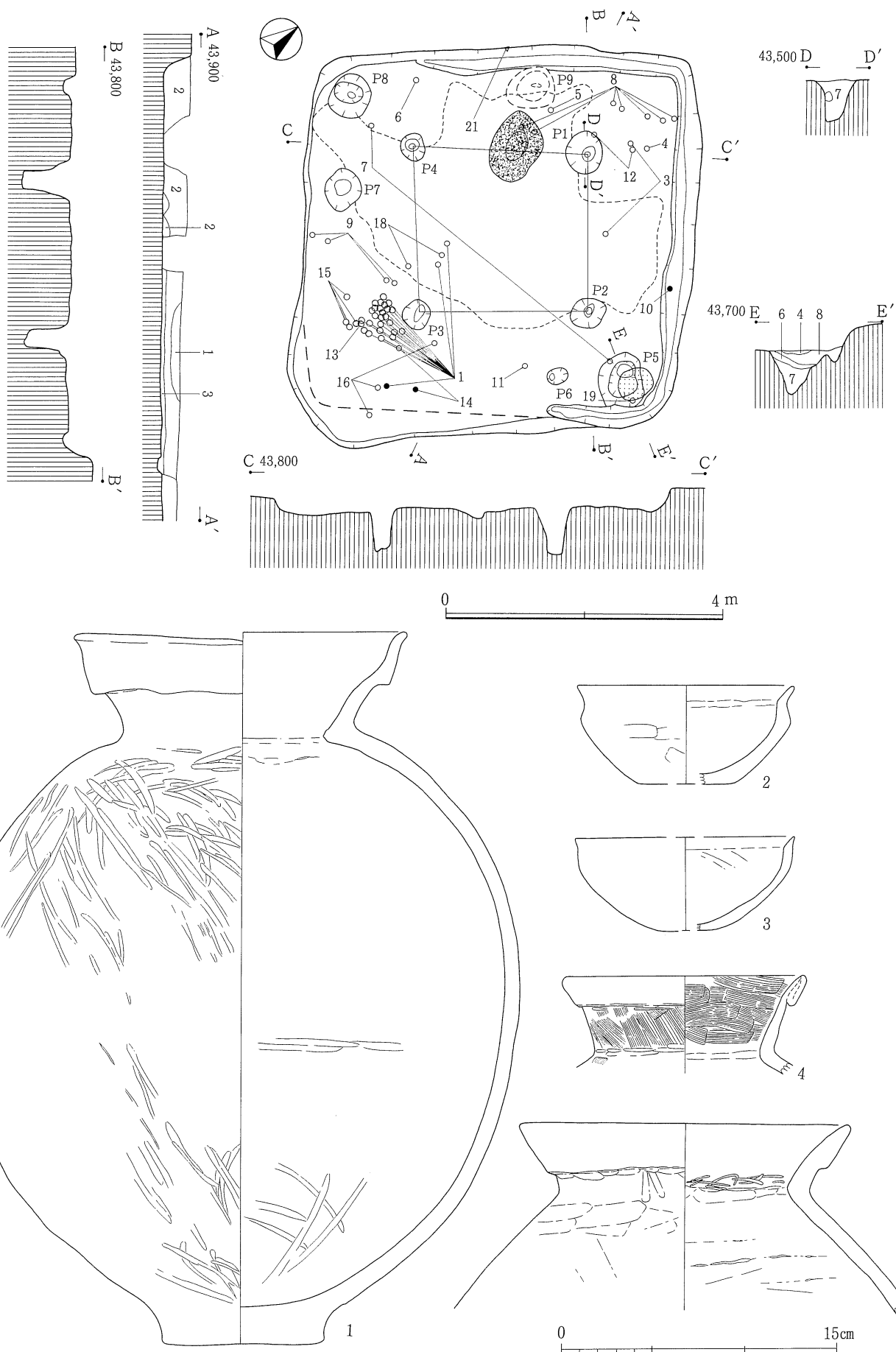
遺 物 1・2はいずれも炉周辺からの出土である。

12号遺構（第27図）

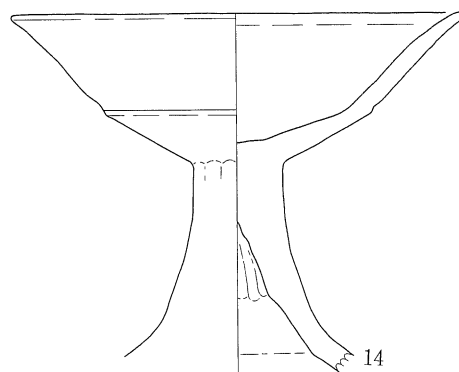
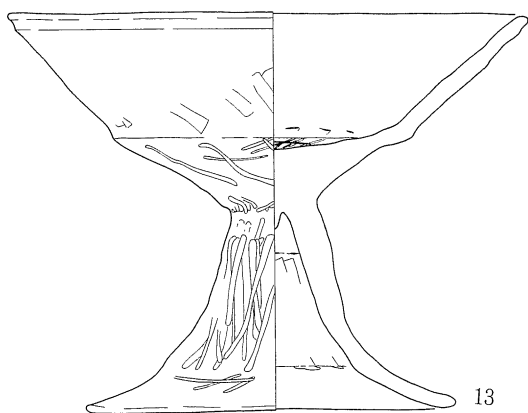
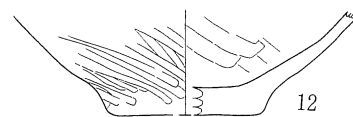
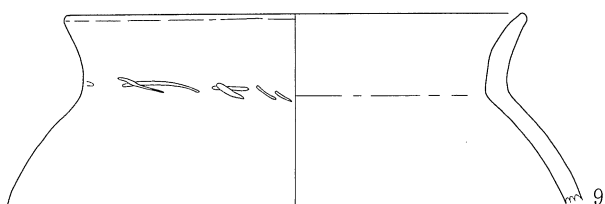
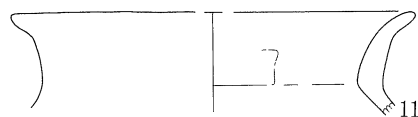
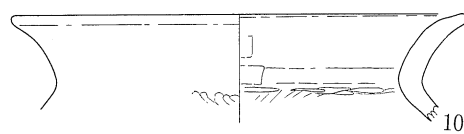
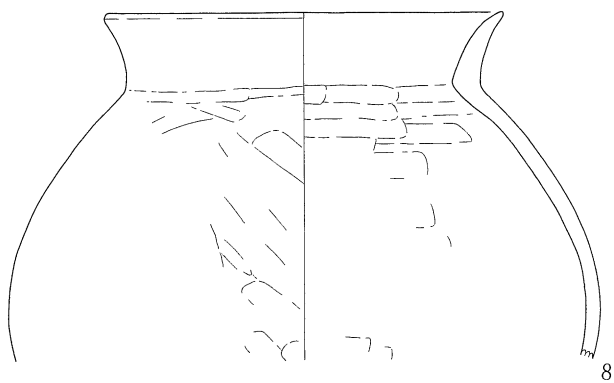
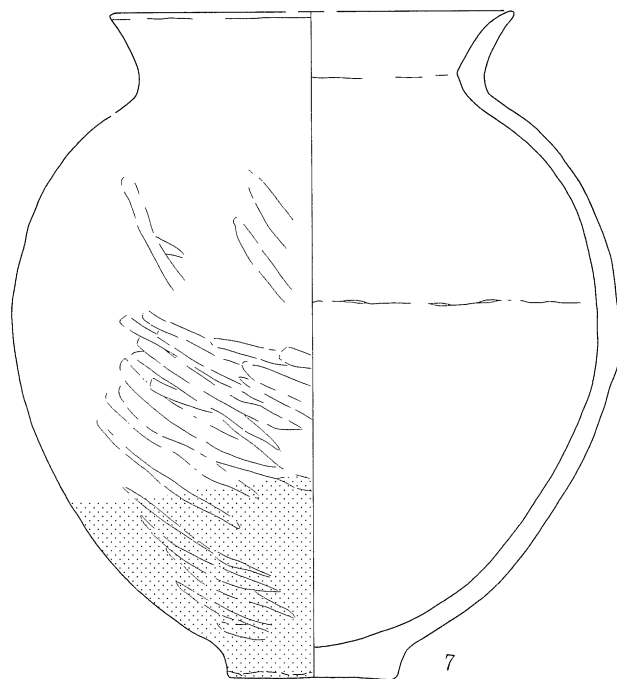
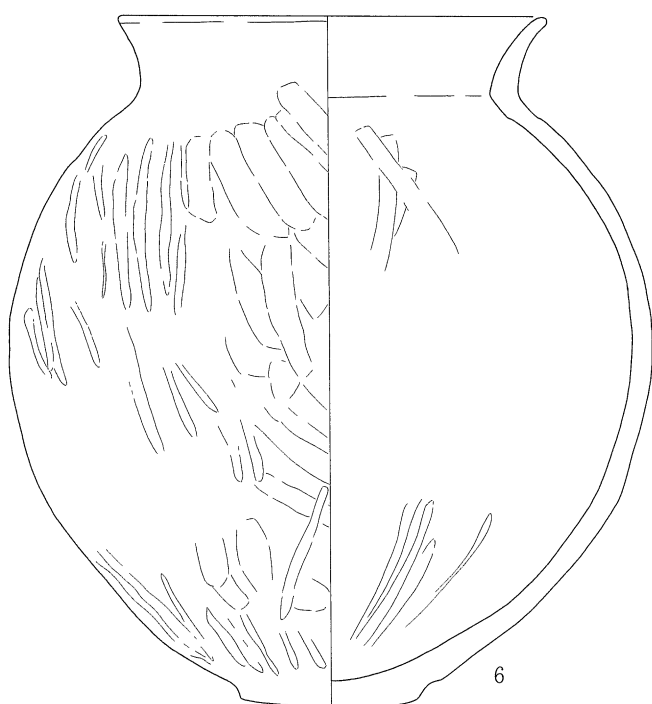
遺 構 D7グリッドに位置する。北側で10号遺構（古墳時代前期竪穴住居）を、西側で9号遺構（古墳時代前期竪穴住居）を、南側で4号遺構（弥生時代後期竪穴住居）を切っている。平面形態は隅にやや丸みを持った方形で5.56m×5.65mの規模を測る。南西隅のゆがみは、下層に4号遺構が位置したため、遺構検出時に掘りすぎたためである。主軸方位は炉と出入り口施設に伴うピットを結んだラインを採用しているが、本遺構は極端に住居中心軸よりぶれるため、P1・P4、P2・P3の中間点を結んだラインにより測定し、N-46°-Wを測った。床面締まりは強くなく、なだらかな凹凸を確認した。硬化面として図示した範囲は相対的に締まっている範囲である。P1、P4の支柱穴を結ぶライン上、ほぼ中間に100cm×75cmの炉を検出している。周溝は南側では上記理由により確認できなかった。西側及び北西隅付近については、東側周溝覆土よりも土が締まっており、検出する事ができなかった。P1～P4は主張穴であり、P3以外は柱あたりが確認された。またP1覆土中層より直径20cm程の軽石が検出されている。P5・P7・P8は貯蔵穴の可能性があり、平面形態はみな不整形である。P5の覆土を覆うかたちで、黄橙色の粘質土がまとまって検出された。P9は床を除去後に検出され、P8とセットになる住居の存在を考えたが、これと対応するピットを確認できなかった。P6出入口施設に伴うピットと考える。壁は緩やかに開きながら立ち上がり、28cm～38cmを測る。覆土は、上層からの攪乱が部分的に入り込んでいた。全体に焼土が確認されている。

遺 物 床直上からの出土とした遺物はそのほとんどが、覆土中多く認められた焼土中より検出されている。

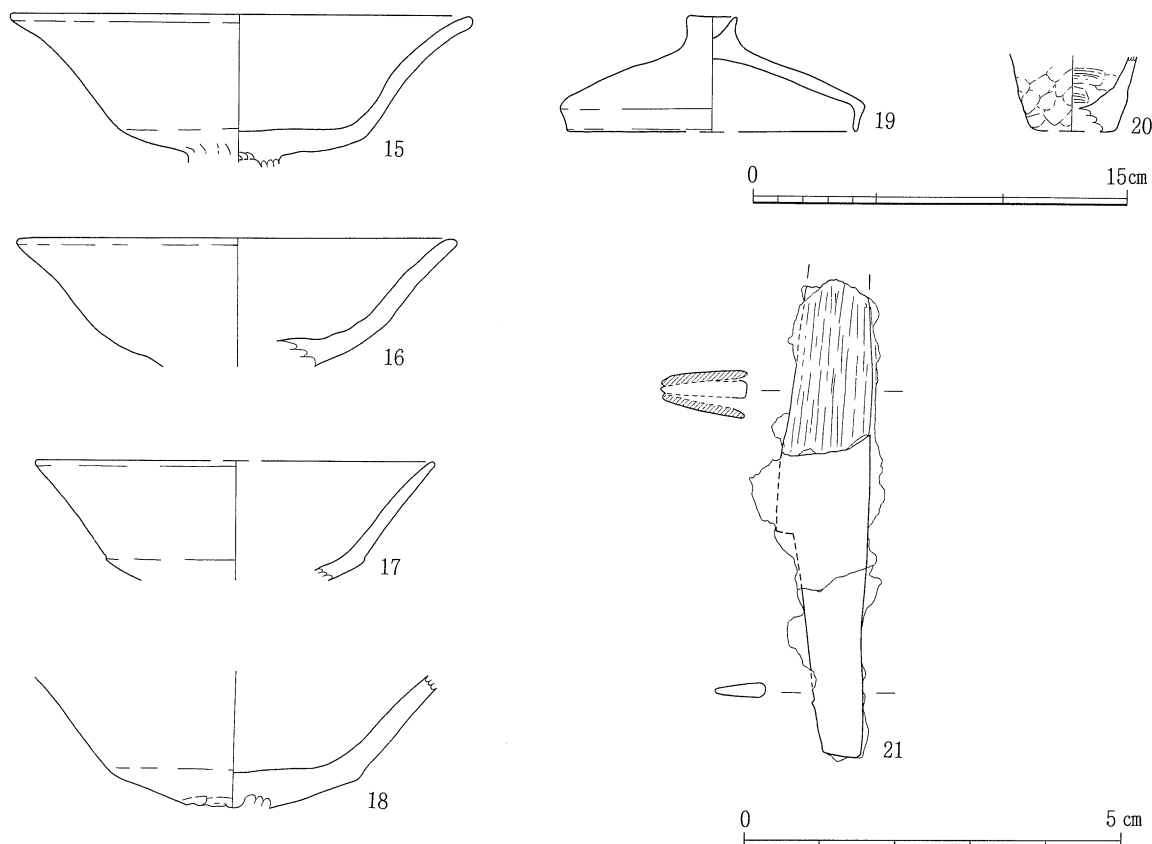
土 層 1層黒褐色土、2 暗褐色土でローム粒・焼土粒・炭化物多く含む、3層暗褐色土でローム粒・焼土粒・炭化物少量含む、やや締まる、4 黄橙色粘質土、5 暗黒褐色土で焼土粒微量含む、6 暗褐色土でローム粒多く含む、7 暗黒褐色土であまりしまらない。



第27図 12号遺構実測図と遺物実測図



第28図 12号遺構遺物実測図



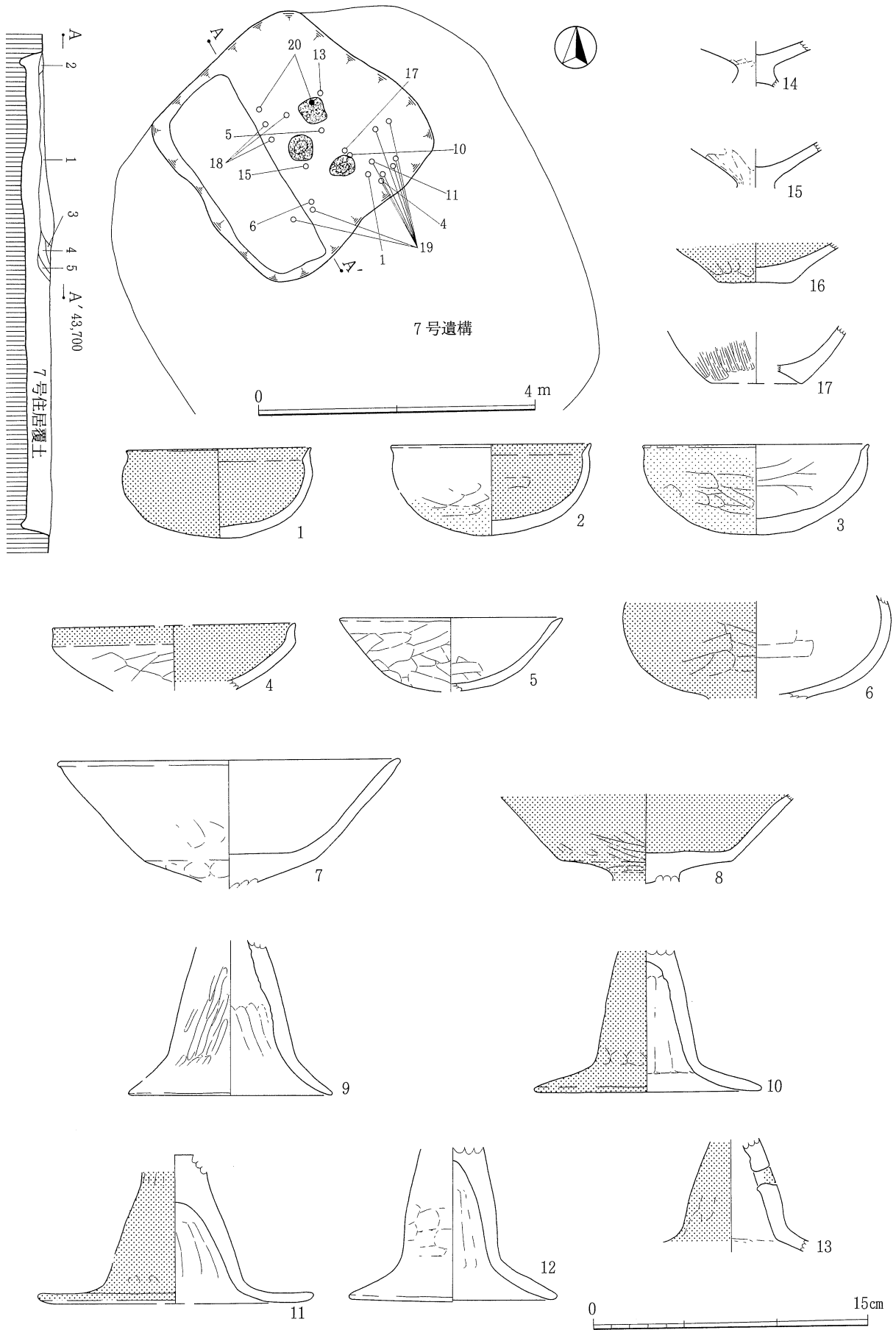
第29図 12号遺構遺物実測図

13号遺構（第30図）

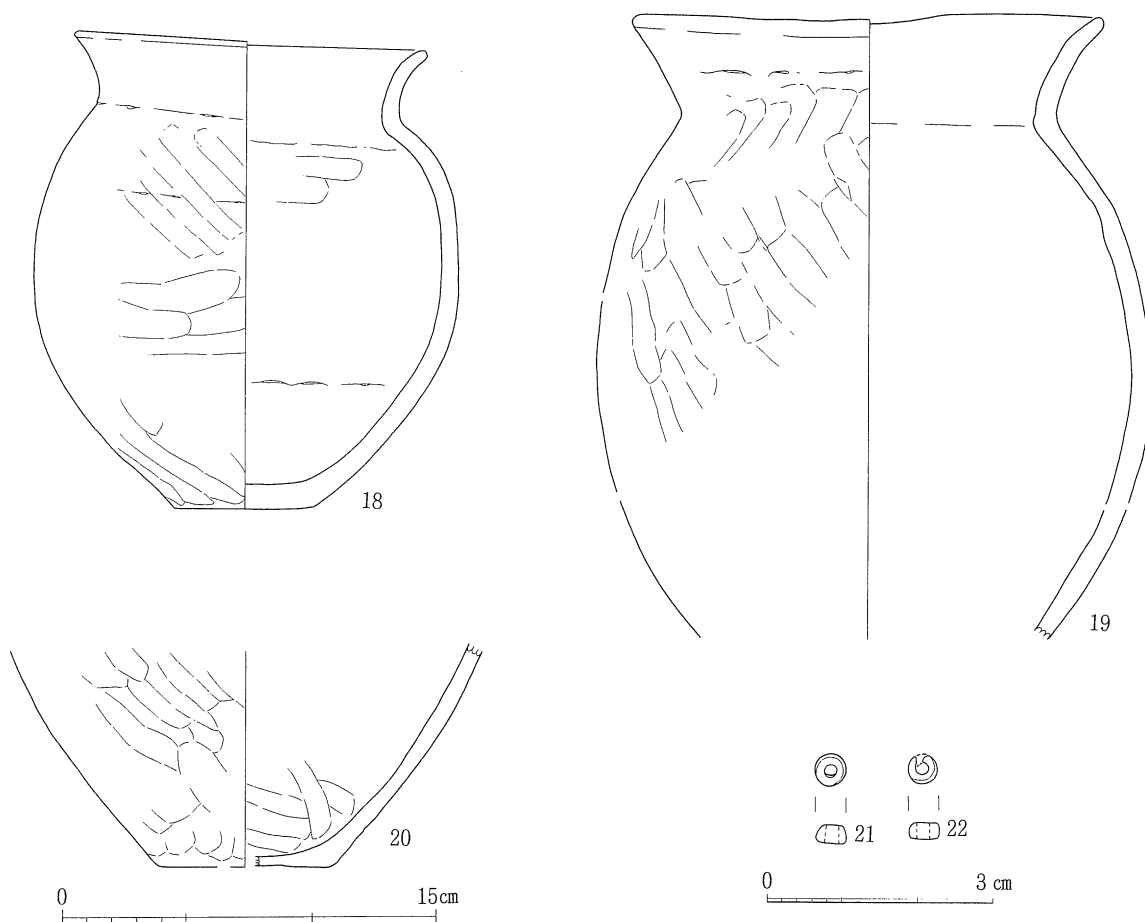
遺 構 D 6～7 グリッドに位置する。直下に 7 号遺構（弥生時代後期竪穴住居）が位置し、本遺構は、その覆土上に成り立っている。図示した遺構西側長方形部は遺構検出時に掘りすぎている部分である。平面形態は隅丸の不整方形を呈す。3.30m×3.20mの規模を測る。遺構底面は軟質で、はっきりと硬化している部位は確認できない。また、その形状は中央は深く、縁辺に行くに従い、だらりと浅くなって行く。すり鉢状、もしくはレンズ状という形容が適当か。中央やや東寄りに、3カ所の焼土の集中地点が検出されている。北側から36cm×33cm、36cm×34cm、40cm×30cmを測る。焼土の堆積状況は、住居中の炉に近い。焼土を除去すると遺構底面に窪みができるため、火の使用前に、浅く掘り込んでいる事が想定できる。遺物はこれらを中心に取囲む様に検出された。覆土は単調で、自然堆積を考える。

遺 物 2・3・9・12・13・16・18・19は確認調査時に検出。杯は完形を保っているものが少数あったが、それ以外の器種については皆無である。21の滑石製白玉は3カ所の焼土集中地点の南端のものの東側から検出された。以後、その地点を中心に南北1.5m、東西1mの範囲に50cm角のメッシュを6個設定し、土ごと持ち帰り、乾燥後その内容を精査したところ、同じメッシュより22の滑石製白玉が破損した状態で検出された。

土 層 1層褐色土で焼土粒微量含む、2層黒褐色土でローム粒少量・焼土粒微量含む、3層暗褐色土でローム粒少量・焼土粒微量含む、4層暗褐色土でローム粒多く・焼土粒微量含む、5層暗褐色土で



第30図 13号遺構実測図と遺物実測図



第31図 13号遺構遺物実測図

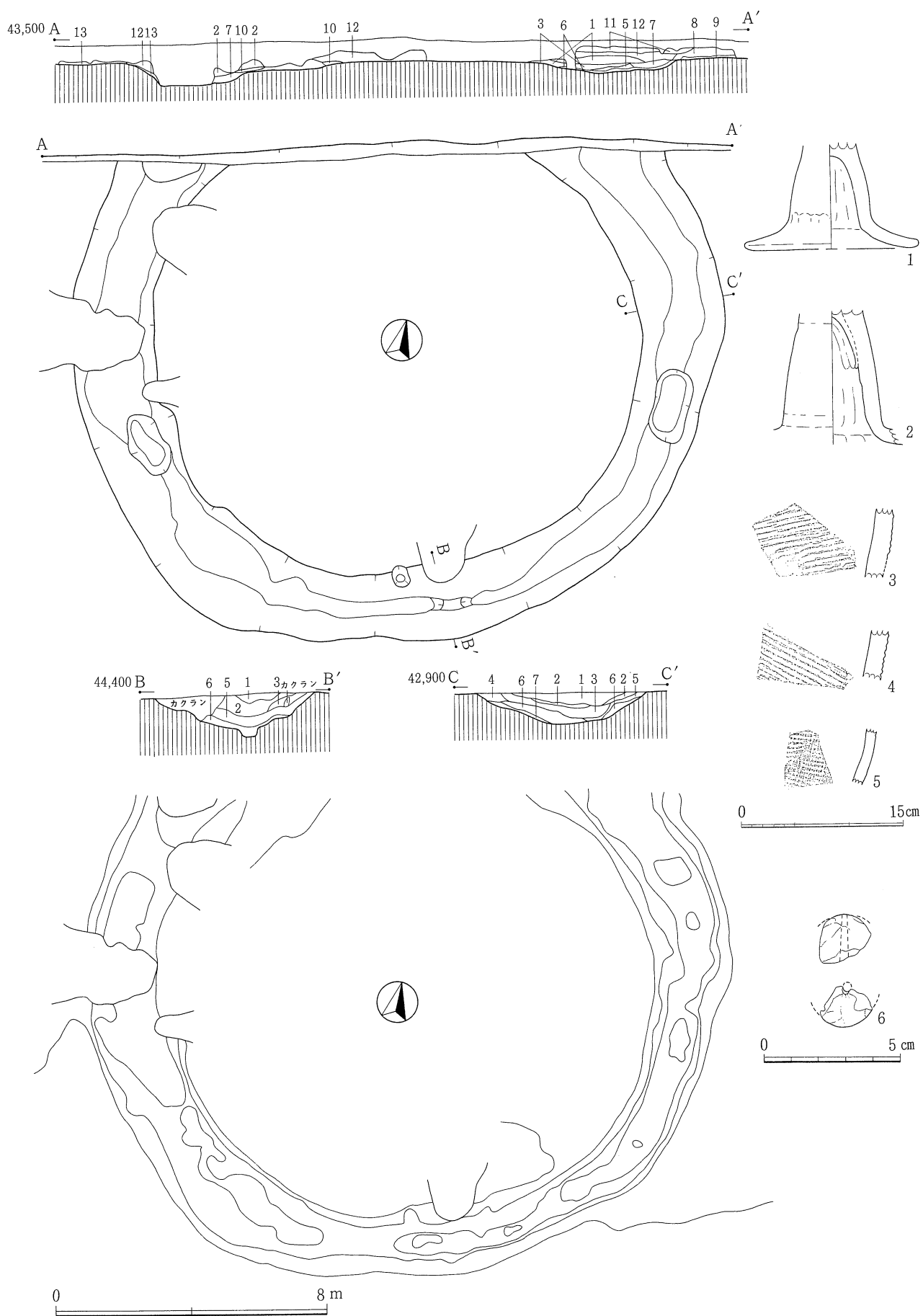
ローム粒多く・焼土粒微量含み上層よりやや締まる。全体的に覆土の締まりは弱い。

14号遺構（第32図）

遺 構 C 5 グリッドに位置する。遺構北側は調査区外となるため形態は確定できないが、内径14mの円墳となるか。周溝幅は1.60m～2.60m、深さ50cm～60cmを測る。西側において攪乱を多く受ける。マウンド及び埋葬施設は確認できない。

遺 物 1、2は周溝北東側覆土下層より検出された。周辺には焼土の堆積が認められ、何らかの行為が行われた可能性を示唆する。3、4、5、の須恵器は土師器と同時期とは考えにくい、該当する時期の遺構が周辺に認められないため、周溝からの出土遺物として掲載した。6は周溝東南側覆土下層からの出土遺物である。

土 層 1層黒褐色土でローム粒少量含む、2層黒褐色土でローム粒含む、3層暗褐色土でローム粒多く含む、4層黒褐色土、5層暗黄褐色土、6層暗黄褐色土でロームブロック少量含む、7層暗黄褐色土、ロームブロック少量含む、やや締まる、8層暗黄褐色土でやや褐色がかり、ローム粒多く含む、9層暗黄褐色土でやや褐色がかり、ロームブロック少量含む、10層暗黄褐色土でやや褐色がかり、ロームブロック少量含む、やや締まる。11層暗褐色土でローム粒少量含む、12層暗褐色土でローム粒多く含む、13層暗黄褐色土でソフトローム主体。



第32図 14号遺構実測図と遺物実測図

15号遺構（第33・34図）

遺 構 E 6～7 グリッドに位置する。東側が調査区外となり本遺構の大部分はその東側に含まれる。復元すると、内径20m程の円墳になる可能性が高い。よって、今回の検出は全体の1/5程になる。東側調査区外にはマウンドの名残りともみられる僅かな盛り上がりが確認できるが、調査区境界の土層を観察する限りでは、確認面よりやや上まで大きく削平されている。周溝幅は最大で4.80m。確認面よりの深さは90cmを測る。また、本遺構の周溝内北側には円周方向を主軸とする方形の土壌が1基確認されている。土壌は周溝底中央に、主軸をほぼ真北に向けて造られている。落ち込み端の主軸長が3.05m、短軸長が1.37m土壌底部では2.75m、0.88m。深さは90cmを測る。四方の壁は平坦に整っているが、底面はその中央部で不整形に窪んでいる。周溝覆土の観察用ベルトが土壌の直上に設定してあったため、掘り込みが周溝の初期埋没土を切っていることが確認できた。また、土壌より南側1～2mでは、やはり初期埋没土上に、他ではみられないロームブロックを主体とする層が確認されており、土壌掘削時の排土の可能性が高い。以上から、土壌は、古墳周溝掘削時とほぼ同時期か若干の時間差をもって造られたと考えられる。

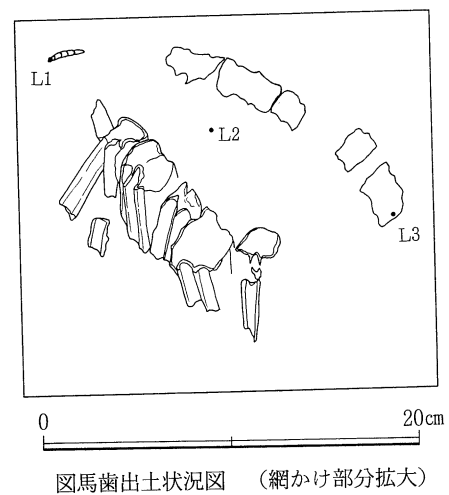
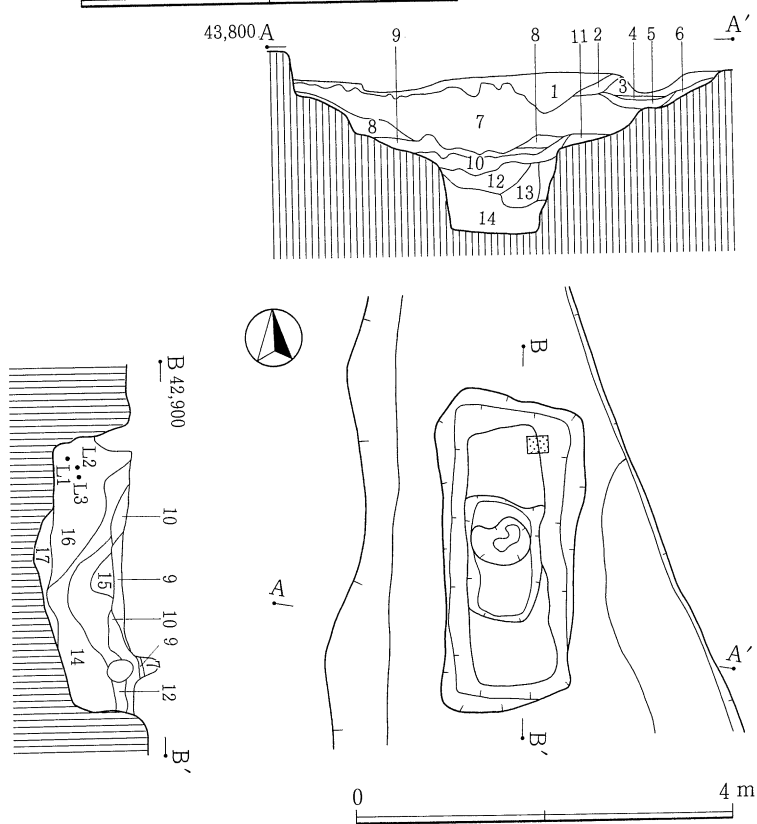
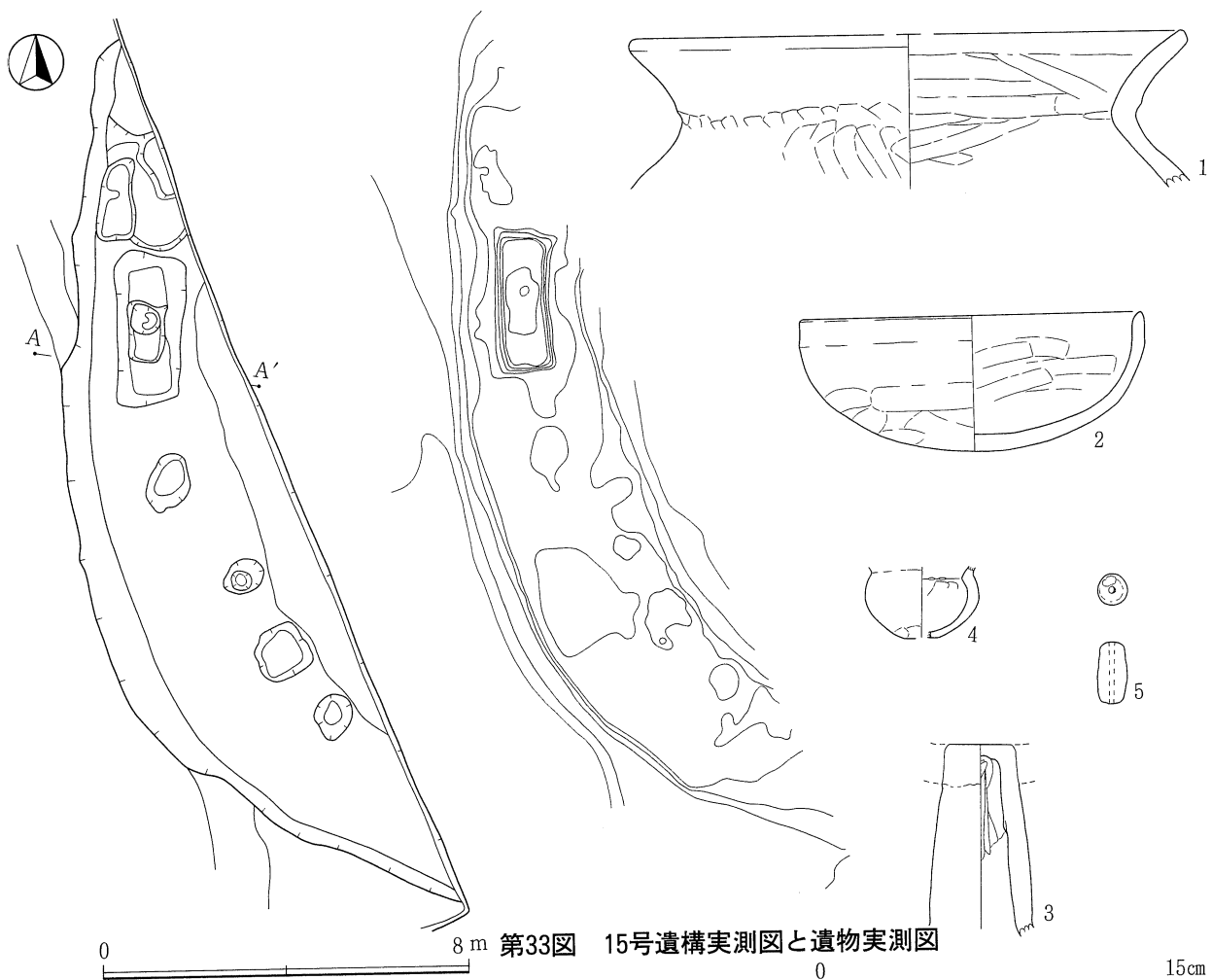
土 層 1層暗褐色土、2層暗褐色土でローム粒少量含む、3層暗褐色土、やや灰色がかりローム粒少量含む。4層黒褐色土で硬化が認められる、5層黒褐色土でローム粒少量含む、やや締まる、6層暗黄褐色土、7層暗褐色土でローム粒多く含む、8層暗褐色土でロームブロック少量含む、9層褐色土でローム粒緻密、10層黒褐色土でロームブロック多く含む、11層黄褐色土でロームブロック多く含む、12層灰黄色土でφ10～20mmのブロックが緻密に含まれる、これより下位層は土壌覆土、13層暗黄褐色土でφ10～20mmのブロック間に黒褐色土が混入する、14層灰黄色土でφ100mmほどのブロックが主体で締まりは非常に弱い、15層黄褐色土でロームブロック主体、16層にぶい黄色土でφ100mmほどのブロック間に灰黄色土が混入し、締まりは弱い、17層黄褐色土でブロック主体、やや締まる。

遺 物 土器片が周溝覆土から多量に検出されたが、そのほとんどが流れ込みによるものと考えている。本遺構に伴うと見受けられる遺物は、周溝覆土下層から出土したもののうちでもごく限られた。これらの遺物から古墳の時期を想定することは危険であるが、今回の調査による見解としては、土器杯の口径が13.8cmとやや大振りな傾向を示すことから、5世紀後半という年代が与えられるのではないかと。また、土壌内からは北東隅、底面から20cm浮いたレベルから、鼻先を北に、正位の状態で、馬の上顎歯・下顎歯・下顎骨の一部が検出された。これ以降の覆土は全て取り上げ、乾燥させてから、精査したが、これ以外の遺物は皆無であった。

動物遺存体

出土した馬歯は、ほぼ原形を保っていると考えられたため、任意の点（L1・L2・L3）の平面位置とレベルを記録し、周辺の土ごと取り上げた。

取り上げた馬歯は、余分な土を除去しながら遺存部位を確認していったが、各部位が元位置を保てなくなる恐れがあったため、酢酸ビニル樹脂エマルジョン接着剤を水で薄めたものを塗布するという作業を6回、1週間スパンで実施した。これにより全体の強度は増したが、時間的な制約もあり、下顎歯のクリーニングは断念した。この段階での実測図作成、写真撮影、上顎歯の計測を行い、そのデータを早稲田大学考古学資料室の金子浩昌氏に分析していただいた。結果、出土したのは切歯及び左側第3後臼歯を除く上顎歯と、左側第3切歯を除く下顎歯、下顎骨の一部であり、上顎歯についてはそ



第34図 15号遺構周溝内土壌実測図



第35図 15号遺構周溝内土壌出土馬歯実測図

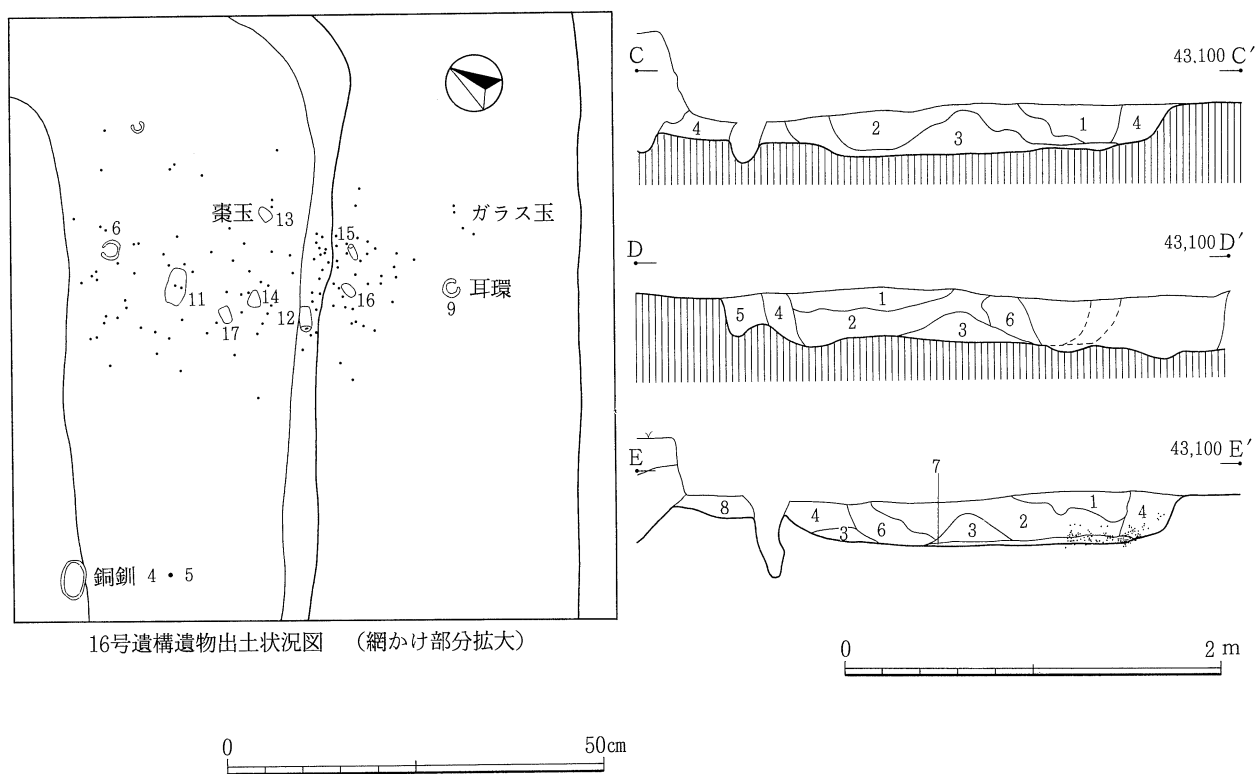
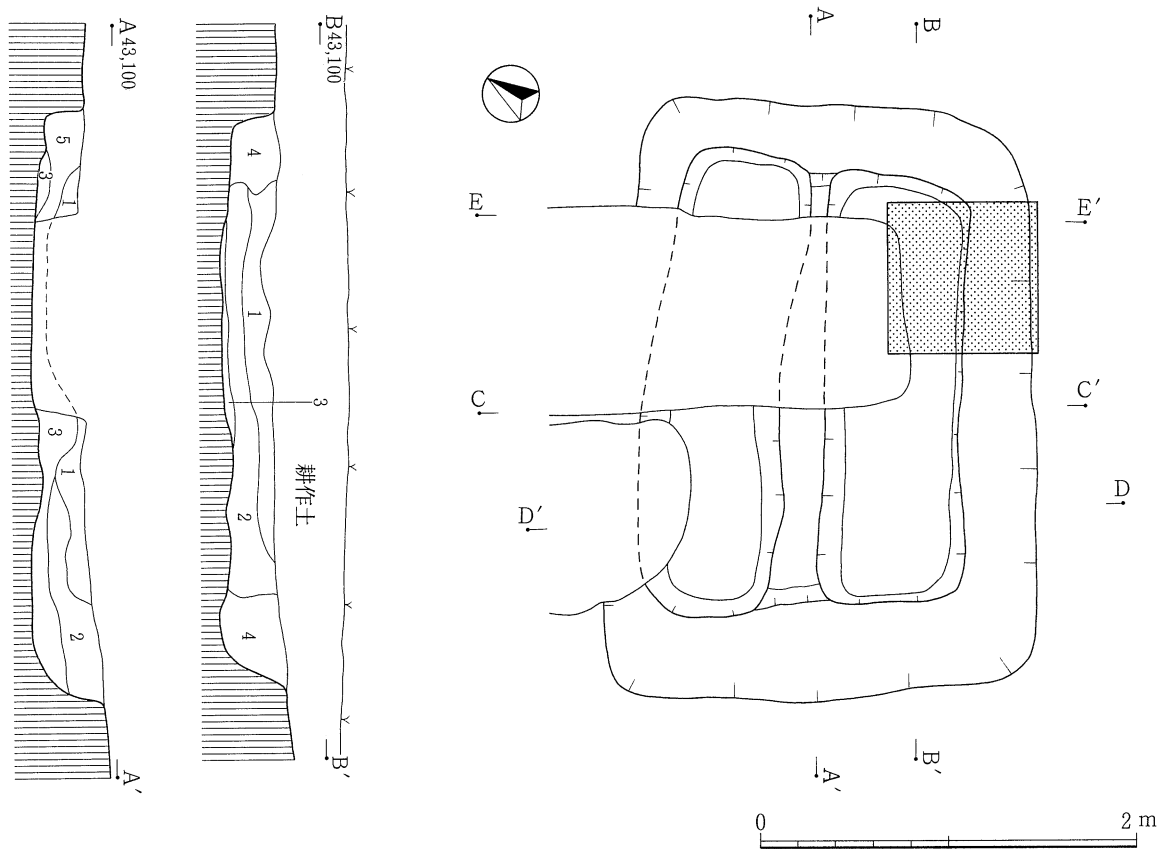
のほとんどが歯根部を失っていた。年齢は6歳前後、体長は3メートル程の中型馬で、現存する御崎馬の大きさに近い馬であろうという所見を頂いた。出土状況からは、体を横たえ頭部をややたてた状態で埋葬が想定できるのではないかとのことであった。

16号遺構（第36図）

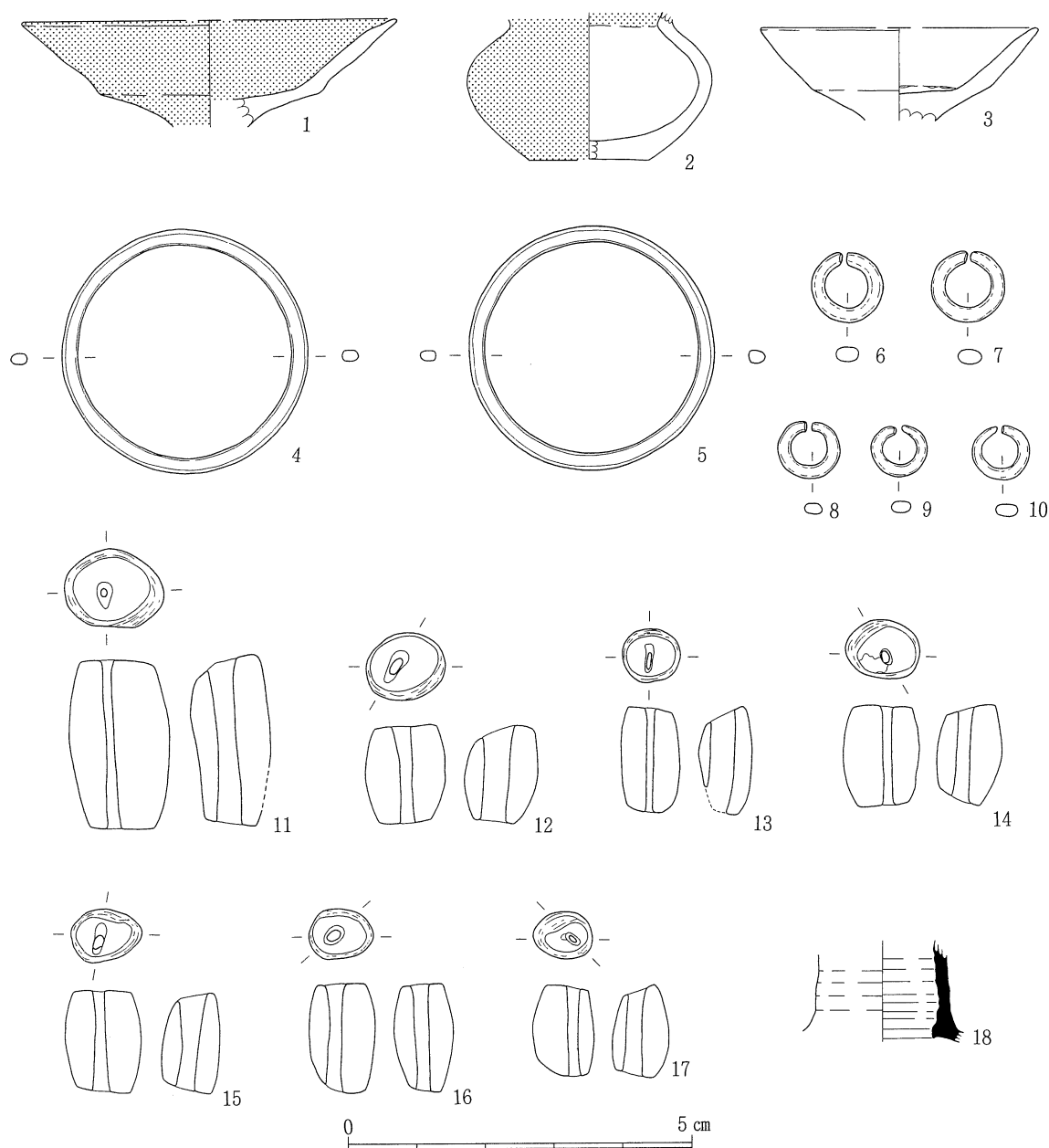
遺 構 D5に位置する。平成8年度に実施された確認調査時に調査されている。平面形態は東側でその幅を狭めるが、ほぼ均整のとれた方形を呈す。土壌全体は3.15×2.20mの規模を持つ。主軸方位はN-55°-Eを示す。その中に主軸方向を同じくして、2つの棺が収められていた。北側をA棺、南側をB棺とする。A棺は長軸2.48m、短軸0.60mを測る。B棺は長軸2.25m、短軸0.73mで、2つの棺の間にある土は硬く締まっていることが確認されており、棺を固定するための地業と考えられる。また、土層からは、A棺・B棺の埋設における時間的な差を見てとることはできない。

遺 物 出土したのは、銅釧2個（第37図4・5）、耳環5個（第37図6～10）、琥珀製棗玉7個（第37図11～17）、ガラス玉210個（第38図・第39図1～210、他に破片資料）、石製小玉1個（第39図211）、滑石製白玉14個（第39図212～215）、土師器小片、須恵器小片である。そのほとんどがB棺よりの検出となる。その分布は、B棺北東隅付近に限られる。

銅釧はどちらも同じ形態を示す。平面形態はほぼ正円を呈し、断面計は内・外径方向に丸みを持ち、その両側は直線的であり、明瞭に面取りがなされている。外周面には刻みを伴わない。外径が7.0cmであり、他事例の6.0cm～8.0cmの範疇に収まるものである（君津郡市文化財センター研究紀要Ⅲ小高幸男1989）。出土状況は、B棺南側側面の内側、中央からやや北寄りに、2個体が重なって壁面に立



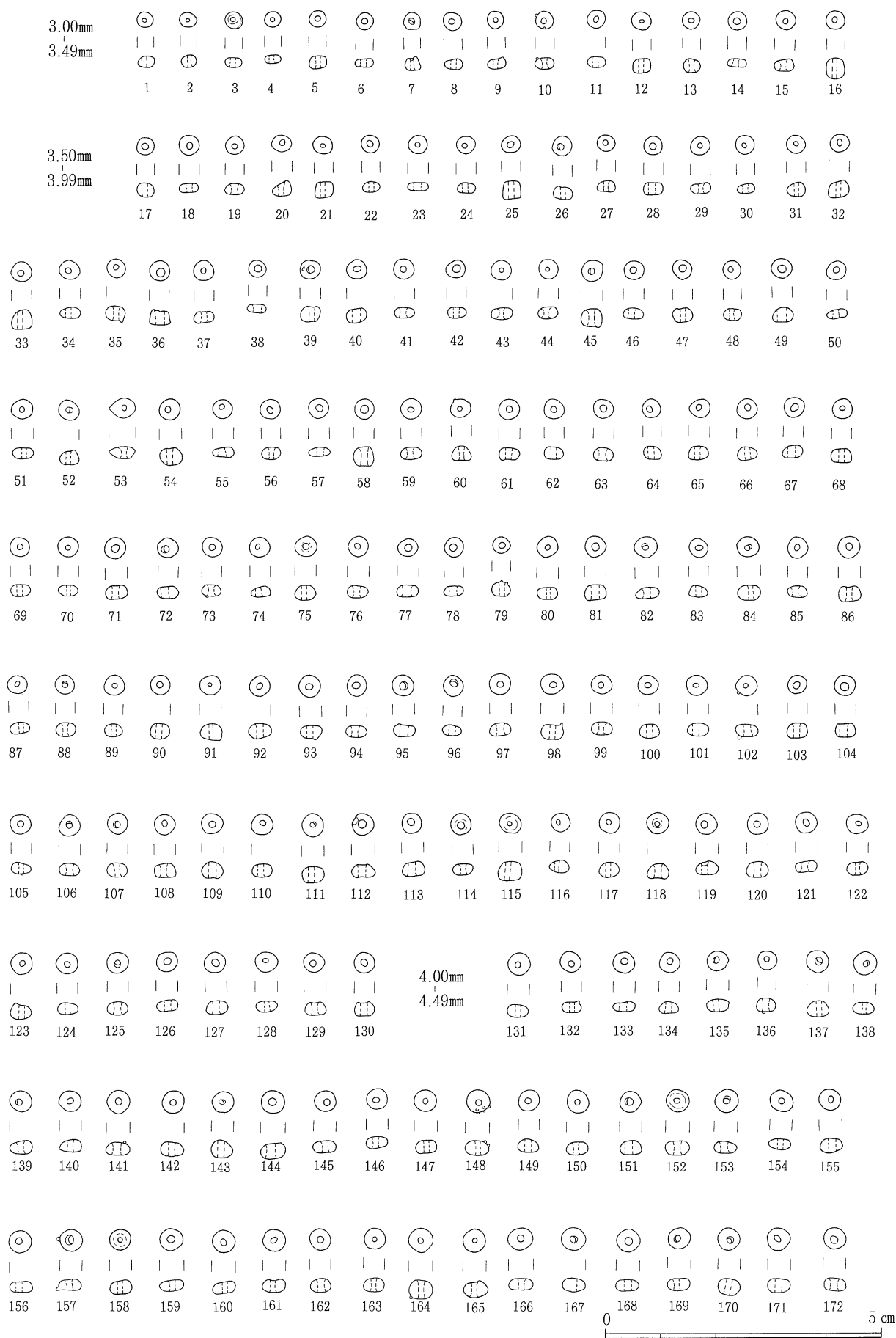
第36図 16号遺構実測図



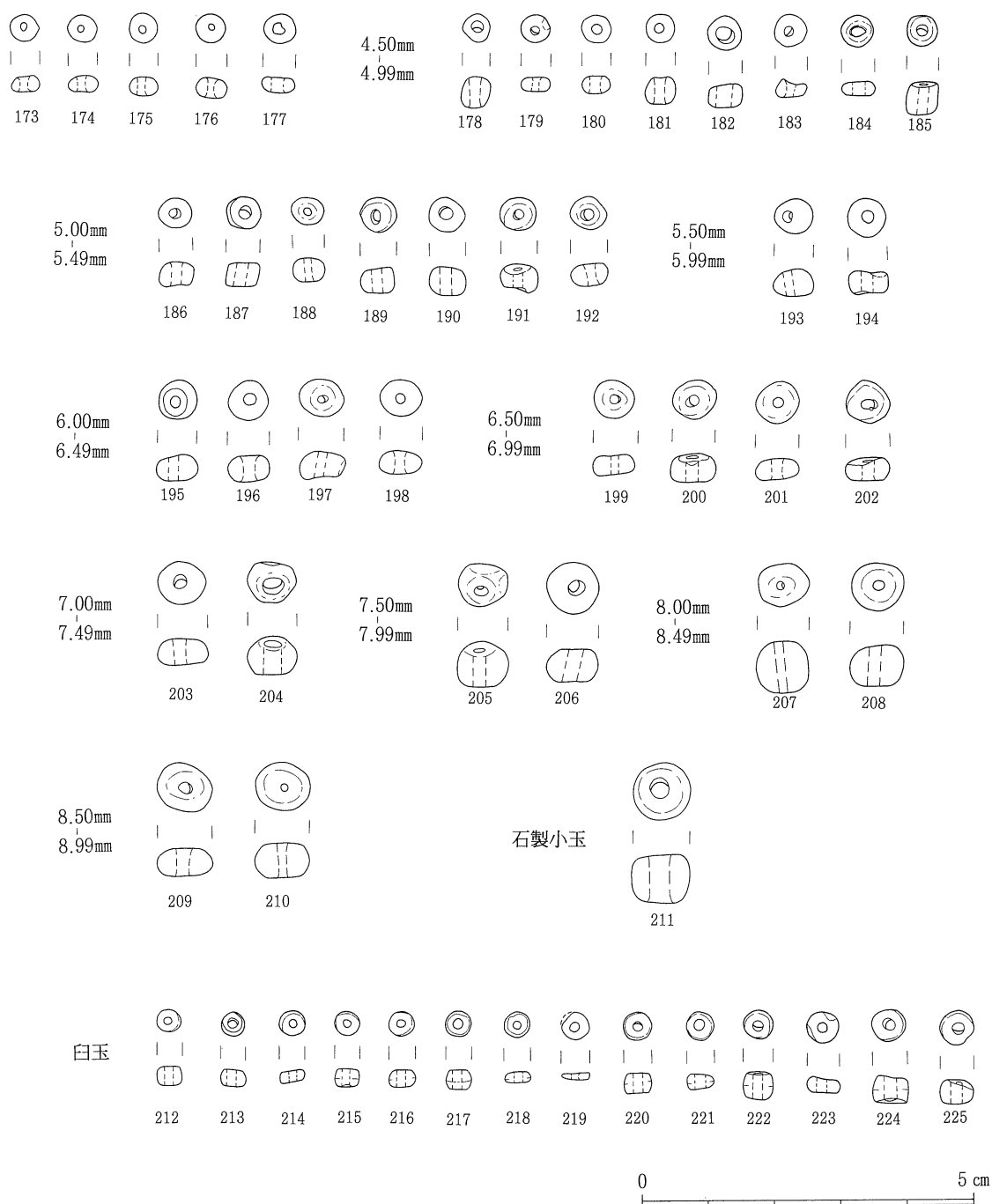
第37図 16号遺構遺物実測図

てかけるような状態で検出されている。この状態から埋葬時に胴釧が腕に通されていたかは判断し難いが、他の遺物と異なり、棺内に納められていた可能性が高い。

ガラス玉は全て小玉とされるものである。色調は、濃・薄の差はあるが、そのほとんどが藍色もしくは紺色とされるものである。その中に、1（附章分析資料）の黄色、40の黄緑色等が少数認められる。近隣における黄色のガラス小玉の出土例は、木更津市金鈴塚古墳で複数個体が認められる。今回検出されたガラス玉は、孔両端の面の有無で形態としては分けられ、概ね外径4.5mm～4.99mmを境として、これ以上のものには明瞭な面をもつものの頻度が高くなる。これ以下のものについては、断面形態が不整形なものも多く、色むらが認められる個体も確認できる。中には製造品に特有とされる表・側面の突起が認められる個体が複数確認できる。内部の気泡については、表面の風化等により、全体を通しての均質な観察が不可能と判断し、報告項目からははずした。



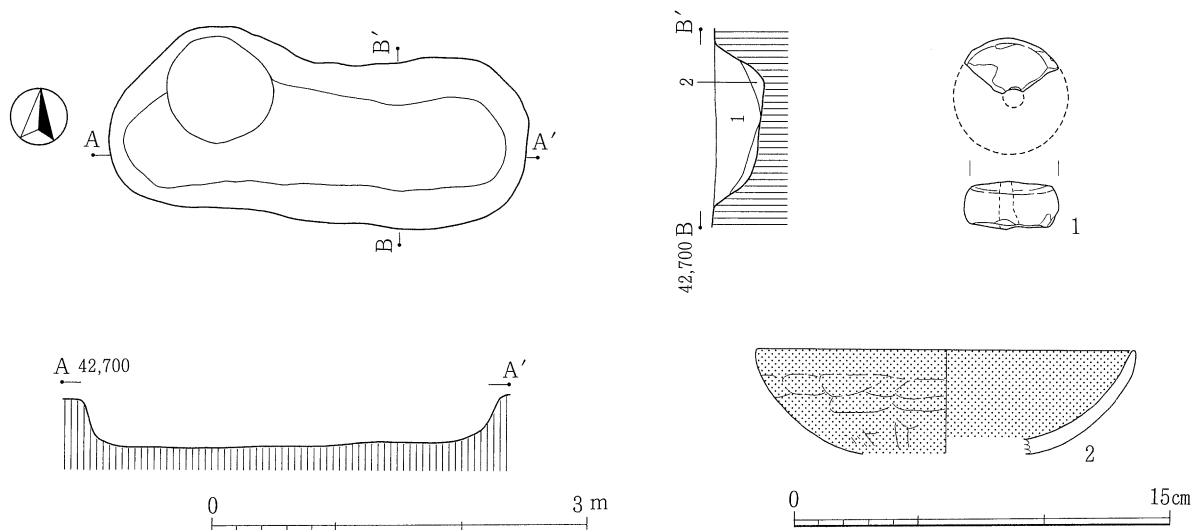
第38図 16号遺構玉類実測図 (1)



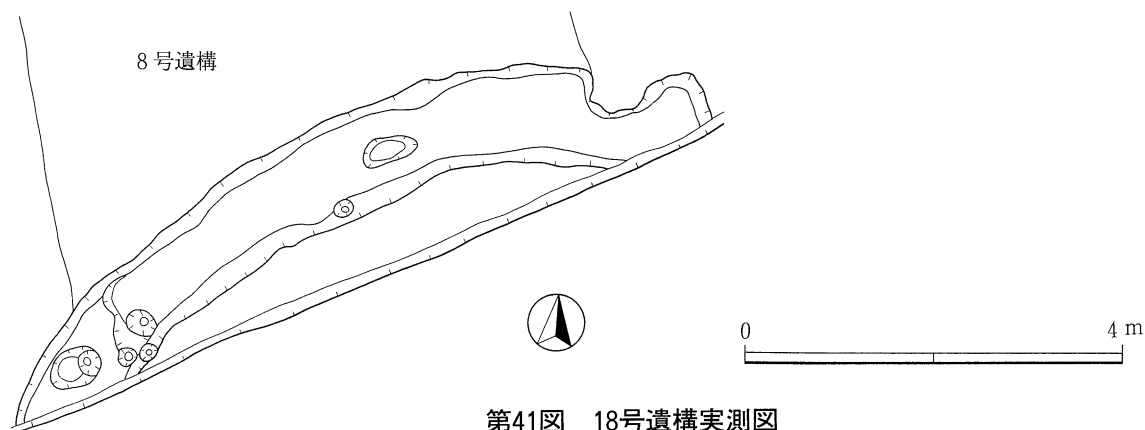
第39図 16号遺構玉類実測図（2）

本遺構の時期については、遺物に金環・長頸瓶を含むことに依拠し、7世紀前半と考える。

土 層 1層暗褐色土でロームブロック少量含み、よく締まる、2層暗褐色土でローム粒多く含み、よく締まる、3層暗黄褐色土でφ5～10mmのロームブロック、砂粒状のローム土を多く含み、よく締まる、4層暗黄褐色土でローム粒・ロームブロックを多量に含み、よく締まる、5層暗褐色土で砂粒状のローム土含み、よく締まる、6層暗褐色土でφ1～2mmのローム粒含む、7層暗黄褐色土でφ5～10mmのロームブロックを多く含む、8層暗黄褐色土で、ソフトローム主体、よく締まる。



第40図 17号遺構実測図と遺物実測図



第41図 18号遺構実測図

17号遺構（第40図）

D 7 グリッドに位置する。平面形態は細長い楕円形を呈する。主軸方位は $N-70^{\circ}-W$ 。長軸3.30 m、短軸1.25 m、深さ32 cm～40 cmを測る。北東側で攪乱を受ける。土層からは木棺痕等埋葬施設を考えるような状況は観察されなかった。

土 層 1 層暗褐色土、2 層暗褐色土でローム粒多く含む。

遺 物 1.2共に覆土上層から出土である。

18号遺構（第41図）

D 7 グリッドに位置する。6 号・8 号・11号遺構を切る。検出されている部分で8 m、周溝幅1 m。復元すると内径8 m程の円形を成すであろうか。周溝は25 cm～35 cmほどの深さで、底面は平坦ではなく、大小の凹凸が見られた。遺物は周辺遺構からの流れ込みと考えられるものが多く、本来この遺構に帰属すると思われる遺物の抽出はできなかった。谷を挟んで西に位置する姉崎六孫王原遺跡では、類似形態を持つ遺構が円形周溝墓として2基報告されており、本遺構も断定はできないが同様の遺構である可能性はある。

第3章 郡本遺跡（第5次）

第1節 調査方法

郡本遺跡（第5次）は、郡本遺跡全域に設定されている、30m×30mを大グリッドとする区分に従ってグリッドを設置した。調査は周辺の宅地化が進んでいる事から、排土場所が十分に確保できない事が考えられた為、本調査区を2分する事で対応した。調査範囲内での本調査区の設定については、区内の樹木の保護を優先して行った。また調査区北側で検出された8号遺構（溝）は調査原因である宅地建設に影響を及ぼす可能性から、遺構の一部を調査するにとどまった。

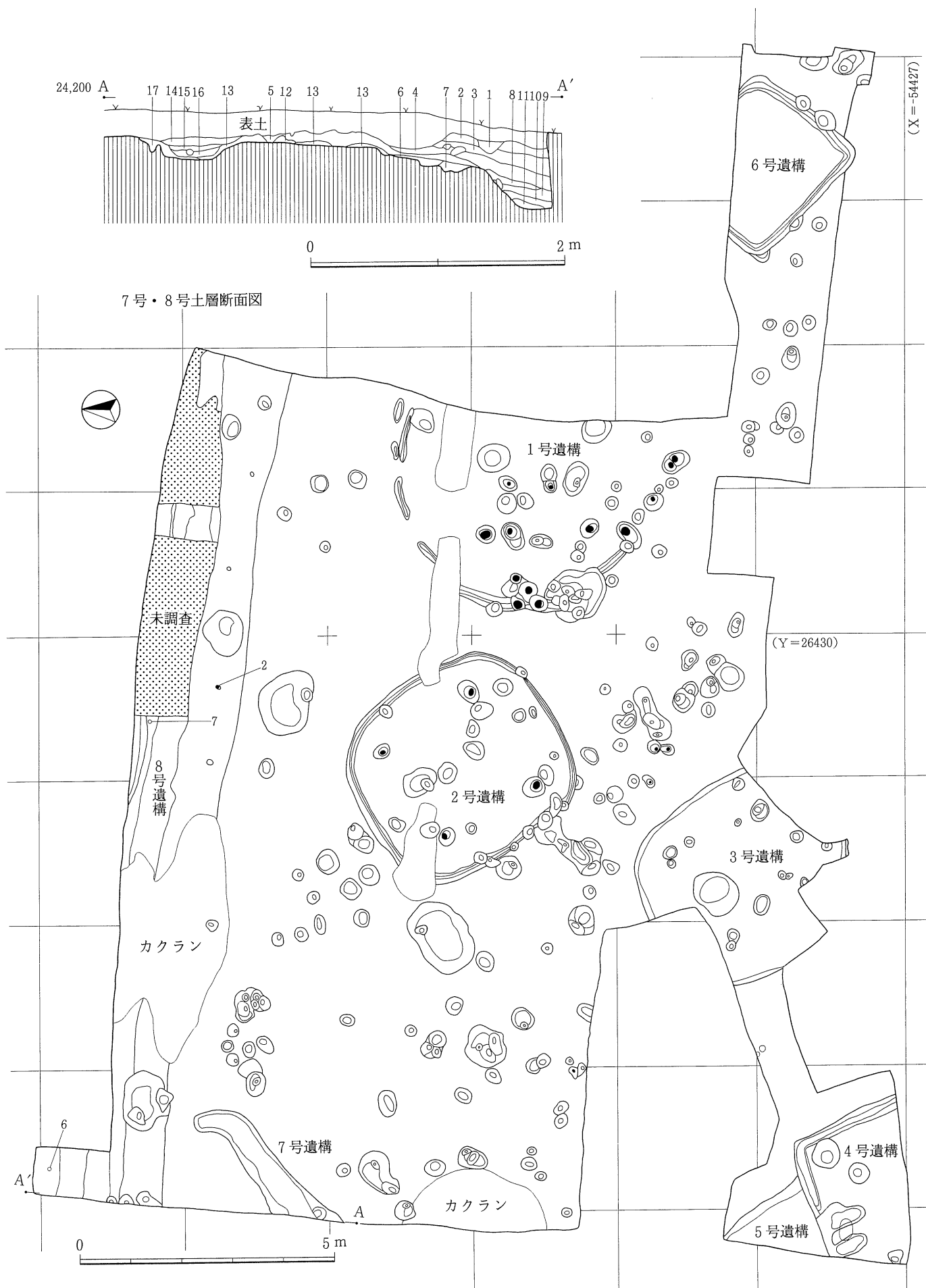
遺構と遺物

1号遺構（第44図）

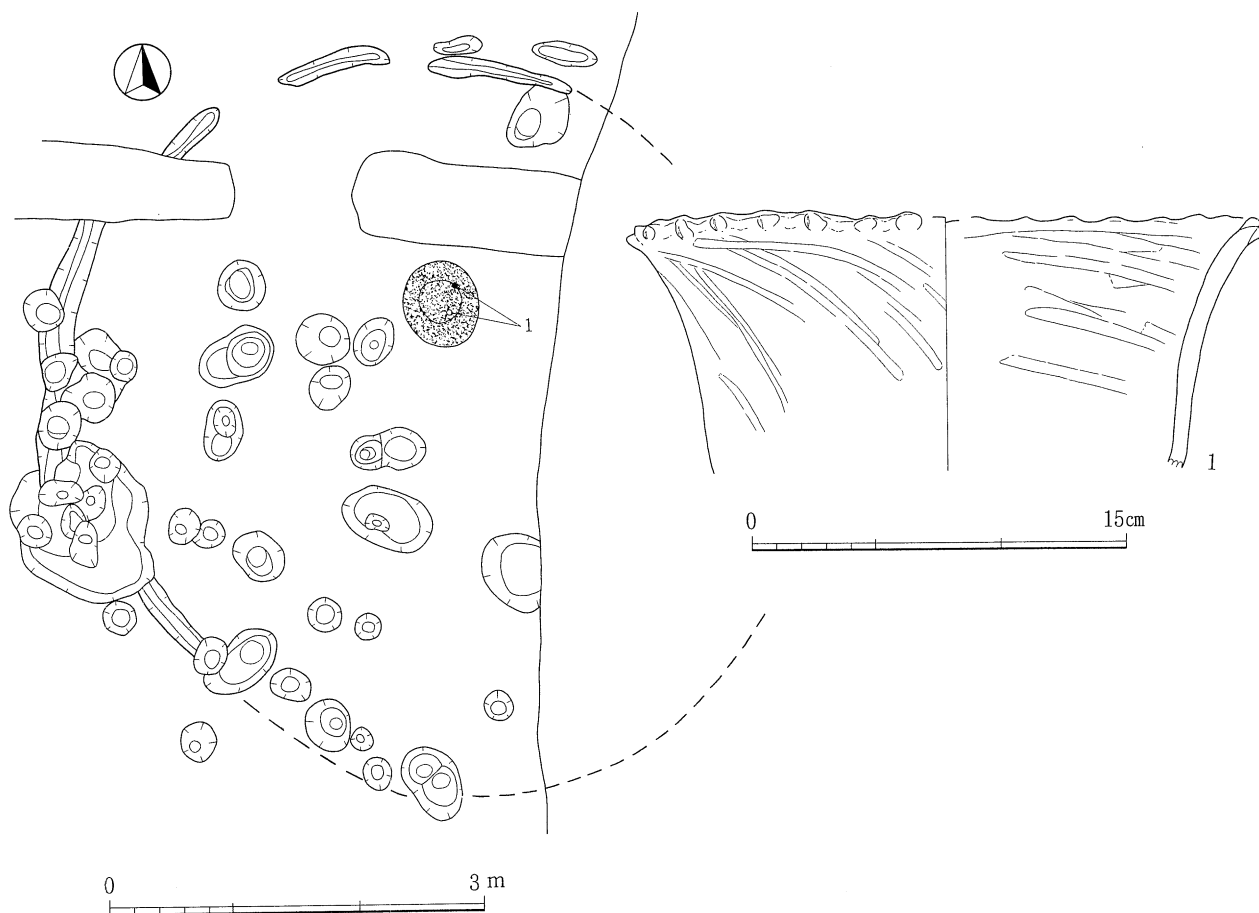
調査区東側に位置する。全体の1/2の検出か。東側は調査区外となる。遺構の保存状態は極めて悪く、床レベルまで攪乱を受けており、遺構プランは断続して残存する周溝をもとに想定する。平面形態はやや胴長の楕円形と考えられる。床面の状況は上記理由により、その様子を知り得ない。住居中央よりやや北東寄りに、69cm×60cmを測る炉が検出されている。周溝は北側・西側で検出されている。北西側で外側を巡るひとまわり大きな曲線を描く浅い掘り込みがあり、住居を拡張していた可能性も考えられる。ピットは住居内外に数多く検出されているが、覆土の様子から、本住居に伴うものはない。



第42図 郡本遺跡（第5次）調査範囲と周辺地形（1/2,500）



第43図 郡本遺跡（第5次）全体図



第44図 1号遺構実測図と遺物実測図

いと判断した。

遺物 1は炉内の焼土中から検出されている。弥生時代中期宮ノ台式期である。

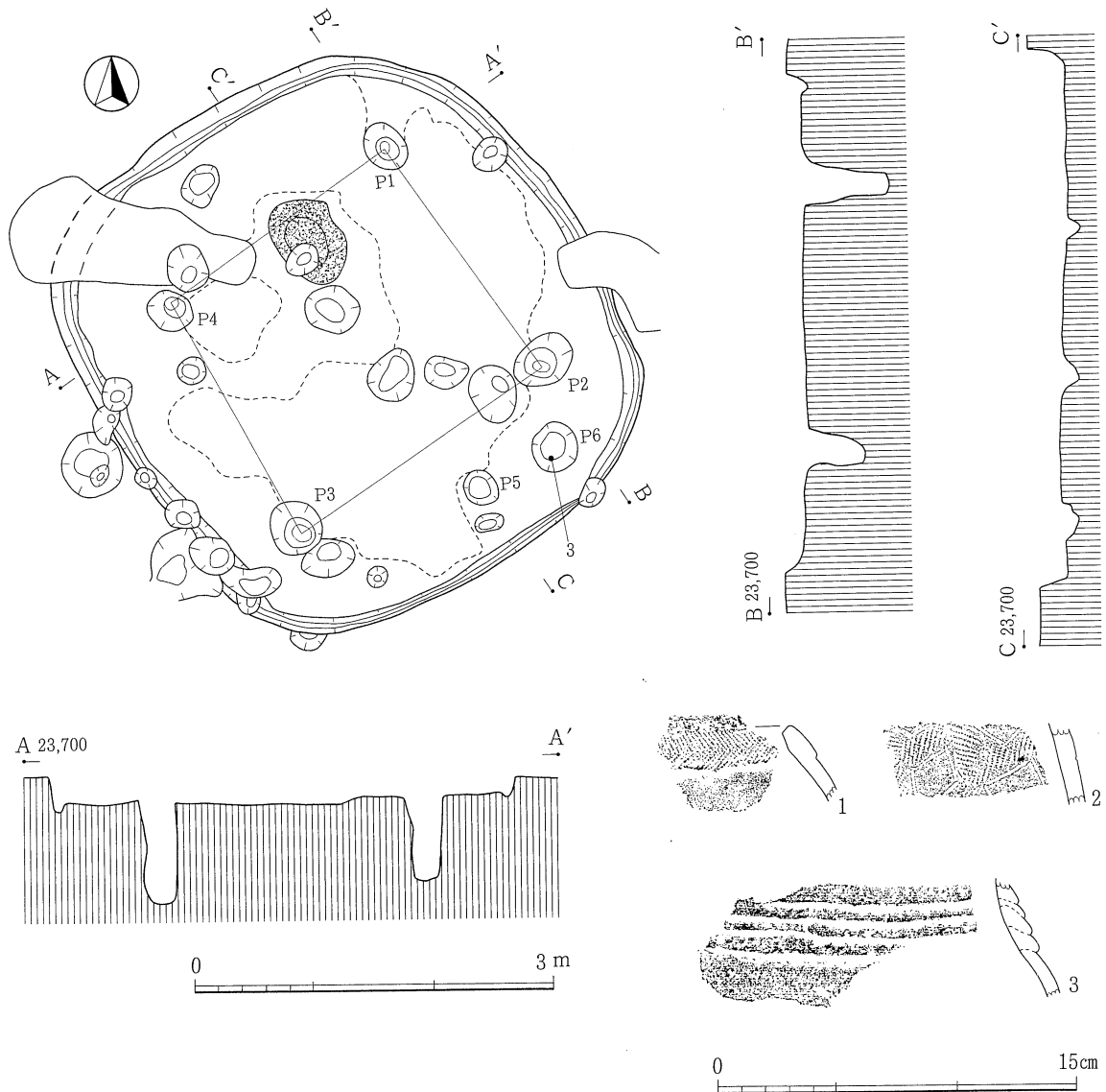
2号遺構（第45図）

調査区ほぼ中央に位置する。北西側と東側で床面を掘り込む攪乱を受けている。平面形態はやや丸みを持つが隅丸方形に近い。4.48m×4.20mを測る。主軸方向はN-34°-W。P 1・P 4ラインよりやや内側中央に76cm×50cmの炉が検出されている。硬化面は偏りなく広がり、平坦だが、それ以外は面的には荒れているといえる。周溝は極浅いが全周する。P 1～P 4は主柱穴で48cm～80cmの深さを測る。すべてに柱あたりが確認された。P 5は出入り口施設に伴うピット。P 6は平面形態が不整楕円形となる貯蔵穴で、36cm×38cmを測る。ほかのピットについては覆土の様子からより新しく、本遺構には伴わないと判断した。壁は緩く開きながら12cm～28cmを測る。

遺物 遺物は1.2.は住居覆土中遺物。3.はP6覆土中より検出されている。

3号遺構（第46図）

2号遺構（弥生時代後期竪穴住居）の2mおいて南に位置する。北西側、南東側、南西側は調査区内の樹木により表土を除去する事が不可能であったため、遺構の全体を検出するには至っていない。平面形態は検出部位から、小判形よりやや方形に近い。短径で4.00mを測る。主軸方向はN-30°-W。床面は主柱穴の内側を中心によく踏み締められている。P 1・3ラインより内側ほぼ中央に96cm×82cmの炉が検出されている。周溝は検出部位を見る限りでは確認できない。P 1～P 3は主柱穴で



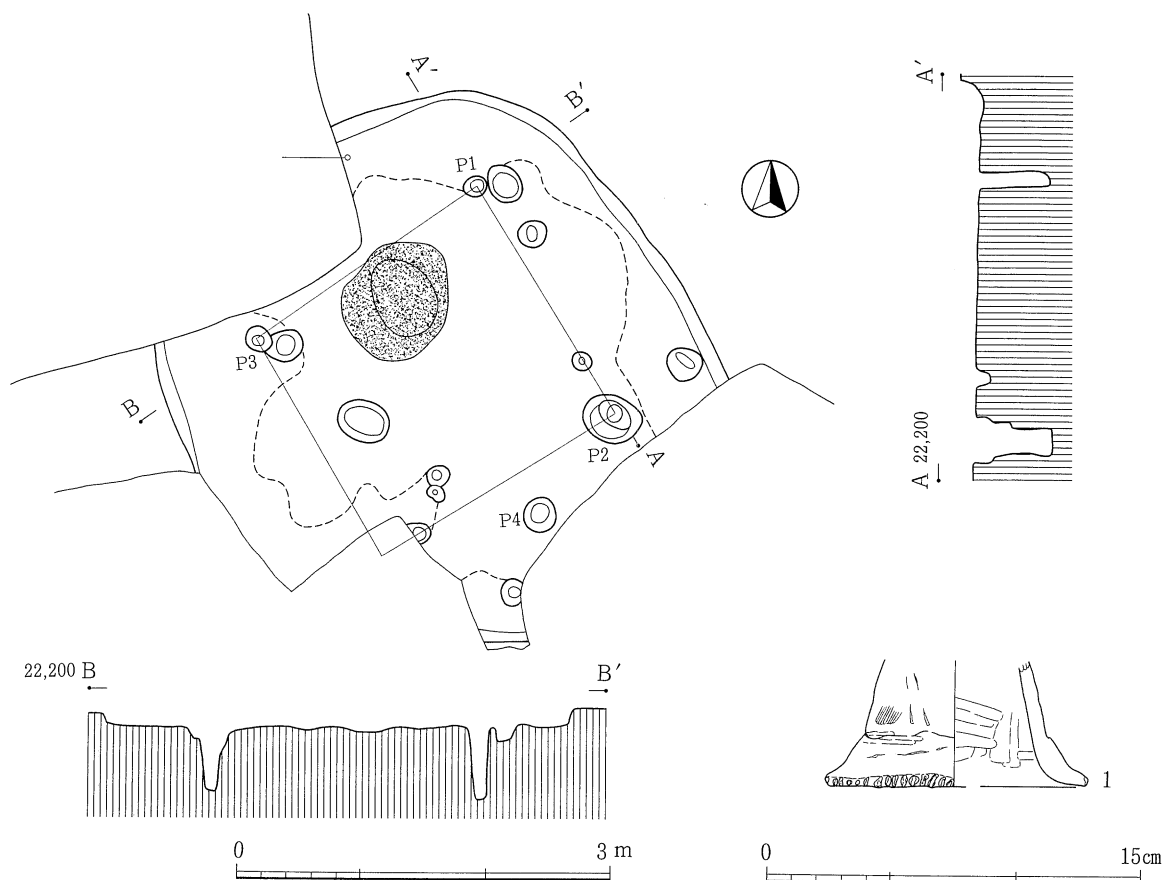
第45図 2号遺構実測図と遺物実測図

50cm～60cmを測る。P 4 は出入口施設に伴うピット。ほかのピットに関しては一定の深さを持っていないことから、建て替えに伴うものとは考えにくい。壁は緩やかに開いて、14cmの高さを測る。

遺物 1は覆土中から検出されている。

4号遺構（第47図）

調査区南西隅に位置する。北側で5号遺構を切る。南側、西側は調査区外となり、遺構の2/3以上は検出できていない。床面はよく踏み締められており、平坦である。ローム以外に暗褐色の土が均質に入ることから全体に貼り床であることがわかる。北側の壁に接してカマドが1基付設されている。住居覆土内に少なからず構築材とみられる薄黄橙色の粘質土が広がっていたこと、袖部の上方より被熱した支脚が検出されたこと等から、住居の放棄時には、カマドは原型を止めていなかった可能性がある。カマドの構造としては、煙道部が住居の外側に明瞭には確認できなかったため、あまり大きく張り出した形は取らず、住居の壁に近いところに開口していたのではないかと推測される。また、焚き口は住居の床レベルよりやや下がる程度で、大きな掘り込みはみられない。加えて、周溝はカマドの下を巡って

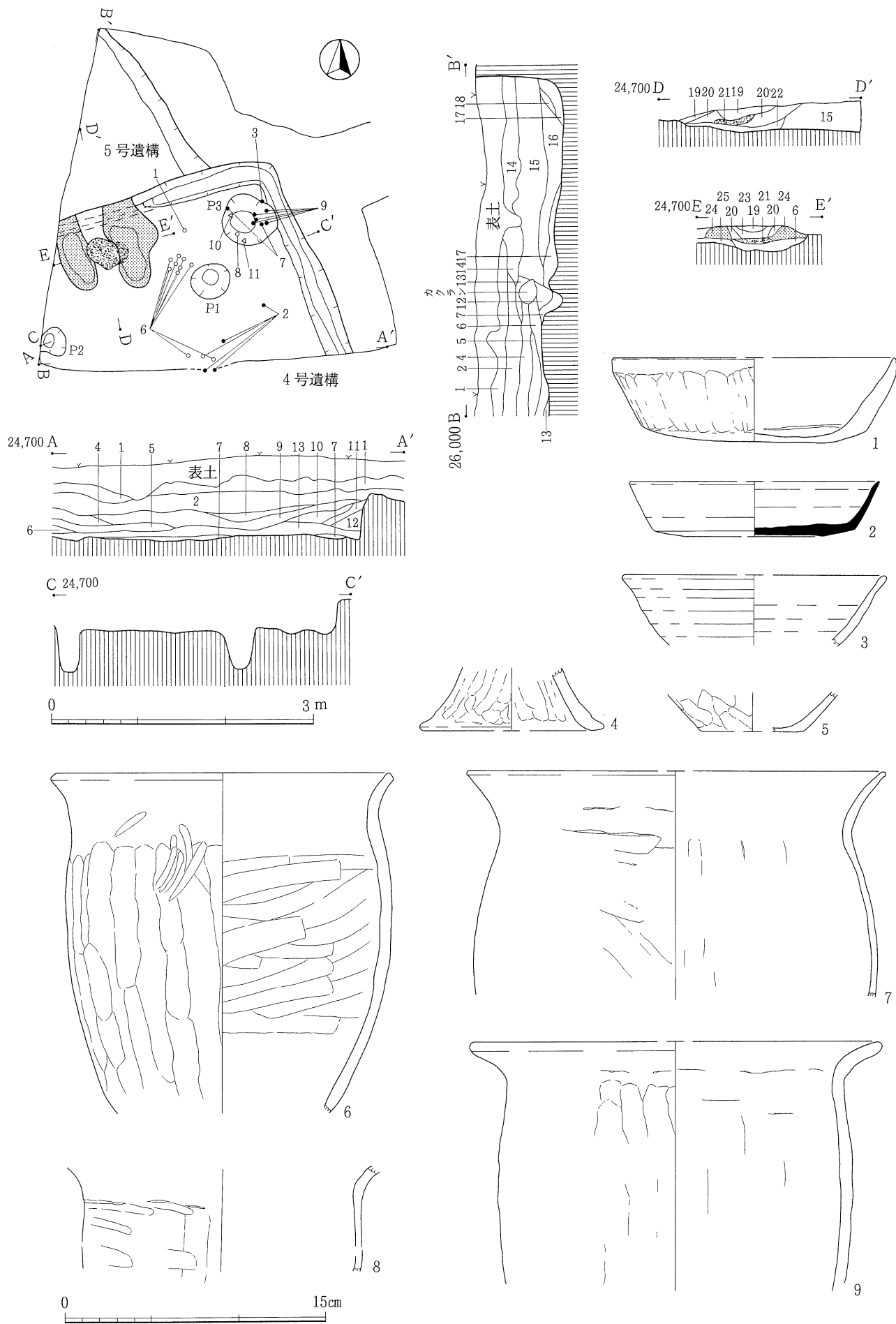


第46図 3号遺構実測図と遺物実測図

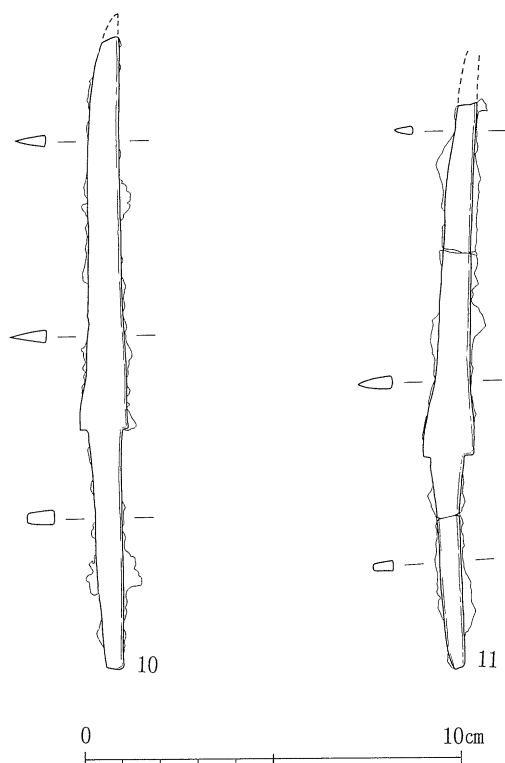
いるため、住居の構成がある程度完成してからのカマドの付設を想定しうる。P1・P2は支柱穴で、40cm～46cmを測る。P3は貯蔵穴で、60cm×58cmを測り、平面形態は不整楕円形を呈する。壁は垂直に近い角度で立ち上がり、46cmの高さを測る。

遺物 3は住居覆土中の検出である。本遺構に伴うとは考えにくい。被熱によるのか還元し灰色をしている。住居覆土中の還元していない資料と接合した。遺構覆土の観察では遺構の切り合いは確認できなかったが、調査区全面に認められるようなピットの存在が考えられる。1はいわゆる「上総型」の土師器杯型土器と同形態をもつ。暗文は認められない。口径は15cm超を復元できる。2は市原産の須恵器ではない。6・9は器壁が厚い。5・7・8は入念なヘラケズリにより器壁が薄く整えられている。11は貯蔵穴の落ち込み際より折れた刀身が平行になった状態で検出された。

土層 1層暗褐灰色土φ1～3mmのローム粒少量含む、2層暗褐色土でφ1～5mmのローム粒多く・炭化物少量含む、3層暗褐色土φ1～5mmのローム粒多く・炭化物少量・明黄橙色極小粒少量含む、4層暗褐灰色土で明黄橙色極小粒密に含む、5層暗褐色土でφ3～10mmのローム粒少量含む、6層暗褐色土で明黄橙色極小粒少量含む、7層暗褐色土でφ3～5mmのローム粒少量含む、8層暗褐色土で明黄橙色極小粒少量含む、9層暗褐色土でφ1～5mmのローム粒多く・炭化物・明黄橙色極小粒少量含む、10層暗褐色土でφ1～5mmのローム粒少量含む、11層暗褐色土でφ3～5mmのローム粒少量含む、12層暗黄褐色土でソフトローム主体、13層暗褐色土で明黄橙色極小粒少量含む、14層黒褐色土でローム粒少量含む、15層暗褐色土でφ3～5mmのローム粒少量含む、16層暗褐色土でローム粒多く



第47図 4号・5号遺構実測図と遺物実測図



第48図 4号遺構遺物実測図

本遺構よりも新しいと判断している。壁はやや広がりながら立ち上がり、11cm～17cmの高さを測る。
遺物 1は底部内面と外面に字の向きを同じくして墨書で「大」の1字がかかれ、字を丸で囲んでいる。底部は回転糸切り無調整。2は体部下端を回転ヘラケズリ。3は底部外面に墨書で「造○カ」の文字が書かれている。底部の中心が文字の下側に位置する事から、他にも文字が書かれた可能性もある。5は床直上から、6・7は床よりやや浮いて検出されている。その他の遺物は覆土からの遺物である。

7号遺構（第43図）

調査区西側に位置する、北東から南西にのびる溝状の遺構である。遺構端部より西側に向け、やや幅が広がる傾向を看取できる。幅60cm、長さ約3m、深さ17cmを測る。底部には凹凸があり、立ち上がりは緩やかである。遺物は少ないが、遺構底付近より弥生時代後期の土器片が検出されている。郡本地区において確認された事例を見ないので、断定はできないが、本遺構は方形周溝墓の可能性も考えられる。

遺物 1・2は共に溝覆土下層より検出されている。

8号遺構（第43図）

調査区北側に位置し、東西方向にのびる。調査区での遺構全長は17m。最大幅は2.5mに及ぶ。1993・1994年に（財）千葉県文化財センターにより、5次調査区北側に接して通る道路（主要地方道五井・本納線）の歩道部を調査しており、その際に東西にのびる溝が2条検出されている。今回検出された溝はこの溝の南側のり面に当たると考えられる。土層の堆積状況を観察すると、北側に向かう大きな傾斜が認められる事から、検出された最下位の平坦面よりも更に北側に落ち込む形状を呈する可

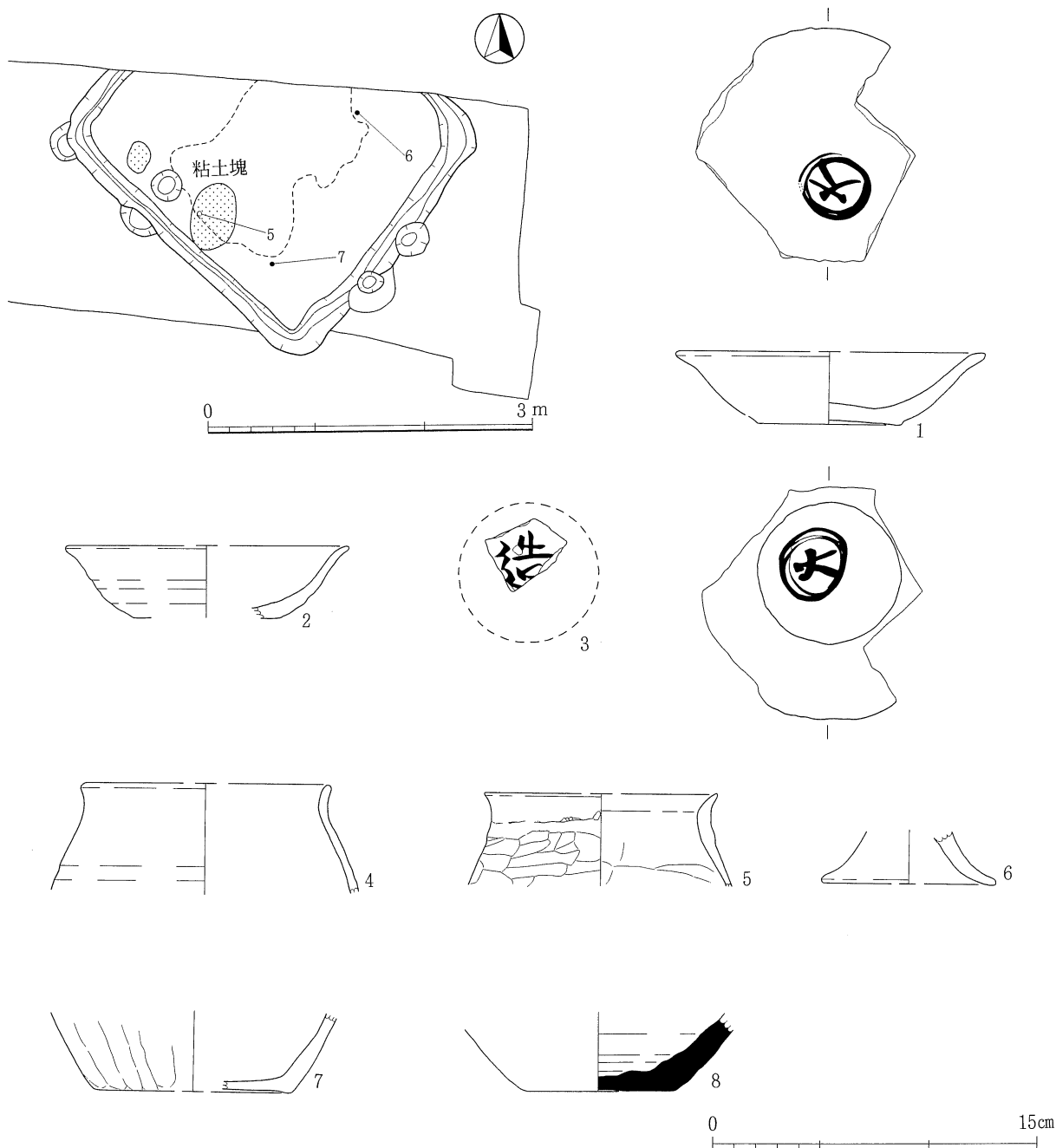
含む、17層暗黄褐色土でローム粒多く含む、18層暗褐色土でローム粒少量含む。

5号遺構（第47図）

調査区南西隅に位置する。南側で4号遺構に切られる。底面は平坦だが、踏み締まった様子は看取できない。検出面積も少なく、遺物も皆無であることから、性格は不明である。

6号遺構（第49図）

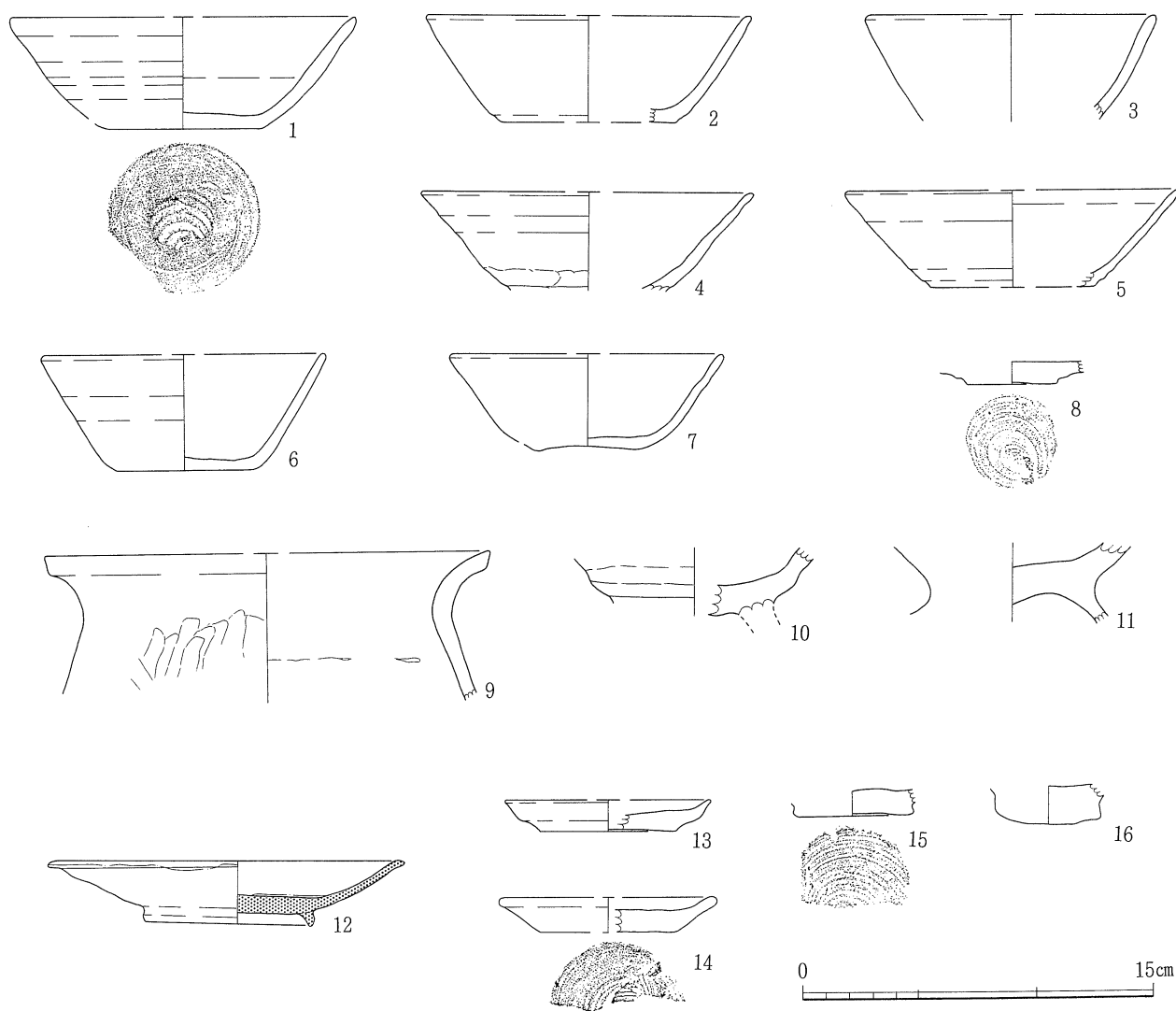
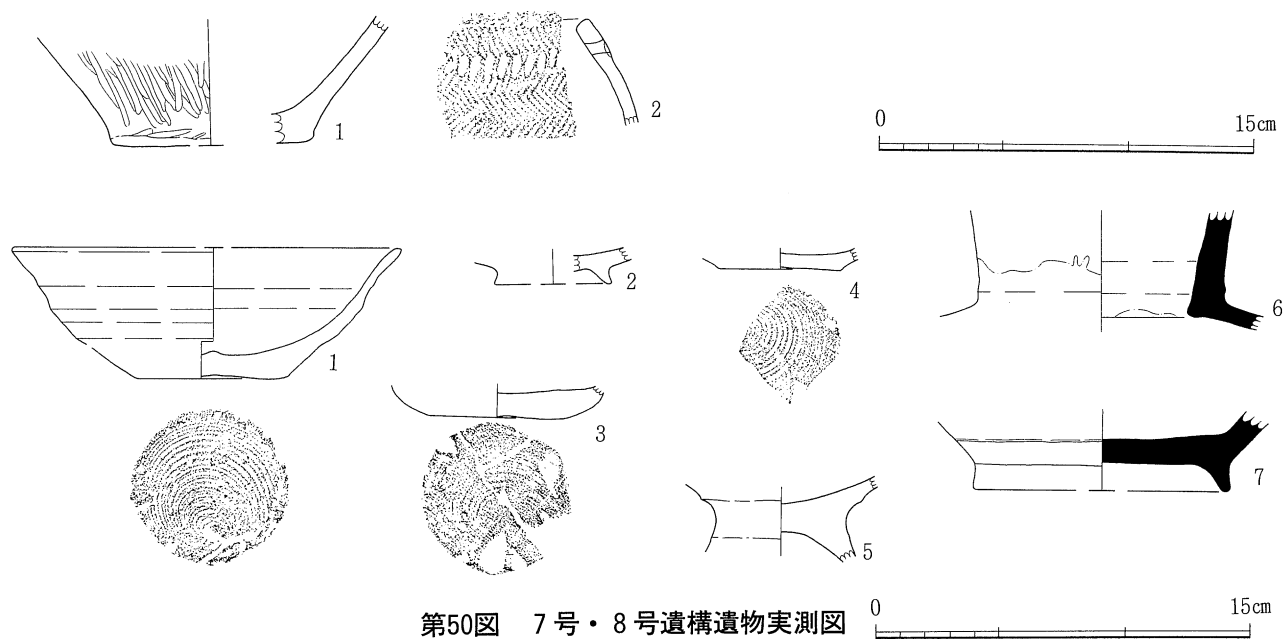
調査区南東隅に位置する。北側は調査区外で、本遺構の2/3の検出に止まる。平面形態は方形。3.00m×2.76mを測る。床面は、硬化面として図示した範囲は、ロームが露出しており、よく踏み締まっている。それ以外は貼り床をしており、やや締まる程度。西側壁付近で黄橙色粘質土塊が検出されているほかに、北側において、覆土中にも粘質土が散見された事から、カマドが付設されていた可能性もある。周溝は検出範囲内では全周する。ピットは覆土の状況から、



第49図 6号遺構実測図と遺物実測図

能性が高い。

土 層 1層暗褐色土で $\phi 1 \sim 3 \text{ mm}$ のローム粒少量含む、2層暗褐色土で $\phi 1 \sim 5 \text{ mm}$ のローム粒少量含む、3層暗褐色土で $\phi 1 \sim 5 \text{ mm}$ のローム粒・炭化物少量含む、4層暗褐色土で $\phi 1 \sim 10 \text{ mm}$ のローム粒多く含む、5層暗黄褐色土でローム粒少量含む、6層黒褐色土、7層暗黄褐色土、8層暗黄褐色土でロームブロック少量含む、9層暗黄褐色土でロームブロック少量含む、やや締まる、10層暗黄褐色土でやや褐色がかり、ローム粒多く含む、11層暗黄褐色土でやや褐色がかり、ロームブロック少量含む、12層暗黄褐色土でやや褐色がかり、ロームブロック少量含む、やや締まる、13層暗褐色土でローム粒少量含む、14層暗褐色土でローム粒多く含む、15層暗褐色土で $\phi 3 \sim 5 \text{ mm}$ のローム粒少量含む、16層暗褐色土でローム粒多く含む、17層暗黄褐色土でローム粒多く含む。



第4章 五所居下遺跡

調査方法

調査範囲内に、任意のトレンチを5本設定し、遺構の有無を確認した。低位に位置するため、湧水があり、トレンチの片側に排水用のサブトレンチを設置し、排水しながら遺構の有無を確認した。

遺構と遺物（第53図）

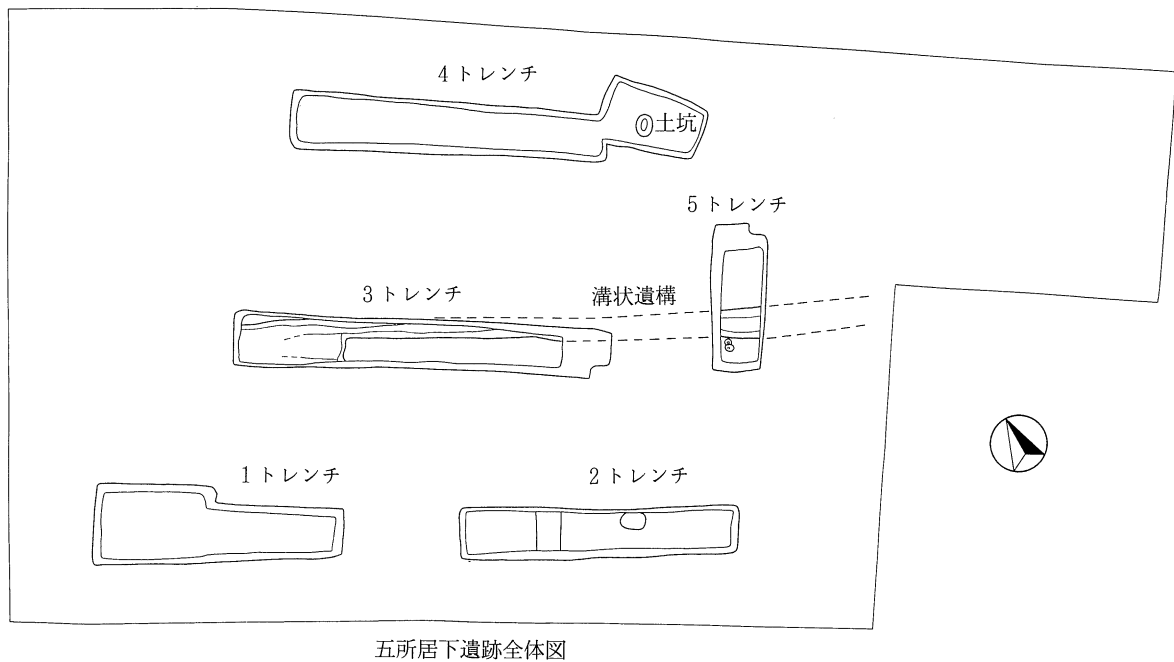
土層は、最上層の盛り土から8層が確認できた。各トレンチにより若干の差異が見られ、1・2トレンチでは8層までは認められず、最下層は青灰色粘土層となる。3トレンチでは2・3層間、3層中に泥炭層が薄く堆積する。2層は近世の陶器片を含むことから、近世以降の耕作土と考える。遺構は3・4トレンチで溝が1条検出された。確認面での規模は、幅100cm、深さ50cmを測る。溝の時期を明確にする遺物は確認できないが、古代の遺物を包含する層を切っており、それ以前にはならないであろう。4トレンチでは、平面形態が楕円形、70cm×50cmを測る土坑が1基検出された。遺物は2が土坑から検出されたが器表が摩滅しているため時期は不明。他に、1が1トレンチから出土した。2は4トレンチ内土坑より試掘時に検出されている。3は3トレンチ内の溝覆土から出土している。4～8・10は5トレンチ、9は5トレンチの3層、7層より検出されている。

小 結

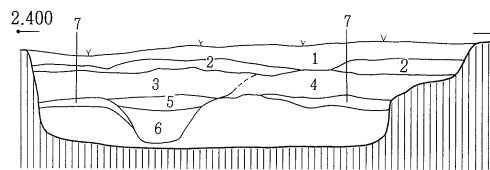
今回の調査は小範囲の調査であったため遺構の性格については不明な点が多く残る結果となった。その中で当調査区が砂堆から海岸平野につながる変換点であり、複雑な旧地形をもつこと、当地点に古代以降の土地利用が確認できたこと、などが成果といえる。



第52図 五所居下遺跡調査範囲と周辺地形（1/2,500）

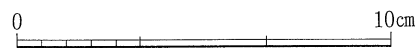
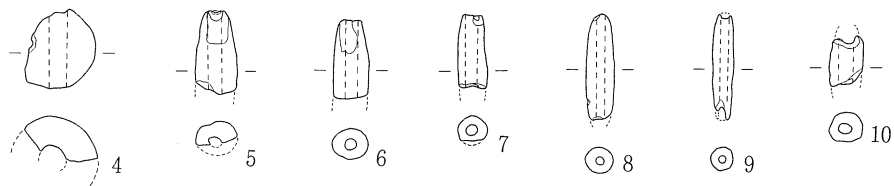
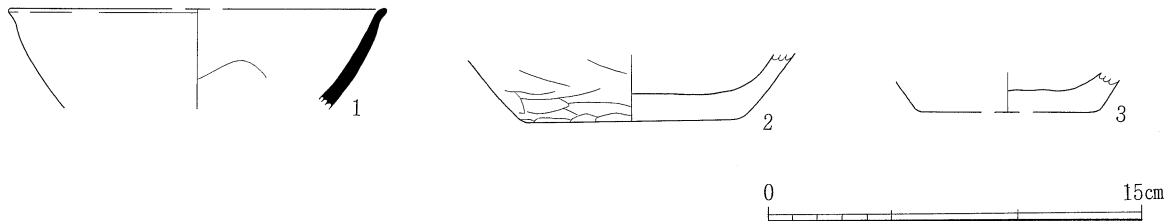


五所居下遺跡全体図



5 トレンチ西側断面図

- 1層：盛り土で各トレンチで確認できる。
 2層：暗茶褐色混貝土層。キサゴ等巻き貝主体。戦後の水稲耕作時の貝肥と考えられる。
 3層：茶褐色混貝土層。2層に比べ貝の混入比は低く、巻き貝主体。貝肥の可能性ある。
 4層：茶褐色土。
 5層：暗褐色粘質土。
 6層：黒褐色砂質土。
 7層：暗茶褐色粘質土。土師器片や土鏝を包含する。
 8層：黄橙色砂層。



第53図 五所居下遺跡全体図及び出土遺物実測図

第5章 新堀小鳥向遺跡

調査方法

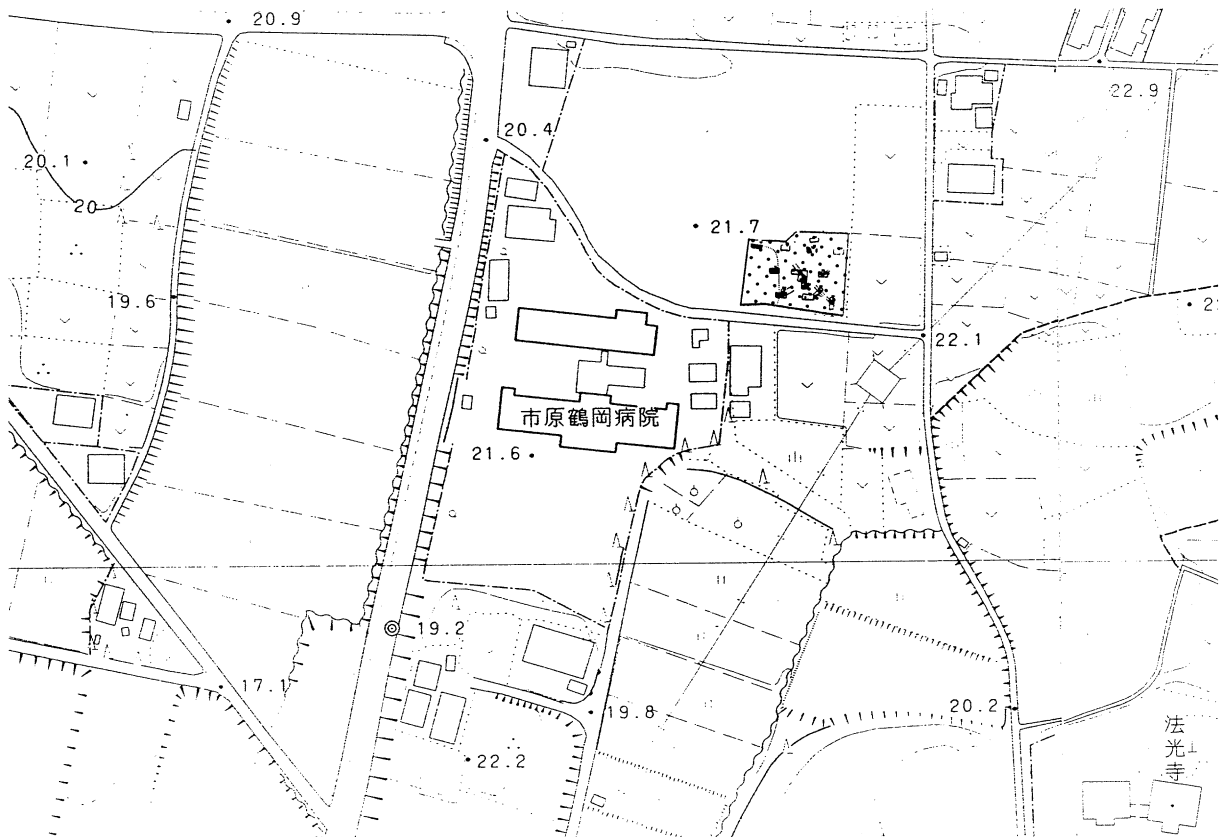
調査範囲内に任意のトレンチを設定し、遺構の有無を確認した。また、性格の不明な遺構については一部を掘り下げるか、トレンチを拡張してその把握に努めた。

遺構と遺物（第55図）

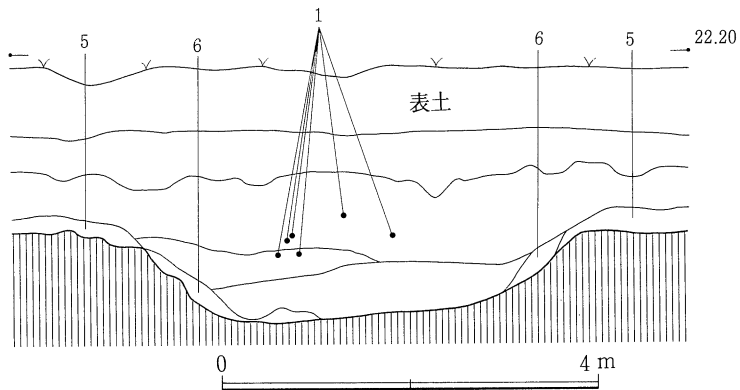
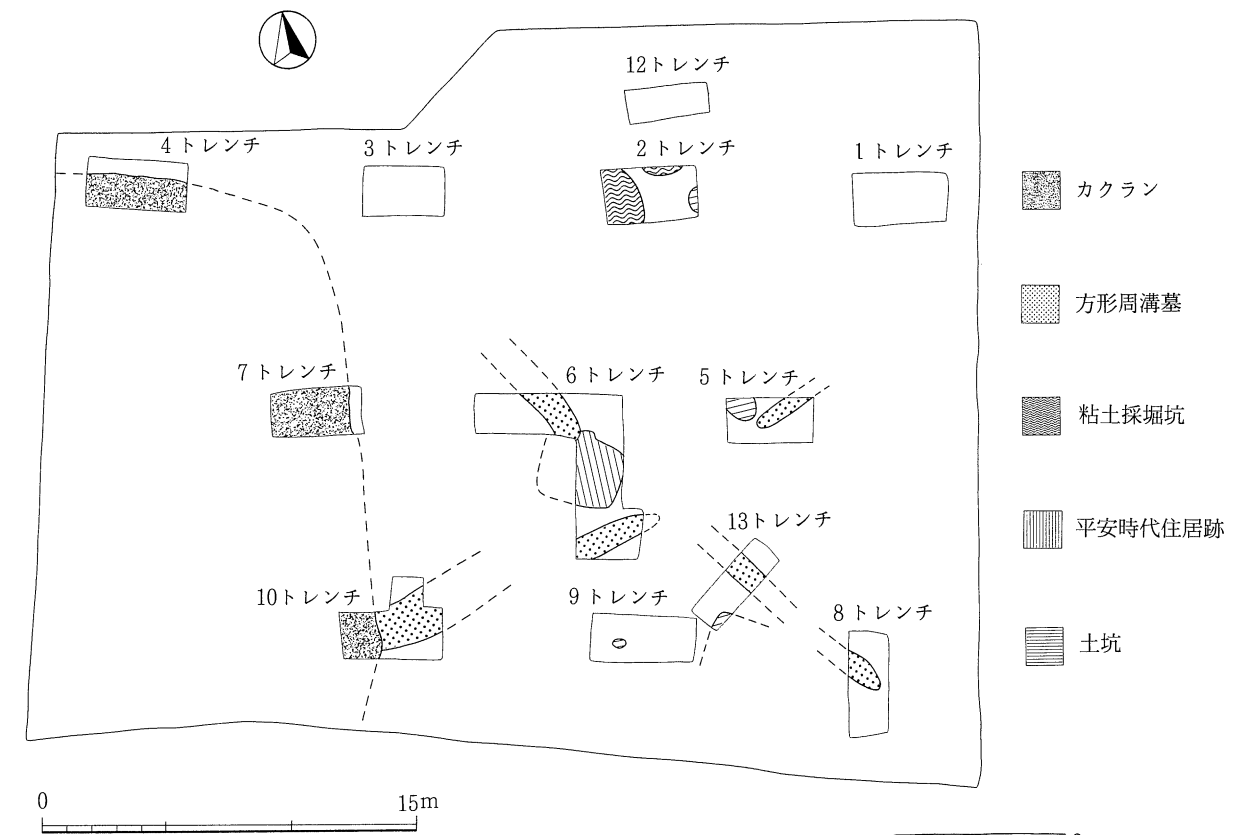
調査の結果、表土層下の地形は、東から西に向かって緩やかに傾斜すると見られ、特に3トレンチ北側断面では、現地表より確認面までは151cmを測ることから、北西方向に浅い谷地形が展開する可能性が高い。表土は全体に削平、盛り土が行われているらしい。調査区西側では全体の約1/3弱を表土下2m以上の掘削を受けており、検出された遺構の一部は削られ検出できなかった。遺構は、古墳時代前期の方形周溝墓と見られる溝が3基、古墳時代後期竪穴住居跡1軒、平安時代竪穴住居跡1軒、粘土採掘坑と思われる土坑2基、時期不明土坑3基が検出された。出土した遺物は、1が周溝覆土上層からの出土。2・3は縄文時代中期の土器である。4は検出された竪穴住居の床直上から出土。5・6は平安時代の竪穴住居跡の覆土上層から検出されたものである。

小 結

今回の調査では古墳時代前期から平安時代までの遺構が確認されたが小規模な谷がは入り込むことから集落の端に当たるものと考えられる。方形周溝墓と見られる遺構が検出されており、墓域として周辺に方形周溝墓群が点在するものと見られる。養老側右岸の低位段丘に位置する遺跡として重要であり、叶台遺跡の集落跡との関係も含め、調査成果の類積が待たれる。

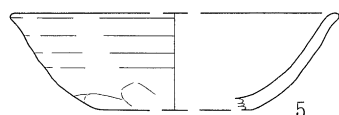
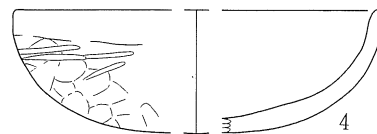
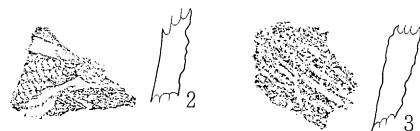
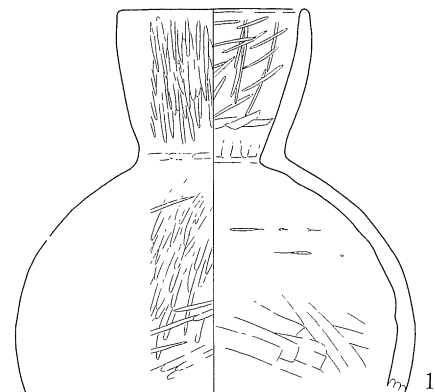


第54図 新堀小鳥向遺跡調査範囲と周辺地形



10トレンチ土層図

- 1層：暗褐色土。焼土粒を多く含む。比重の軽い鉾津が少なからず含まれる。
- 2層：暗茶褐色土。
- 3層：暗茶褐色土。ローム粒少量含む。
- 4層：暗褐色土。
- 5層：暗黄褐色土。漸移層。
- 6層：黄褐色土。ローム粒多く含む。



0 15cm

第55図 新堀小鳥向遺跡全体図及び出土遺物実測図

第6章 ま と め

畑木小谷遺跡の調査では、縄文時代早期炉穴13基、陥し穴1基、弥生時代後期住居跡7基、古墳時代前期堅穴住居跡4軒、古墳時代中期堅穴住居跡1軒、古墳時代中期～後期古墳3基、古墳時代後期土壇2基等が検出された。姉崎六孫王原遺跡では古墳時代中期以降の集落が断絶しており、本遺跡でも同様の傾向は看取できる。これをもって姉崎地区の集落変遷について言及する術をもたないが、これまでの調査では当地区の東端に位置する畑木小谷遺跡の内容は、古墳時代中期以降の動きの中で捉えなければならないと考える。馬歯を出土した15号遺構周溝内の土壇についてふれると、馬骨が検出された遺構例としては、主に溝、河川、井戸、土坑などからの例が挙げられる。これらの遺構から出土する馬骨は、ある目的を持って殉殺されたものと、廃馬として扱われたものと考えられている。今回の報告事例は、土壇が古墳周溝内という位置にあり、古墳造営と大きな時間差をもたずに造られたと考えられることから葬送との関連性があるものと思われる。また、出土遺物が皆無であることや、土壇の規模が馬一体分に相当する大きさである事などから、本遺構を、被葬者の葬送儀礼に伴った馬の殉殺に関連する遺構として捉えたい。国内での馬の殉殺と考えられる事例は、福岡県、熊本県を中心として全国に5世紀末から7世紀までのものが報告されている。県内では佐倉市神門大作31号墳、柏市尾井戸遺跡3号土坑の2例が挙げられる。

郡本遺跡（第5次）の調査では、弥生時代中期堅穴住居跡1軒、弥生時代後期堅穴住居跡2軒、奈良・平安時代堅穴住居跡2軒、平安時代溝状遺構1条等が検出されている。

弥生時代の遺構からは、宮ノ台式期を上限として、第1次・2次・4次で検出された後期の集落が広く展開していることが予想できる。奈良・平安時代の遺構では、4号遺構から出土した土師器杯や器壁を薄くヘラケズリした甕などから8世紀中葉前後に当たると考える。6号遺構では2点の墨書土器が検出されている。どちらも覆土からの出土であることと、遺構周辺はより新しい時期のピット群が認められるため、本遺構に伴うかは断定し得ない。郡本遺跡における出土文字資料としては、第1次、第4次で1つの住居跡から複数検出されている。今回出土した「大」「造○カ」は共に土師器杯底部に、後者は杯内面底にも書かれているものである。県内の事例を見てみると、「大」については30遺跡ほどで認められ、概ね土師器杯底部外面に墨書で書かれ、8世紀後半～9世紀半ばの堅穴住居跡から出土したものが多い。今回の事例のように文字が丸で囲まれ、底部両面に書かれたものはない。「造」については破片資料のため「造」であるか確信はない。同様に県内での事例を探すと「造寺」が2点認められる。1つは市川市下総国分寺跡10区2溝覆土より9世紀前半の土師器杯底部外面に墨書で書かれている。2つ目は上総国分寺との関連性が強いと考えられる市原市坊作遺跡で、時期・出土遺構は不明であるが、同器種、同部位に墨書で書かれている。最後に、調査開始時の表採資料である灰釉陶器であるが、器形からK-90号窯式と思われる。1993年に（財）千葉県文化財センターが実施した北側に隣接する歩道部の調査で、2条検出された溝の内、新しいものから同窯式期の灰釉陶器が検出されている。その遺構と同一遺構であると考えられることから、この灰釉陶器も、8号遺構に伴うのではないかと推測される。

附章 市原市畑木小谷遺跡出土のガラス玉材質分析

小泉好延 (東京大学アイソトープ総合センター)

小林紘一 (東京大学原子力研究総合センター)

1. はじめに 市原市畑木小谷遺跡から出土したガラス玉の分析を行った。本邦の弥生時代から古墳時代の遺跡から出土する「古代ガラス」の形態は大部分がガラスビーズである。古代ガラス玉の製造技術で重要なことは材質に関することであろう。材質が明らかとなれば、アルカリ石灰ガラスと鉛ガラスの大別のみならず、詳細な分類が可能となる。原料鉱物やその調合などの解明がすすみ、製造技術も明らかにできるであろう。また、ガラス着色成分による分類からも着色技術と伝播、流通経路の考察が可能となろう。一般に、遺跡出土物は化学分析に必要な試料の溶解、分離抽出、濃縮操作が許される場合が少なく、遺物の定量分析データが十分に蓄積されているとはいえない状況にある。幸いに、ガラスは、表面が極端に腐食している場合を除けば、均質であり、非破壊分析により定量データを得ることが出来る。現在、筆者らは物理領域で用いられている加速器を使用して、東日本の古代ガラスの非破壊分析からデータの蓄積を進めている。また、最近、北九州の弥生時代遺構出土のガラス玉材質分析から、時代変遷と地域間の比較検討も進めている。今回のガラス試料は黄色の色調を持つガラス玉1試料であるが、結果を検討するために、他の遺跡から出土した同色のガラスや弥生時代から古墳時代に出土する紺、青色ガラス玉との比較を行った。

2. 分析方法 PIXE分析法(荷電粒子励起X線分析、Particle Induced X-ray Emission)を用いた。PIXEは加速器によって陽子や α 粒子を高エネルギーに加速し、試料に照射して行われる分析である。試料の含有元素から発生する特性X線のエネルギースペクトルを半導体型放射線検出器で測定し、多元素を同時に分析する。この方法の特徴は、試料破損が無く、放射線による着色が生じないこと、多元素を同時に分析できることである。筆者らはPIXE分析をナトリウムから鉛、ウランまで同時に分析できるよう改善し、考古遺物の材質分析に使用している。試料処理と分析装置の条件は次の通りである。試料は表面の汚れを除去するために、蒸留水・エタノール1:1溶液で、低出力にした超音波器で3分間の洗浄を行った。PIXE分析は東京大学原子力研究総合センターのタンデム加速器を用い、照射エネルギーと粒子は3 MeVのプロトン、照射ビーム径0.5mm、照射電流値0.5~1 ナノアンペア(nA)、照射電荷量200~1000ナノクーロン(nC)の条件で行った。X線検出は高純度Si半導体検出器とCZT半導体検出器の両者を使用し、検出された特性X線エネルギースペクトル(PIXEスペクトル)の解析から元素の同定と定量を行った。

3. 結果 本遺跡出土のガラス玉分析結果を表に示す。また、比較のために、他の遺跡出土の同色にガラス玉と紺、青色のガラス玉の分析結果を表2に示す。分析された主成分、副成分は酸化物として重量パーセントで示した。また、測定したPIXEスペクトル例を図に示す。

4. 考察 古代ガラスは主成分と着色成分によって分類ができる。古代ガラスの主成分はケイ素(Si)、アルミニウム(Al)、ナトリウム(Na)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、マグネシウム(Mg)、鉛(Pb)、バリウム(Ba)などである。主成分によってアルカリ石灰ガラスと鉛成分の多い鉛ガラスに分類されるが、アルカリ石灰ガラスは、カリウムを多く含有し、ナトリウムが少ないカリ石灰ガラスとナトリウムとカルシウムを多く含有するソーダ石灰ガラスに分類される。この時代の遺跡で多く出

表 1. 市原市畑木小谷遺跡出土ガラス玉の分析結果

酸化物 wt%														
	色調	SiO ₂	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	K ₂ O	CaO	TiO	MnO	Fe ₂ O ₃	CuO	PbO	SnO	BaO
**遺跡ガラス玉	黄	72.5	6.8	n. d	8.7	2.7	2.7	0.6	0.09	2.3	0.04	4.0	0.29	n. d

n. d : 検出限界値以下

表 2. 他の遺跡出土黄色および紺、青色ガラス玉の分析結果

酸化物 wt%														
	色調	SiO ₂	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	K ₂ O	CaO	TiO	MnO	Fe ₂ O ₃	CuO	PbO	SnO	BaO
古墳出土ガラス玉-1*	黄	60.3	14.7	0.8	12.4	2.6	3.6	0.4	0.1	2.7	n. d	2.2	0.17	n. d
古墳出土ガラス玉-2*	黄	62.9	13.1	0.3	10.6	2.2	2.6	0.8	0.1	4.7	n. d	2.5	0.16	n. d
古墳出土ガラス玉-3**	紺	75.7	n. d	n. d	4.8	13.1	2.2	n. d	2.2	2.0	n. d	n. d	n. d	n. d
古墳出土ガラス玉-4**	青	80.1	n. d	n. d	5.5	9.6	0.6	n. d	n. d	1.0	1.5	0.4	n. d	n. d

n. d : 検出限界値以下

* : 東京飛鳥山1号墳出土ガラス玉 (未発表)

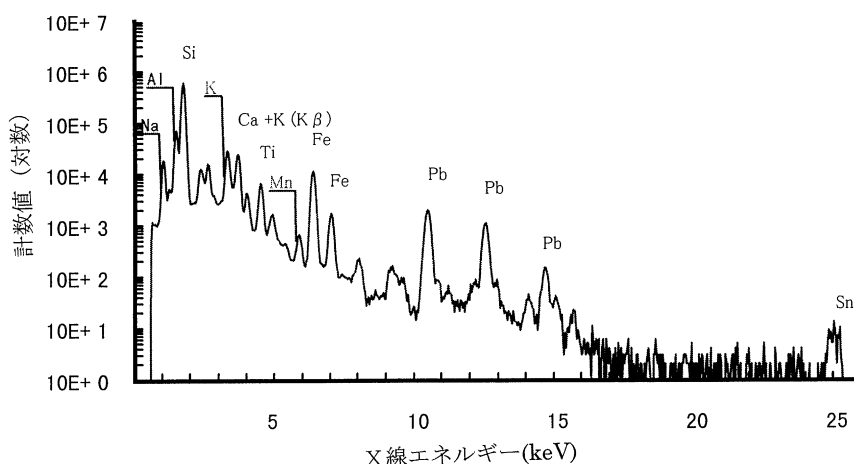
** : 蓬萊山古墳出土ガラス玉 ¹⁾

図 Si検出器で測定したPIXEスペクトル 市原市畑木小谷遺跡出土の黄色ガラス玉試料

の原料鉱物に由来する不純物とは考えられない。鉛は明らかに調合されたものと考えられるが、10wt%を越える鉛ガラスに分類できる濃度でもない。ガラス玉の色調が黄色であることから着色成分として調合された鉛と考えられる。また、黄色の着色には鉄も関与しているかもしれない。ここでは黄色で鉛含有ソーダ石灰ガラスとする。現在、筆者らが分析を行っているしている東京飛鳥山1号墳からも黄色ガラス玉が出土している。分析結果を表2.に示したが、黄色の鉛含有ソーダ石灰ガラスであり、着色に関与する鉛、鉄濃度も本試料に近い値を示した。なお、弥生時代から古墳時代に出土するカリ石灰ガラスの紺、青色ガラス玉の値を参考として示した。紺色にマンガン鉱物、青色に銅が用いられていること、また、本試料の鉛濃度とは異り、調合されたとは考えられない微量の鉛を含有する例を示した。

謝辞：協力いただいた東京大学原子力研究総合センターの羽鳥聡さん、中野忠一郎さんに感謝いたします。

参考文献

- 1) 小泉好延、小林紘一 1996 「宝来山古墳から出土したガラス玉の材質分析」 大田区立強度博物館紀要第7号
- 2) 小林直子、高橋春男、小泉好延、佐藤和朗 1992「長野県大室25号墳出土の古代ガラス玉の見かけ密度と化学組成－完全非破壊法による定量の試み」長野県埋蔵文化財センター発掘報告書13
- 3) 伊藤彰 1997 「ガラスにおける－「炎と色の技術」アグネ技術センター

土する紺、紺青、青、緑色のガラス玉は着色成分としてマンガン (Mn)、銅 (Cu) を含有している。ただし、0.5~2wt%のマンガンを含む紺、紺青色の場合、鉱物中に含まれる検出限界値以下の微量なコバルトも着色に関与していると考えられる。青、緑系統の色調のガラス玉は銅を含有している。

本遺跡出土のガラス玉の分析結果によれば、ナトリウム6.8wt%、カルシウム2.7wt%となり、これらの濃度がやや低いがソーダ石灰ガラス類と考えられる。なお、鉛成分は4.0wt%と高く主成分

第1表 畑木小谷遺跡

() は推定口径及び器高

掲載遺構番号	遺物番号	遺構番号	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	遺存度	焼成	色調	胎土	口径	器高	最大径	底径
1号遺構	1	039	弥生土器	甕	横方向・斜方向ヘラナデ。	斜方向ヘラナデ。	胴部1/3遺存	並	7.5YR6/8 橙色	赤褐色・灰色小粒少量。				
1号遺構	2	039	弥生土器	甕	横方向ヘラナデ。	横方向ヘラナデ後、斜方向ヘラミガキ。	胴部1/4以下遺存	良	2.5YR4/3 にぶい赤褐色	赤褐色中粒・黒色極小粒少量。				
1号遺構	3	039	弥生土器	甕	斜方向ヘラナデ。	ヘラナデか。	底部遺存	良	7.5YR7/6 橙色	黒色・半透明極小粒少量。				
1号遺構	4	039	弥生土器	壺	斜方向ヘラミガキ。	斜方向ヘラミガキ。	底部遺存	良	10R4/8 赤	赤褐色・黒色小粒微量。				
5号遺構	1	038	弥生土器	甕	体部下端縦方向ヘラケズリ。	底部ヘラナデ。	底部遺存	並	5 YR 灰褐色	褐色小粒・乳白色極小粒少量。				
5号遺構	2	038	弥生土器	?	横方向ヘラナデ。	横方向ハケメ調整。	脚部1/2遺存	良	7.5YR7/6 橙色	乳白色極小粒少量。				
7号遺構	1	013	弥生土器	甕	口唇部ヘラ状工具による一方からの刻み目。胴部斜方向ヘラミガキ。胴部上位刻みのある工具による押捺。胴部下位斜方向ヘラナデ。	斜方向ヘラミガキ。	1/3遺存	良	5 YR6/8 橙色	黒色・赤褐色小粒、黒色・灰色極小粒少量。	8.1	14.0		
7号遺構	2	013	弥生土器	鉢	胴部横方向、胴部下位斜方向ヘラミガキ。	横方向ヘラミガキ。底部周辺斜方向ヘラミガキ。	胴部以下3/4遺存	良	2.5YR6/8 橙色	白色半透明・赤褐色小粒少量。	8.3	14.0	6.0	
7号遺構	3	013	弥生土器	浅鉢	胴部横方向、胴部下位斜方向荒いヘラミガキ。	横方向ヘラミガキか。	胴部以下4/5遺存	良	7.5YR4/8 赤	白色半透明・赤褐色小粒少量。	8.1	11.1	5.2	
7号遺構	4	013	弥生土器	壺	胴部下位斜方向ヘラミガキ。	横方向ヘラミガキ。	胴部以下1/2遺存	良	5 YR5/3 にぶい赤褐色	黄褐色極小粒多量。	6.5	20.9	9.7	
7号遺構	5	013	弥生土器	台付き甕	縦方向荒いヘラミガキか。	斜方向ヘラナデ。	脚部3/4遺存	良	10YR7/4 にぶい黄褐色	黄褐色極小粒多量。	(22.0)	21.9	11.1	8.5
7号遺構	6	013	弥生土器	高杯	縦方向ヘラミガキ。	杯部縦方向ヘラミガキ。脚部ナデか。	脚部遺存	良	7.5R4/6 赤	黄褐色小粒・黒色極小粒少量。	4.2	8.2		
8号遺構	1	トレンチ	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部上斜方向、胴部横方向ヘラミガキ。胴部下端ヘラケズリ。	横方向丁寧なヘラミガキ。	口縁部以下3/4遺存	良	5 YR5/6 明赤褐色	黒色・灰色極小粒少量。	18.0	15.2		7.3
8号遺構	2	018	土師器	壺	頸部斜方向ハケメ調整。	横方向ハケメ調整。	口縁部遺存	良	10YR6/4 にぶい黄褐色	黒色・灰色・白色中粒少量。	14.4	7.4		
8号遺構	3	018	土師器	甕	胴部横方向ヘラミガキ。胴部下端斜方向ヘラミガキ。	横方向ヘラミガキ。	口縁部欠損	良	10YR6/6 明黄褐色	灰色・白色・半透明小粒少量。	16.5	23.6	7.8	
8号遺構	4	018	土師器	壺			口縁部欠損	良	10YR6/4 にぶい黄褐色	黒色・灰色・白色中粒少量。	20.8	24.9	9.0	
8号遺構	5	トレンチ	土師器	壺	胴部横方向・斜方向ハケメ調整。底部不定方向ヘラナデ。	横方向ハケメ調整。	胴部以下2/3遺存	良	10YR6/4 にぶい黄褐色	黒色・灰色・白色中粒少量。	24.3		8.8	
8号遺構	6	018	土師器	壺	口縁部ヨコナデ。	斜方向ハケメ調整後、荒い縦方向ミガキ。	口縁部1/4以下遺存	良	7.5YR6/6 橙色	赤褐色大粒微量	13.8	5.7		
8号遺構	7	018	土師器	器台	縦方向ハケメ調整後、縦方向ヘラミガキ。	縦方向ヘラナデ。	脚部遺存	良	5 YR6/6 橙色	赤褐色大粒微量	5.4		8.4	
9号遺構	1	017	土師器	壺	口縁部ナデ。	ナデ。	口縁部1/4以下遺存	良	7.5YR4/2 灰褐色	白色極小粒少量。	16.5	2.2		
9号遺構	2	017	土師器	壺			口縁部1/4以下遺存				12.8		4.0	
9号遺構	3	017	土師器	炉器台	台部横方向ヘラケズリ。	ナデ。	受け部1/3遺存	良	5 YR4/3 にぶい赤褐色		5.3	3.3		
9号遺構	4	017	土師器	炉器台	台上部ヨコナデ。脚部縦方向ヘラケズリ。	横方向ヘラナデ。	受け部遺存	良	7.5YR5/2 灰褐色	黒色・白色極小粒少量。			8.8	
9号遺構	5	017	土師器	炉器台	脚部縦方向・脚部下端横方向ヘラケズリ。	横方向ナデか。	脚部1/3遺存	良	7.5YR5/2 灰褐色	黒色・白色極小粒少量。	6.4		11.0	
9号遺構	6	017	土師器	甕	胴部下端横方向ヘラケズリ。	横方向ヘラナデ。底部付近ミガキ。	胴部以下1/3遺存	良	7.5YR5/2 灰褐色	黒色・白色極小粒少量。	4.9		7.8	
10号遺構		016	土師器	甕?	胴部下端縦方向ヘラケズリ。	ヘラミガキか。	底部遺存	良	2.5YR6/2 橙色	赤褐色中粒少量。				
10号遺構	1	016	土師器	甕	斜方向ハケメ調整。	横方向ヘラミガキ。	頸部1/4以下遺存	良	10YR6/3 黄褐色	黄褐色・灰色・黒色小粒少量。	6.0	21.6		
10号遺構	2	016	土師器	器台	縦方向ヘラミガキ。	横方向ナデか。	脚部1/2 遺存	良	10YR6/4 にぶい黄褐色	黄褐色・半透明極小粒少量。	6.6	10.5		
10号遺構	3	016	土師器	器台	縦方向荒いミガキ。	ナデか。	脚部1/4遺存	良	2.5YR5/6 明赤褐色	黒色・白色半透明小粒少量。	4.9			
10号遺構	4	016	土師器	器台	縦方向丁寧なヘラミガキ。	横方向ハケメ調整。	脚部1/4以下遺存	良	10R4/6 赤	黄褐色極小粒多。黒色・白色半透明中粒微量。	3.0		18.0	
11号遺構		036	土師器	壺	口縁部ナデ。	口縁部ナデ。	口縁部1/4以下遺存	並	10R5/6 赤	灰色・黄褐色極小粒少量。				
11号遺構	2	036	土師器	甕	頸部横方向ヘラナデ。胴部斜方向ハケメ調整。	頸部ハケメ調整後、ヘラナデ。胴部斜方向ヘラナデ。	頸部1/4以下遺存	並	10YR5/6 にぶい黄褐色		4.6	21.8		
12号遺構		015	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。頸部ヘラケズリ。	横方向ヘラナデ。	口縁部1/4遺存	並	5YR7/4 にぶい橙色	白色半透明・明褐色・灰色中粒少量。	(17.6)	4.2		
12号遺構	1	015	土師器	壺	口縁部ヨコナデ。胴部斜方向ヘラミガキ。	胴部横方向ヘラナデ。底部周辺斜方向ヘラミガキ。	完存				17.2	38.2		8.6
12号遺構	2	015	土師器	杯	口縁部ヨコナデ。体部横方向ヘラナデ。	斜方向ヘラナデか。	1/4遺存	良	7.5R4/8 赤	灰色・黄褐色極小粒少量。	11.4	5.3		

掲載遺構番号	遺構番号	遺構番号	種 別	器 種	外 面 の 特 徴	内 面 の 特 徴	遺 存 度	焼 成	色 調	胎 土	口径	器高	最大径	底径
12号遺構	3	015	土師器	杯	口縁部ヨコナデ。斜方向ナデか。	斜方向ヘラナデか。	1/4遺存	良	7.5R4/8赤	黄橙色極小粒少量。	(11.6)	5.0		
12号遺構	4	015	土師器	蓋	口縁部ヨコナデ。斜方向ハケメ調整。	横方向ハケメ調整。	口縁部1/2遺存	良	5 YR7/6橙色	黄橙色極小粒少量。	12.6	5.2		
12号遺構	5	015	土師器	広口壺	口縁部ヨコナデ。折り返し部ナデ。胴部横方向ヘラナデ。	頸部ヘラミガキ。胴部横方向ヘラナデ。	頸部より上遺存	良	2.5YR6/2橙色	白色・黒色・灰色小粒少量。	17.6	(10.0)		
12号遺構	6	015	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部縦方向ヘラナデ後ヘラミガキ。	胴部斜方向ヘラナデ。底部周辺ヘラミガキ。	完存	良			16.6	27.3		7.0
12号遺構	7	015	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部斜方向ヘラナデ。	胴部横方向ヘラナデ。	完存				15.6	26.3		6.7
12号遺構	8	015	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部斜方向ヘラナデ。	横方向ヘラナデ。	口縁部～胴部1/3遺存	良	10R暗赤灰色	灰色・白色半透明極小粒少量。	(15.8)	13.7		
12号遺構	9	015	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部斜方向ヘラナデ。	斜方向ヘラナデ。	口縁部4/5遺存	良	10YR6/6明黄褐色	乳白色・黒色・半透明小粒少量。	17.8	7.0		
12号遺構	11	015	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。	横方向ヘラナデ。	口縁部1/4以下遺存	良	5 YR7/6橙色	乳白色・黒色小粒少量。	(15.6)	4.1		
12号遺構	12	015	土師器	壺	胴部斜方向ヘラミガキ。	底部周辺斜方向ヘラナデ。	底部2/3遺存	良	10R6/8赤橙色	白色半透明中粒・小粒少量。		4.2		(6.0)
12号遺構	13	015	土師器	高杯	口縁部ヨコナデ。杯部斜方向ヘラナデ。杯部下端・脚部ヘラミガキ。	杯部ヘラナデ。脚部横方向ヘラナデ。	完存	良	5 YR7/6橙色	黄褐色・黒色極小粒少量。	21.0	15.7		14.6
12号遺構	14	015	土師器	高杯	口縁部ヨコナデ。杯部ヘラナデか。脚部ヘラケズリ後ヘラナデか。	縦方向ヘラナデ。	1/2遺存	並	2.5YR6/2橙色	乳白色極小粒少量。	17.6	14.2		
12号遺構	15	015	土師器	高杯	口縁部ヨコナデ。斜方向ヘラナデ。脚部との接合部縦方向ヘラナデ。	底部ヘラミガキ。斜方向ヘラナデ。	杯部ほぼ完存	良	10R5/6赤	白色半透明・灰色極小粒少量。	18.2	6.0		
12号遺構	16	015	土師器	高杯	口縁部ヨコナデ。斜方向ヘラナデか。	底部ヘラミガキか。斜方向ヘラナデ。	杯部2/3遺存	並	5 YR黒褐色	乳白色極小粒少量。	(17.4)	5.1		
12号遺構	17	015	土師器	高杯	横方向丁寧なヘラナデ。	横方向ヘラナデ。	杯部1/3遺存	良	5 YR5/6明赤褐色		15.6	4.7		
12号遺構	18	015	土師器	高杯	斜方向ヘラナデ。脚部との接合部は横方向の丁寧なヘラナデ。	斜方向ヘラナデ。	杯部2/3遺存	並	2.5YR6/2橙色	乳白色極小粒多量。	15.8	5.4		
12号遺構	20	015	土師器	手捏ね土器	斜方向ヘラケズリ。	横方向ハケメ調整。	胴部1/4以下遺存	良	10YR6/4にぶい黄褐色	黒色・黄褐色・灰色極小粒少量。		3.0	5.0	3.4
13号遺構		012	土師器	杯	口縁部ヨコナデ。体部斜方向ヘラケズリ。	ヘラナデ。	口縁部1/4以下遺存	良	10YR7/4にぶい橙色	黄褐色・半透明小粒少量。	(12.8)	3.5		
13号遺構		012	土師器	杯	胴部斜方向丁寧なヘラミガキ。	斜方向ヘラミガキ。	口縁部1/4以下遺存	良	5 YR5/3にぶい赤褐色	黄褐色極小粒少量。	12.8	3.9		
13号遺構		012	土師器	高杯	横方向ヘラナデ。	横方向ヘラナデ。	脚部2/3遺存	良	10YR4/8赤	黒色・白色半透明極小粒少量。		7.6	12.2	
13号遺構		3トレンチ	土師器	高杯	ヘラケズリ後横方向ナデ。	横方向ヘラナデ。	脚部遺存	良	10R5/6赤	黒色・白色半透明中粒少量。		8.3	11.2	
13号遺構	1	012	土師器	杯	横方向ヘラナデ。	横方向ヘラナデ。	ほぼ完存	良	10R4/8赤		9.8	4.8		
13号遺構	2	3トレンチ	土師器	杯	口縁部ヨコナデ。体部斜方向ヘラケズリ後ヘラナデ。	ヘラナデか。	脚部1/2遺存	良	10R4/6赤	白色・灰色・半透明小粒少量。	(10.6)	4.9		
13号遺構	3	3トレンチ	土師器	杯	口縁部ヨコナデ。体部斜方向ヘラケズリ後ヘラナデ。	ヘラナデか。	完存	良	10R6/8赤橙色	黒色・灰色・半透明小粒少量。	11.8	4.8		
13号遺構	5	012	土師器	杯	口縁部ヨコナデ。体部不定方向ヘラケズリ。	底部周辺ヘラナデ。	口縁部～胴部1/4以下遺存	良	7.5YR7/6橙色	黄褐色・乳白色極小粒多量。	12.0	4.0		
13号遺構	6	012	土師器	杯	横方向ヘラナデ。	横方向ヘラナデ。	胴部1/4以下遺存	良	7.5R4/8赤	黒色・白色極小粒少量。		5.6	14.4	
13号遺構	7	012	土師器	高杯	口縁部ヨコナデ。斜方向・横方向ヘラナデ。	斜方向ヘラナデ。	杯部2/3遺存	良	10R6/8赤橙色	灰色・乳白色半透明小粒少量。	18.0	7.0		
13号遺構	8	012	土師器	高杯	斜方向ヘラナデ。	横方向ヘラナデ。	1/4以下遺存	良	7.5R4/6赤	白色・黒色小粒少量。		4.7	15.8	
13号遺構	9	3トレンチ	土師器	高杯	縦方向ヘラミガキ。	横方向ヘラナデ。	脚部遺存	良	10R5/6赤	黒色・白色小粒・中粒少量。		8.4	11.0	
13号遺構	11	012	土師器	高杯	縦方向ヘラケズリ後横方向ヘラナデ。	横方向ヘラナデ。	脚部1/2遺存	良	10R4/8赤	灰色・黄褐色小粒少量。		8.0		14.8
13号遺構	13	3トレンチ	土師器	高杯	縦方向ヘラナデ。	横方向ヘラナデ。	脚部遺存	良	10R5/6赤	黄褐色・白色極小粒少量。		6.1	7.8	
13号遺構	14	012	土師器	高杯	斜方向ヘラナデ。	横方向ヘラナデ。	杯部1/4以下遺存	良	2.5YR5/6明赤褐色	白色半透明小粒微量。		2.4	6.0	
13号遺構	15	012	土師器	高杯	縦方向ヘラケズリ後横方向荒いヘラナデ。	ヘラナデ。	杯部1/4以下遺存	良	2.5YR5/6明赤褐色	黒色半透明小粒少量。		2.2	7.0	
13号遺構	16	3トレンチ	土師器	甕?	胴部下端ヘラケズリ。	ヘラナデか。	底部遺存	良	10R5/6赤	黒色・灰色・半透明小粒少量。		2.1		4.0
13号遺構	17	012	土師器	?	胴部下端縦方向ハケメ調整。底部ナデ。	底部周辺ナデ。	底部1/3遺存	良		白色半透明小粒少量。		3.1	9.6	4.8
13号遺構	18	3トレンチ	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部横方向、胴部上・下斜方向ヘラケズリ。	横方向ヘラナデ。	ほぼ完存	良	7.5YR6/4にぶい橙色	赤褐色中粒微量。	13.8	18.9		5.5
13号遺構	19	012	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部斜方向ヘラケズリ。	斜方向ヘラナデ。	底部～胴部1/2欠損	良	7.5YR7/6橙色	黒色・灰色中粒・白色半透明小粒多量。	18.0	24.5		

掲載遺構 番号	遺物番号	遺構番号	種 別	器 種	外 面 の 特 徴	内 面 の 特 徴	遺 存 度	焼 成	色 調	胎 土	口径	器高	最大径	底径
13号遺構	20	012	土師器	甕	胴部斜方向ヘラケズリ。	斜方向ヘラナデ。	底部へ胴部1/4以下 遺存	良	7.5YR7/6橙色	黒色・灰色・白色中粒少 量。		8.8	18.8	6.8
14号遺構	1	004	土師器	高杯	横方向ヘラナデ。	縦方向ヘラナデ。	脚部	良	5 YR7/4にぶい 橙色	灰色・白色小粒少量。黒 色・黄橙色極小粒。		5.9	9.6	
14号遺構	2	004	土師器	高杯	粗く縦方向ヘラナデ。	縦方向ヘラナデ。裾部 横方向ヘラナデ。	裾部欠損	良	2.5YR5/8明赤褐 色	灰色小粒微量。黒色・灰 色・黄橙色極小粒。		7.3		
15号遺構	1	003	土師器	甕	斜方向ヘラケズリ。口唇部 ヨコナデ。	斜方向ヘラナデ。口唇 部ヨコナデ。	口縁部1/4遺存	良	5 YR5/6明赤褐 色	灰色中粒微量。黒色・黄 橙色極小粒20%。	(22.2)	6.4		
15号遺構	2	003	土師器	杯	口縁部ヨコナデ。体部横方 向ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。体部 斜へ横方向ヘラナデ。		良	5 YR7/6橙色	白色・灰色・黒色極小粒。				
15号遺構	3	003-2	土師器	高杯	縦方向ナデ。赤彩。	縦方向ヘラナデ。	裾部欠損	良	2.5YR5/8明赤褐 色	黒色・灰色極小粒20%。				
15号遺構	4	003	土師器	ミナチュア	体部下位ヘラナデ。	底部より放射状にヘラ ナデ。	1/3遺存	良	5 YR7/6橙色	黄橙色小粒微量含む。				
15号遺構	5	003	土師器	土鍾?	ナデ。		ほぼ完形	良	10YR7/4にぶい 橙色		長さ 2.6		1.2	
16号遺構	1	SX-1	土師器	高杯	口縁部ヨコナデ。横・斜方 向ヘラナデ。	底部より斜・横方向ヘ ラナデ。	杯部1/3遺存	良	7.5R4/8赤	半透明・黒色極小粒少量。	(16.2)	4.6		
16号遺構	2	SX-1	土師器	壺	胴部横方向ヘラナデ。胴部 下端ヘラケズリ。	縦・斜方向ヘラナデ。	口縁部欠損	並	7.5R4/8赤	赤褐色・白色半透明・黄 橙色極小粒少量。		6.4	(10.6)	(5.2)
16号遺構	3	SX-1	土師器	高杯	口縁部ヨコナデ。横方向ヘ ラナデ。	不定方向・横方向ヘラ ナデ。	杯部1/3遺存	良	5 YR6/6橙色	半透明小粒・黄橙色極小 粒少量。	(12.0)	4.0		
16号遺構	18	SX-1	土師器				頭部1/4以下遺存	良	5 Y8/1灰色	黒色・灰色極小粒微量。				
17号遺構	1	011	土師器	杯	口縁部ヨコナデ。体部横方 向ヘラナデ。	ヘラナデ?	1/3遺存	良		黄橙色・褐色極小粒少量。	(14.8)	4.1		

第2表 郡本遺跡（5次）

掲載遺構 番号	遺物番号	遺構番号	種 別	器 種	外 面 の 特 徴	内 面 の 特 徴	遺 存 度	焼 成	色 調	胎 土	口径	器高	最大径	底径
1号遺構	1	007	弥生土器	甕	口唇部内外面交互に指頭押 捺。ヘラナデ? 晩ハケもし くはクシ状工具による斜方 向調整。	ヘラナデ。		良	5 YR7/6橙色	暗赤褐色中粒微量	(24.0)			
2号遺構	1	004	弥生土器	浅鉢	口縁部単節斜縄文2段。折 り返し端部刻み目。			良	5 YR7/6橙色	灰色・白色半透明極小粒 少量。				
2号遺構	2	004	弥生土器	壺	山形もしくは菱形の沈線区 画内に単節斜縄文。	ヘラミガキ。		良	10R暗赤灰色	灰色・白色半透明極小粒 少量。				
2号遺構	3	004	弥生土器	甕	口縁部以下に輪粒み痕。	斜方向ヘラナデ。		良	10YR6/6明黄褐 色	乳白色・黒色・半透明小 粒少量。				
3号遺構	1	008	弥生土器	高杯?	脚部下端にヘラ状工具によ る刻み目。	縦・横方向ヘラナデ。	脚部1/4以下遺存	良	5 YR7/6橙色	暗赤褐色中粒微量。				
4号遺構	1	002	土師器	杯	口縁部横ナデ。体部横方向 ヘラケズリ。底部一定方向 ヘラケズリ。	ヘラナデ。	2/3遺存	良	7.5YR6/6橙色	赤褐色中粒・小粒少量。	(15.9)	4.8		(12.7)
4号遺構	2	002	須恵器	杯	ロクロ調整。底部周辺回転 ヘラケズリ。		1/3遺存	良	7.5Y6/1灰色	白色極小粒多量。	(14.0)	3.1		(8.0)
4号遺構	3	002	土師器	杯	ロクロ調整。		1/4以下遺存	良	7.5YR7/6橙色・ 2.5Y6/1黄灰色	金雲母極小粒多、白色小 粒微量。		4.0		
4号遺構	4	002	土師器	高杯	縦方向ヘラケズリ。	横方向ヘラナデ。	脚部1/3遺存	良	7.5YR5/3にぶい 褐色	白色半透明小粒微量。		3.6		(10.5)
4号遺構	5	002	土師器	甕	胴部下端斜方向ヘラケズリ。	ヘラナデか。	1/3遺存	良	7.5YR6/6橙色	白色・灰色・半透明小粒 少量。		2.2		(5.6)
4号遺構	6	002	土師器	甕	胴部縦方向ヘラケズリ。	斜方向ヘラナデ。	3/4遺存	良	10YR7/4にぶい 橙色	半透明白色中粒少量。	18.8	19.4		
4号遺構	7	002	土師器	甕	胴部斜方向ヘラケズリ。	斜方向ヘラナデ。	口縁部1/3遺存	良	2.5YR6/2橙色	乳白色極小粒多量。	23.6	12.8		
4号遺構	8	002	土師器	甕	斜方向ヘラケズリ後横方向 ヘラナデ。	ヘラナデか。	胴部1/4遺存	良	10YR7/4にぶい 橙色	黒色・黄橙色・灰色極小 粒少量。		5.5	19.8	
4号遺構	9	002	土師器	甕	胴部縦方向ヘラケズリ。	縦方向ヘラナデか。	口縁部1/3遺存	良	5 YR3/2暗赤褐 色	黄褐色・半透明小粒少量。	(22.8)	14.2		
6号遺構	1	003	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切 り無調整。中央に墨書。	底部中央に墨書。	2/3遺存	良	7.5YR7/6橙色	黄橙色極小粒少量。	(13.4)	3.3		6.5
6号遺構	2	003	土師器	杯	ロクロ調整。		1/3遺存	良	5 YR6/6橙色	黒色・白色半透明極小粒 少量。	(12.6)	3.0	12.2	(6.0)
6号遺構	3	003	土師器	杯	ロクロ調整。底部に墨書。		口縁部1/3遺存	良	7.5YR4/2灰褐色	白色半透明中粒少量。	(11.0)	5.0		
6号遺構	4	003	土師器	甕	ロクロ調整?	横方向ヘラナデ。	口縁部1/4遺存	良	5 YR4/2灰褐色	暗赤褐色小粒微量。	(10.4)	4.2	(12.0)	
6号遺構	5	003	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。体部斜方 向ヘラケズリ後ヘラナデ。	ヘラナデか。	脚部1/2遺存	良	10R4/6赤	白色・灰色・半透明小粒 少量。	(10.6)	4.9		
6号遺構	6	003	土師器		ヘラナデか。	ヘラナデか。		良	7.5YR4/2褐灰色	黒色・灰色・半透明小粒 少量。		2.4		8.0
6号遺構	7	003	土師器	甕	胴部下端縦方向ヘラケズリ。	ヘラナデか。	胴部1/4以下遺存	良	2.5YR7/6橙色	黄褐色・乳白色極小粒多 量。		3.7	13.0	9.0
6号遺構	8	003	須恵器	壺	ロクロ調整。		底部遺存	良	7.5Y6/1灰色	黒色・白色極小粒少量。		3.6	12.2	7.0
7号遺構	1	009	土師器	壺	胴部下端斜方向ヘラミガキ。	ヘラナデか。	底部1/3遺存	良	10R4/3にぶい黄 褐色	灰色・乳白色半透明小粒 少量。		5.0	14.0	5.0

掲載遺構番号	遺物番号	遺構番号	種 別	器 種	外 面 の 特 徴	内 面 の 特 徴	遺 存 度	焼 成	色 調	胎 土	口径	器高	最大径	底径
7号遺構	2	009	土師器	浅鉢	口縁部に4段以上の単節斜縄文、1・2段間に刻み目。焼成前穿孔が1カ所。	横方向ヘラナデ。	1/4以下遺存	良	2.5YR7/6橙色	白色・黒色小粒少量。				
8号遺構	1	001	土師器	杯	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。		2/3遺存	良	5 YR6/6橙色	黒色・白色小粒・中粒少量。	(15.4)	5.3		6.0
8号遺構	2	001	土師器	小皿	ロクロ調整。		1/4以下遺存	良	2.5YR7/6橙色	灰色・黄橙色小粒少量。		1.4	6.2	5.0
8号遺構	3	001	土師器	小皿	ロクロ調整。回転糸切り無調整。		底部遺存	良	10YR7/6明黄褐色	黄橙色・白色極小粒少量。		1.3	5.6	
8号遺構	4	001	土師器	小皿	ロクロ調整。回転糸切り無調整。		底部1/3遺存	良	10YR2/2黒褐色	白色半透明小粒微量。		0.9	4.8	
8号遺構	5	001	土師器	高台付杯	ロクロ調整。		1/4以下遺存	良	2.5YR5/6明赤褐色	黒色半透明小粒少量。		2.7	7.6	
8号遺構	6	001	須恵器	壺	ロクロ調整。		頸部1/2遺存	良	7.5Y6/1灰色	黒色・灰色・半透明小粒少量。		2.1		4.0
8号遺構	7	001		碗	ロクロ調整。		底部1/3遺存	良	7.5Y6/1灰色	白色半透明小粒少量。		3.1	9.6	4.8
遺構外遺物	1		土師器	杯	ロクロ調整。		ほぼ完存	良	7.5YR6/4にぶい橙色	赤褐色中粒微量。		4.8	6.6	
遺構外遺物	2		土師器	杯	ロクロ調整。		底部～体部1/2欠損	良	7.5YR7/6橙色	黒色・灰色中粒・白色半透明小粒多量。		4.5	7.4	
遺構外遺物	3		土師器	杯	ロクロ調整。		1/4以下遺存	良	7.5YR7/6橙色	黒色・灰色・白色中粒少量。		4.5		
遺構外遺物	4		土師器	杯	ロクロ調整。		口縁部2/3欠損	良	5 YR7/4にぶい橙色	灰色・白色小粒少量、黒色・黄橙色極小粒。	(14.0)	4.2		
遺構外遺物	5		土師器	杯	ロクロ調整。		1/4遺存	良	2.5YR5/8明赤褐色	灰色小粒微量、黒色・灰色・黄橙色極小粒。	(14.0)	4.1		
遺構外遺物	6		土師器	杯	ロクロ調整。		口縁部2/3欠損	良	5 YR7/4にぶい橙色	白色半透明小粒少量。	11.6	4.9	5.8	
遺構外遺物	7		土師器	杯	ロクロ調整。		口縁部2/3欠損	良	7.5YR6/4にぶい橙色	赤褐色中粒微量。	11.2	4.1	5.0	
遺構外遺物	8		土師器	小皿	ロクロ調整。回転糸切り無調整。		底部	良	5 YR7/6橙色	黒色・灰色中粒、白色半透明小粒多量。		1.0	4.0	
遺構外遺物	9		土師器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部縦方向ヘラケズリ。	斜方向ヘラナデ。	口縁部1/4遺存	良	7.5YR7/6橙色	黒色・灰色・白色中粒少量。	(19.0)	6.3		
遺構外遺物	10		土師器	高台付杯	ロクロ調整。		1/4遺存	良	7.5YR7/6橙色	灰色・白色小粒少量、黒色・黄橙色極小粒。		2.9	10.4	
遺構外遺物	11		土師器	高台付杯	ロクロ調整。		1/4遺存	良	7.5YR5/3にぶい橙色	灰色小粒微量。黒色・灰色・黄橙色極小粒。		3.2	10.0	
遺構外遺物	12		灰釉陶器	皿	ロクロ調整。高台。	施釉？	1/4欠損	良	7.5Y6/1灰色	灰白色中・小粒微量。	14.4	2.8		
遺構外遺物	13		土師器	小皿	ロクロ調整。回転糸切り無調整。		1/3遺存	良	5 YR7/4にぶい橙色	灰色・白色小粒少量、黒色・黄橙色極小粒。		5.9	9.6	
遺構外遺物	14		土師器	小皿	ロクロ調整。回転糸切り後底部周辺を回転ヘラケズリ。	縦方向ヘラナデ。裾部横方向ヘラナデ。	裾部欠損	良	7.5YR8/4にぶい橙色	灰色小粒微量。黒色・灰色・黄橙色極小粒。	8.4	1.3		
遺構外遺物	15		土師器	小皿？	ロクロ調整。回転糸切り無調整。		底部1/3遺存	良	10YR7/4にぶい橙色	白色半透明小粒少量。		1.2	5.0	
遺構外遺物	16		土師器	小皿？	ロクロ調整。回転糸切り無調整。		底部	良	10YR7/4にぶい橙色	黒色半透明小粒少量。		1.7	4.5	

第3表 五所居下遺跡

掲載遺構番号	遺物番号	遺構番号	種 別	器 種	外 面 の 特 徴	内 面 の 特 徴	遺 存 度	焼 成	色 調	胎 土	口径	器高	最大径	底径
	1		須恵器	杯	ロクロ調整。		口縁部1/4遺存	良	7.5Y6/1灰色					
	2		土師器	甕	横方向ヘラナデ。	縦方向ヘラナデ。	脚部遺存	良	5 YR7/4にぶい橙色	灰色・白色小粒少量。黒色・黄橙色極小粒。		5.9	9.6	
	3		土師器	甕	粗く縦方向ヘラナデ。	縦方向ヘラナデ。裾部横方向ヘラナデ。	裾部欠損	良	2.5YR5/8明赤褐色	灰色小粒微量。黒色・灰色・黄橙色極小粒。		7.3		

第4表 新堀小鳥向遺跡

掲載遺構番号	遺物番号	遺構番号	種 別	器 種	外 面 の 特 徴	内 面 の 特 徴	遺 存 度	焼 成	色 調	胎 土	口径	器高	最大径	底径
1トレンチ	1	—	土師器	壺	縦方向ヘラナデ。	横方向ヘラナデ。	底部欠損	良	10R5/6赤	黄橙色・白色極小粒少量。		6.1	7.8	
4トレンチ	2	—	土師器	杯	斜方向ヘラナデ。	横方向ヘラナデ。	1/2遺存	良	2.5YR5/6明赤褐色	白色半透明小粒微量。		2.4	6.0	
6トレンチ	3	—	土師器	杯	縦方向ヘラケズリ後横方向荒いヘラナデ。	ヘラナデ。	1/3遺存	良	2.5YR5/6明赤褐色	黒色半透明小粒少量。		2.2	7.0	
6トレンチ	4	—	土師器	甕	胴部下端ヘラケズリ。	ヘラナデか。	口縁部1/4遺存	良	10R5/6赤	黒色・灰色・半透明小粒少量。		2.1		4.0

第5表 畑木小谷遺跡

掲載遺構番号	遺物番号	遺構番号	種 別	法 量 (cm)	重量 (g)	備 考
5号遺構	5	038	鉄製穂摘具			
7号遺構	11	013	土製品	7.0×5.1	51.4	
7号遺構	12	013	土製品	3.6×2.2	7.3	
12号遺構	21	015	刀子	全長6.3×1.2		木質遺存
13号遺構	21	015	滑石製臼玉	幅0.41×高さ0.22孔径0.17		
13号遺構	22	012	滑石製臼玉	幅0.38×高さ0.20孔径0.16		
14号遺構	6	004	土玉			
15号遺構	5	003	土製品			
16号遺構	4	SX-1	銅釧	外径7.0幅0.45厚さ0.38	18.4	
16号遺構	5	SX-1	銅釧	外径7.0幅0.45厚さ0.38	19.0	
16号遺構	6	SX-1	耳環	外径2.1幅0.4 厚さ0.68	8.4	銅地金張り
16号遺構	7	SX-1	耳環	外径2.1幅0.42厚さ0.68	8.9	銅地金張り
16号遺構	8	SX-1	耳環	外径1.65幅0.33厚さ0.64	3.4	
16号遺構	9	SX-1	耳環	外径1.9幅0.4 厚さ0.52	3.9	
16号遺構	10	SX-1	耳環	外径1.62幅0.32厚さ0.58	3.4	
16号遺構	11	SX-1	棗玉	4.9×2.9	18.7	
16号遺構	12	SX-1	棗玉	2.9×2.2	6.4	
16号遺構	13	SX-1	棗玉	2.8×2.2	7.5	
16号遺構	14	SX-1	棗玉	2.7×1.8	3.9	
16号遺構	15	SX-1	棗玉	2.9×2.2	6.0	
16号遺構	16	SX-1	棗玉	3.0×1.7	3.9	
16号遺構	17	SX-1	棗玉	2.1×1.8	4.3	
17号遺構	1	011	土製品		12.0	

第6表 郡本遺跡 (第5次)

掲載遺構番号	遺物番号	遺構番号	種 別	法 量 (cm)	重量 (g)	備 考
4	10	002	刀子	全長17.2×7.5	18.7	
4	11	002	刀子	全長15.0×1.4	14.0	

第7表 五所居下遺跡

掲載遺構番号	遺物番号	遺構番号	種 別	法 量 (cm)	重量 (g)	備 考
3トレンチ	4	—	土錘	最大径3.1孔径1.0	12.4	
3トレンチ	5	—	土錘	最大径1.7孔径0.5	5.2	
3トレンチ	6	—	土錘	最大径1.4孔径0.4	4.1	
3トレンチ	7	—	土錘	最大径1.2孔径0.4	2.9	
3トレンチ	8	—	土錘	全長4.2最大径1.1孔径0.3	4.1	完形
5トレンチ	9	—	土錘	全長2.9最大径0.9孔径0.3	2.7	ほぼ完形
3トレンチ	10	—	土錘	最大径1.3孔径0.5	2.3	

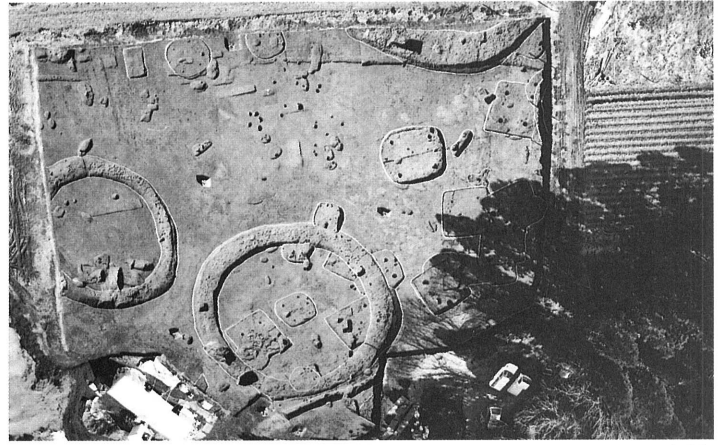
第8表 畑木小谷遺跡第16号遺構出土玉類観察表

掲載 No	遺物No	種 別	色 調	孔 径		長さ・高さ		幅・外径		重 量	掲載 No	遺物No	種 別	色 調	孔 径		長さ・高さ		幅・外径		重 量
				長径	短径	長径	短径	長径	短径						長径	短径	長径	短径	長径	短径	
1	47	ガラス玉	黄色							0.0838	57	76-19	ガラス玉	藍色	1.2		1.93		3.74		0.0299
2	106-1	ガラス玉	濃い藍色							0.0339	58	73	ガラス玉	藍色	1.0		2.55		3.75		0.0486
3	76-21	ガラス玉	藍色	1.0		1.95		3.05		0.0243	59	132	ガラス玉	濃い藍色	1.2		1.89		3.75		0.0336
4	22	ガラス玉	濃い藍色	0.8		1.90		3.09		0.0259	60	149-14	ガラス玉	濃い藍色			3.17		3.77		0.0578
5	76-18	ガラス玉	濃い藍色	1.1		1.73		3.18		0.0264	61	118	ガラス玉	濃い藍色内側に朱	1.0	0.9	2.14		3.77		0.0446
6	79-5	ガラス玉	濃い藍色	1.0		1.85		3.23		0.0243	62	124	ガラス玉	濃い藍色	1.3		2.61		3.78		0.0396
7	77-11	ガラス玉	エメラルドグリーン属る	1.0		2.05		3.27		0.0325	63	149-29	ガラス玉	濃い藍色			2.42		3.78		0.0445
8	77-12	ガラス玉	濃い藍色	1.1		1.82		3.28		0.0265	64	149-46	ガラス玉	濃い藍色			2.33		3.78		0.0408
9	48	ガラス玉	濃い藍色	1.3		2.07		3.29		0.0280	65	79-7	ガラス玉	濃い藍色	1.2		2.15		3.78		0.0419
10	149-27	ガラス玉				2.10		3.34		0.0317	66	149-44	ガラス玉	濃い藍色			2.73		3.78		0.0460
11	149-13	ガラス玉				2.05		3.35		0.0304	67	76-14	ガラス玉	濃い藍色	1.4		2.48		3.79		0.0481
12	149-10	ガラス玉				2.02		3.35		0.0285	68	52	ガラス玉	濃い藍色	1.5	1.1	2.23		3.79		0.0399
13	53	ガラス玉	濃い藍色	1.2		2.32		3.36		0.0313	69	77-13	ガラス玉	濃い藍色	1.3		2.14		3.80		0.0400
14	149-19	ガラス玉				2.79		3.44		0.0446	70	76-10	ガラス玉	濃い藍色	1.2		2.35		3.80		0.0450
15	114	ガラス玉	濃い藍色	1.1		2.61		3.45		0.0399	71	49	ガラス玉	濃い藍色	1.4	0.9	2.32		3.80		0.0439
16	149-9	ガラス玉				2.03		3.48		0.0341	72	4-1	ガラス玉	濃い藍色	1.1		2.24		3.80		0.0478
17	149-1	ガラス玉				1.64		3.48		0.0272	73	5-4	ガラス玉	濃い藍色	1.4		2.58		3.80		0.0432
18	24	ガラス玉	濃い藍色	1.2	1.1	3.40	3.04	3.49		0.0599	74	76-6	ガラス玉	濃い藍色	1.0		2.14		3.80		0.0373
19	50	ガラス玉	エメラルドグリーン	1.2		2.52		3.50		0.0506	75	76-16	ガラス玉	濃い藍色	1.2		1.78		3.81		0.0386
20	71	ガラス玉	濃い藍色	1.0		1.82		3.51		0.0305	76	136	ガラス玉	濃い藍色	1.2	1.0	2.86		3.81		0.0445
21	77-7	ガラス玉	濃い藍色	1.3		2.14		3.51		0.0305	77	95	ガラス玉	濃い藍色	1.2		2.42		3.82		0.0452
22	92	ガラス玉	濃い藍色	1.1		2.00		3.51		0.0305	78	58	ガラス玉	濃い藍色	1.5		2.64		3.82		0.0486
23	149-5	ガラス玉	濃い藍色			2.97	2.88	3.52		0.0604	79	76-12	ガラス玉	濃い藍色	1.2		1.91		3.82	3.33	0.0355
24	78-5	ガラス玉	濃い藍色	1.2		1.81		3.52		0.0297	80	77-14	ガラス玉	濃い藍色	1.4		1.73		3.83		0.0315
25	149-24	ガラス玉	濃い藍色			2.11		3.52		0.0312	81	26	ガラス玉	濃い藍色	1.0		2.80		3.83		0.0477
26	149-23	ガラス玉	濃い藍色			2.87		3.53		0.0523	82	16	ガラス玉	濃い藍色	1.2		2.46	2.30	3.83		0.0395
27	149-34	ガラス玉	濃い藍色			2.07		3.53		0.0349	83	76-27	ガラス玉	濃い藍色	1.5		2.46		3.84		0.0483
28	79-11	ガラス玉	濃い藍色	1.0		2.10		3.55		0.0366	84	149-38	ガラス玉	濃い藍色			2.21		3.84		0.0421
29	56	ガラス玉	濃い藍色	1.4		2.88		3.55		0.0473	85	119	ガラス玉	濃い藍色	1.1		2.37		3.84		0.0481
30	76-2	ガラス玉	濃い藍色	1.1		1.91		3.56		0.0325	86	17	ガラス玉	藍色	1.1		2.09	1.92	3.85		0.0370
31	149-11	ガラス玉	濃い藍色			2.16		3.56		0.0368	87	76-17	ガラス玉	濃い藍色	1.0		2.31		3.85		0.0446
32	68	ガラス玉	濃い藍色	1.0		1.85		3.57		0.0328	88	33	ガラス玉	濃い藍色	1.2	1.0	2.85		3.85		0.0482
33	44	ガラス玉	藍色	1.3		2.28		3.60		0.0366	89	65	ガラス玉	濃い藍色	1.3		2.65		3.85		0.0537
34	77-4	ガラス玉	濃い藍色	1.1		3.00		3.61		0.0519	90	43	ガラス玉	藍色	1.3		2.60		3.86		0.0529
35	149-21	ガラス玉	濃い藍色			3.42		3.62		0.0591	91	67	ガラス玉	濃い藍色	1.0		2.85		3.86		0.0558
36	149-47	ガラス玉	濃い藍色			2.03	1.64	3.63		0.0363	92	149-37	ガラス玉	濃い藍色			2.22		3.87		0.0436
37	107	ガラス玉	濃い藍色	1.1		2.69		3.64		0.0482	93	121	ガラス玉	濃い藍色	1.3		2.19		3.87		0.0394
38	76-1	ガラス玉	濃い藍色	1.5		2.65		3.64		0.0448	94	76-9	ガラス玉	濃い藍色	1.1		2.34		3.87		0.0458
39	79-8	ガラス玉	濃い藍色	1.0		2.28		3.64		0.0403	95	149-16	ガラス玉	濃い藍色			1.96		3.87		0.0427
40	5-1	ガラス玉	黄緑	1.7	1.6	1.52		3.65		0.0217	96	20	ガラス玉	濃い藍色	0.9		2.72		3.87		0.0533
41	36	ガラス玉	エメラルドグリーン	1.3		2.69	2.59	3.66		0.0462	97	42	ガラス玉	濃い藍色	1.5		2.55		3.87		0.0481
42	78-6	ガラス玉	濃い藍色	1.2		1.83		3.66		0.0331	98	138	ガラス玉	濃い藍色	1.0		2.57		3.88		0.0526
43	77-2	ガラス玉	濃い藍色	1.4		2.41		3.66		0.0389	99	149-32	ガラス玉	濃い藍色			2.18	1.69	3.88		0.0405
44	91	ガラス玉	濃い藍色	1.2		2.05		3.66		0.0373	100	149-26	ガラス玉	濃い藍色			2.81		3.88		0.0590
45	76-26	ガラス玉	濃い藍色	1.0		2.30		3.67		0.0439	101	10	ガラス玉	濃い藍色	1.2		1.94	1.78	3.89		0.0401
46	76-23	ガラス玉	濃い藍色	0.8		2.33		3.68		0.0434	102	79-9	ガラス玉	濃い藍色	1.1		2.63		3.90		0.0525
47	149-12	ガラス玉	濃い藍色			3.18		3.68		0.0593	103	125	ガラス玉	濃い藍色	1.0		2.31		3.90		0.0444
48	76-11	ガラス玉	濃い藍色	1.3		2.41		3.69		0.0425	104	149-30	ガラス玉	濃い藍色			2.58		3.90		0.0497
49	102	ガラス玉	濃い藍色	1.2		1.86		3.69		0.0352	105	149-18	ガラス玉	濃い藍色			2.45		3.90		0.0480
50	104	ガラス玉	濃い藍色	1.0		2.20		3.69		0.0403	106	78-4	ガラス玉	濃い藍色	1.4		2.51		3.90		0.0464
51	79-10	ガラス玉	濃い藍色	1.4	1.1	2.49		3.69		0.0425	107	94	ガラス玉	濃い藍色	1.5		2.67		3.91		0.0458
52	77-9	ガラス玉	濃い藍色	1.1		1.67		3.70		0.0273	108	9	ガラス玉	藍色	2.1		2.17	1.79	3.91		0.0406
53	19	ガラス玉	濃い藍色	1.0		1.98		3.70		0.0375	109	128	ガラス玉	濃い藍色	0.9	0.8	2.69		3.92		0.0559
54	149-41	ガラス玉	濃い藍色			2.50		3.71		0.0431	110	77-6	ガラス玉	濃い藍色	1.1		2.77		3.92		0.0515
55	79-3	ガラス玉	濃い藍色	1.1		2.15		3.73		0.0430	111	149-36	ガラス玉	濃い藍色			3.04		3.92		0.0613
56	78-7	ガラス玉	エメラルドグリーン	1.2		2.86		3.74		0.0565	112	76-3	ガラス玉	濃い藍色	1.1		2.34		3.93		0.0484

掲載 No	遺物No	種 別	色 調	孔 径		長さ・高さ		幅・外径		重 量	掲載 No	遺物No	種 別	色 調	孔 径		長さ・高さ		幅・外径		重 量
				長径	短径	長径	短径	長径	短径						長径	短径	長径	短径	長径	短径	
113	35	ガラス玉	濃い藍色	1.2	1.0	2.80		3.93		0.0575	170	149-35	ガラス玉	濃い藍色			2.32		4.32		0.0576
114	60	ガラス玉	濃い藍色	1.5		2.08		3.93		0.0402	171	108	ガラス玉	濃い藍色	1.1		2.89		4.34		0.0768
115	77-8	ガラス玉	濃い藍色	1.2		2.26		3.93		0.0447	172	149-42	ガラス玉	濃い藍色			2.67		4.36		0.0604
116	5-8	ガラス玉	濃い藍色	1.3		2.05		3.93		0.0431	173	143	ガラス玉	濃い藍色	1.4	1.2	2.25		4.38		0.0485
117	76-20	ガラス玉	濃い藍色	1.2		3.03		3.93		0.0741	174	149-8	ガラス玉	濃い藍色			2.57		4.39		0.0592
118	149-17	ガラス玉	濃い藍色			2.78	2.43	3.94		0.0512	175	110	ガラス玉	濃い藍色	1.1		2.87		4.43		0.0727
119	149-45	ガラス玉	濃い藍色			2.56		3.94		0.0555	176	75	ガラス玉	濃い藍色	1.2		2.45	2.35	4.43		0.0625
120	76-7	ガラス玉	濃い藍色	1.1		2.36		3.94		0.0520	177	149-7	ガラス玉	濃い藍色			2.39		4.47		0.0645
121	149-15	ガラス玉	濃い藍色			2.29		3.95		0.0501	178	126	ガラス玉	濃い藍色	1.6		4.15		4.59		0.1184
122	142	ガラス玉	濃い藍色	1.5	1.2	2.69		3.95		0.0505	179	23	ガラス玉	エメラルドグリーン	1.8	1.4	2.59		4.60	4.06	0.0589
123	76-22	ガラス玉	濃い藍色	1.4		1.85		3.95		0.0432	180	93	ガラス玉	濃い藍色	1.5		3.92		4.68		0.1177
124	76-25	ガラス玉	濃い藍色	1.0		2.40		3.96		0.0495	181	145	ガラス玉	濃い藍色	1.3		2.79		4.68		0.0642
125	149-43	ガラス玉	濃い藍色			2.80		3.96		0.0583	182	149-6	ガラス玉	濃い藍色			3.42		4.75		0.1075
126	137	ガラス玉	濃い藍色	1.3		2.60		3.97		0.0539	183	46	ガラス玉	濃い藍色	1.5	1.3	3.36	2.33	4.78		0.0983
127	77-10	ガラス玉	濃い藍色	1.1		2.21		3.97		0.0484	184	76-8	ガラス玉	濃い藍色	2.2	1.6	1.96		4.79		0.0624
128	54	ガラス玉	濃い藍色	1.4		2.42		3.97		0.0466	185	5-9	ガラス玉	濃い藍色	1.6		4.16		4.89		0.1547
129	70	ガラス玉	濃い藍色	1.2	1.1	2.95		3.98		0.0488	186	78-10	ガラス玉	グリーン	1.4		3.57		5.00		0.1449
130	38	ガラス玉	濃い藍色	1.0		2.17		3.98		0.0478	187	76-13	ガラス玉	濃い紫色	2.0	1.9	3.39		5.02		0.1338
131	122	ガラス玉	濃い藍色	1.4	1.0	2.31		3.98		0.0498	188	100	ガラス玉	濃い藍色やや紫	1.5		3.28	3.15	5.05	4.50	0.1050
132	149-39	ガラス玉	濃い藍色			2.71		3.99		0.0555	189	149-4	ガラス玉	濃い藍色			3.55	3.06	5.06		0.1250
133	149-22	ガラス玉	濃い藍色			2.46		4.00		0.0488	190	101	ガラス玉	濃い藍色	2.2		4.15	3.59	5.12		0.1421
134	55	ガラス玉	濃い藍色	1.2		2.33		4.00		0.0499	191	5-3	ガラス玉	濃い藍色	1.5		3.83	2.91	5.28		0.1613
135	78-9	ガラス玉	濃い藍色	1.1		2.32		4.01		0.0512	192	69	ガラス玉	濃い藍色	1.9	1.6	3.39		5.37	4.69	0.1096
136	149-33	ガラス玉	濃い藍色			2.35		4.02		0.0465	193	149-3	ガラス玉	濃い藍色			3.88		5.74		0.1760
137	149-31	ガラス玉	濃い藍色			2.43		4.02		0.0485	194	5-7	ガラス玉	濃い藍色	1.5		3.22	2.96	5.91		0.1731
138	134	ガラス玉	濃い藍色	0.9		2.39		4.02		0.0473	195	149-2	ガラス玉	濃い藍色			3.47	2.59	6.00		0.1737
139	140	ガラス玉	濃い藍色	1.2		2.82	2.55	4.03		0.0504	196	77-1	ガラス玉	濃い藍色	2.0	1.6	3.58		6.07		0.1951
140	11	ガラス玉	濃い藍色	1.3	1.1	2.32	2.26	4.03		0.0526	197	14	ガラス玉	濃い藍色	1.6	1.2	3.55	3.19	6.14	5.84	0.1938
141	45	ガラス玉	濃い藍色	1.7		2.35		4.03		0.0571	198	112	ガラス玉	薄い藍色	1.4		3.47	3.41	6.42	5.94	0.1977
142	133	ガラス玉	濃い藍色	1.1		2.30		4.04		0.0557	199	15	ガラス玉	濃い藍色	1.5		3.04	2.77	6.54	6.45	0.1584
143	77-3	ガラス玉	濃い藍色	1.2		2.71		4.04		0.0583	200	13	ガラス玉	濃い紫色	2.1	1.6	4.12	3.54	6.55	6.49	0.2483
144	79-6	ガラス玉	濃い藍色	1.2		2.26		4.04		0.0485	201	74	ガラス玉	濃い藍色	1.8		3.38	3.06	6.71	5.96	0.1936
145	78-3	ガラス玉	濃い藍色	1.1		2.38		4.05		0.0592	202	5-2	ガラス玉	濃い藍色	2.3	1.2	3.45	2.99	6.71	6.27	0.2225
146	97	ガラス玉	濃い藍色内側に朱	1.1		2.37		4.06		0.0510	203	105	ガラス玉	濃い藍色	1.7		3.95		7.20		0.3254
147	66	ガラス玉	藍色	1.1		2.41		4.08		0.0554	204	5-6	ガラス玉	濃い藍色	2.5	2.0	5.24	4.50	7.42	6.25	0.3000
148	34	ガラス玉	濃い藍色	1.0		2.33		4.10		0.0526	205	90	ガラス玉	濃い藍色	1.7	1.4	6.79	5.57	7.81	6.46	0.4643
149	12	ガラス玉	濃い藍色	1.1		2.30		4.10		0.0509	206	59	ガラス玉	濃い藍色	2.1	2.0	5.44	4.76	7.97	7.72	0.4813
150	113	ガラス玉	濃い藍色	1.2		2.43		4.11		0.0591	207	98	ガラス玉	濃い藍色	1.5		7.85	7.29	8.03	6.70	0.6171
151	149-25	ガラス玉	濃い藍色			2.45		4.11		0.0539	208	120	ガラス玉	濃い藍色	1.5		6.41	6.33	8.11	7.55	0.5649
152	127	ガラス玉	濃い藍色	1.2		2.71		4.12		0.0648	209	103	ガラス玉	濃い紫色	2.0	1.7	4.62	4.07	8.59	7.58	0.4447
153	149-20	ガラス玉	濃い藍色			2.34		4.12		0.0551	210	61	ガラス玉	濃い藍色	1.6	1.5	6.43	5.41	8.59	7.24	0.5332
154	109	ガラス玉	濃い藍色	1.1		2.58		4.15		0.0618	211	129	ガラス玉	暗黄橙色	3.0		7.42	6.95	8.88		0.7770
155	18	ガラス玉	濃い藍色	1.2		1.99		4.15		0.0467	212	159	白玉		1.5	1.4	2.61		4.79		0.1088
156	57	ガラス玉	濃い藍色	1.5		2.38		4.16		0.0543	213	153	白玉								0.0379
157	76-4	ガラス玉	濃い藍色	1.4		2.35		4.16		0.0488	214	158	白玉		1.5		1.86		3.58		0.0343
158	79-4	ガラス玉	濃い藍色やや紫	1.2		2.68		4.17		0.0645	215	82	白玉		1.3		2.66		3.65		0.0628
159	79-2	ガラス玉	濃い藍色	1.2		2.47		4.17		0.0551	216	76-15	白玉		1.5		2.35		3.74		0.0481
160	21	ガラス玉	濃い藍色	1.4	1.2	2.13		4.18		0.0566	217	149-49	白玉				2.28		3.87		0.0556
161	25	ガラス玉	濃い藍色	1.5	1.2	1.69		4.18		0.0407	218	160	白玉		1.5		1.12		3.90		0.0283
162	123	ガラス玉	濃い藍色内側に朱			2.83		4.19		0.0597	219	81-1	白玉		1.7		2.35		3.91		0.0559
163	76-24	ガラス玉	濃い藍色	1.3		2.21		4.19		0.0583	220	149-48	白玉				2.75		3.96		0.0612
164	131	ガラス玉	濃い藍色	1.4		2.71		4.19		0.0617	221	80-2	白玉		1.6		1.84		4.22		0.0485
165	96	ガラス玉	濃い藍色	1.0		2.93		4.20		0.0700	222	154	白玉		2.0		2.31	2.28	4.23		0.0676
166	76-5	ガラス玉	濃い藍色	1.0		2.47		4.27		0.0632	223	156	白玉		1.5	1.4	2.27	1.21	4.53		0.0553
167	144	ガラス玉	濃い藍色	1.2		2.33		4.28		0.0564	224	81-2	白玉		1.7		3.24		4.56		0.1104
168	149-40	ガラス玉	濃い藍色			2.76		4.30		0.0699	225	155	白玉		1.6		1.88	1.32	4.64		0.0547
169	149-28	ガラス玉	濃い藍色			2.44		4.30		0.0542											



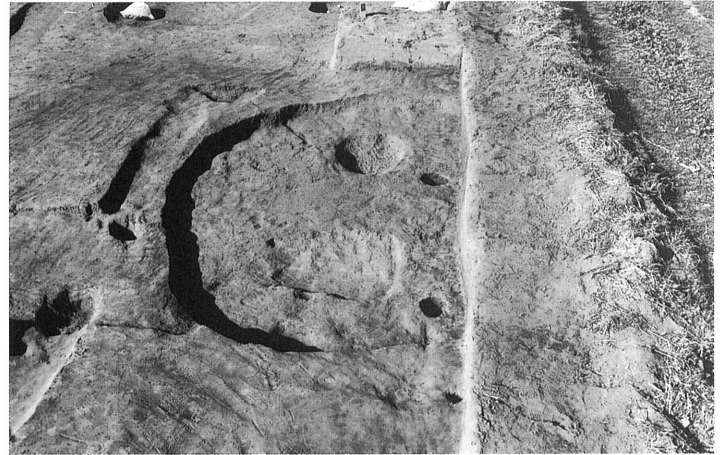
全景



全景



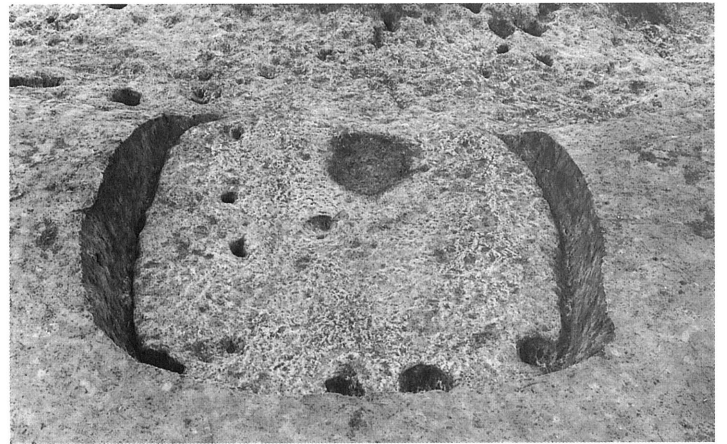
7号・8号炉穴



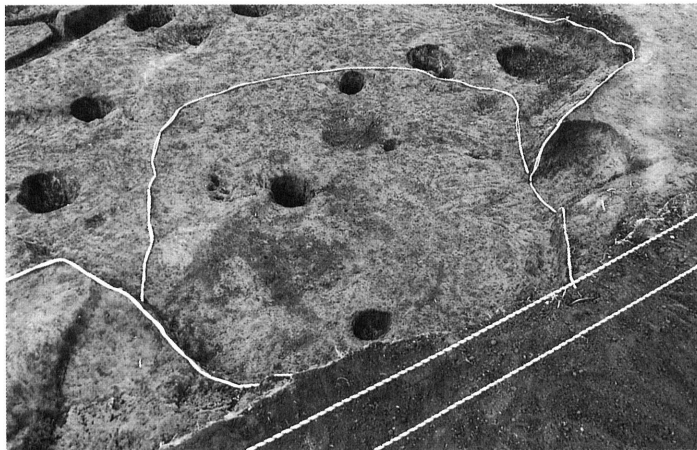
2号遺構



1号遺構



5号遺構



4号遺構



7号遺構



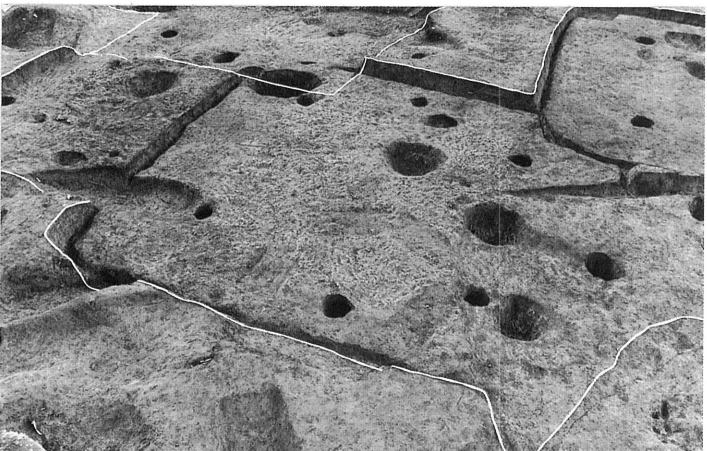
3号遺構



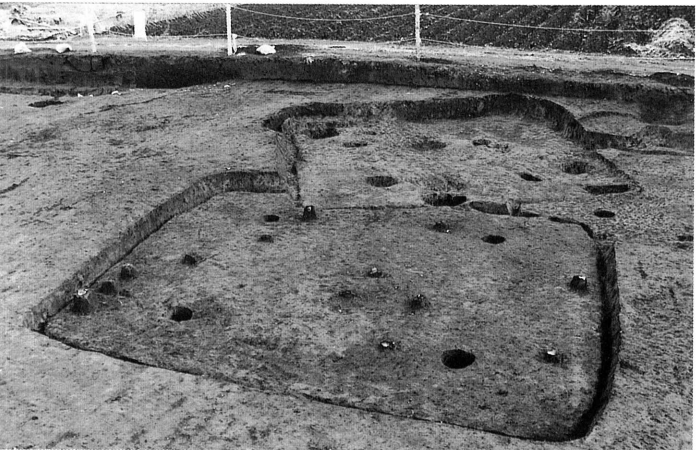
8号遺構



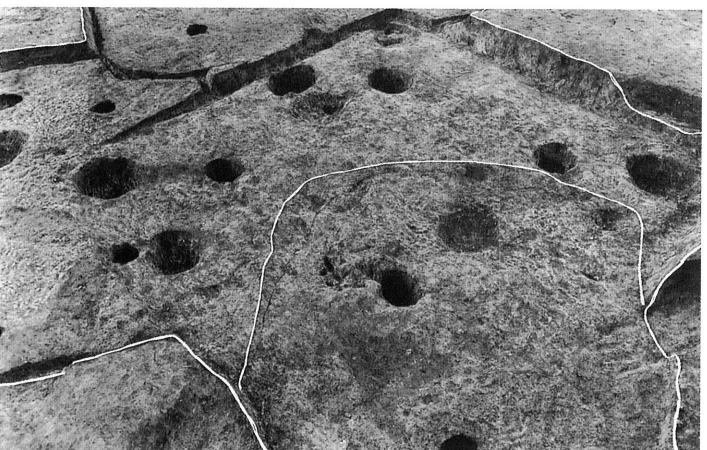
13号遺構



9号遺構



10号・12号遺構



12号遺構

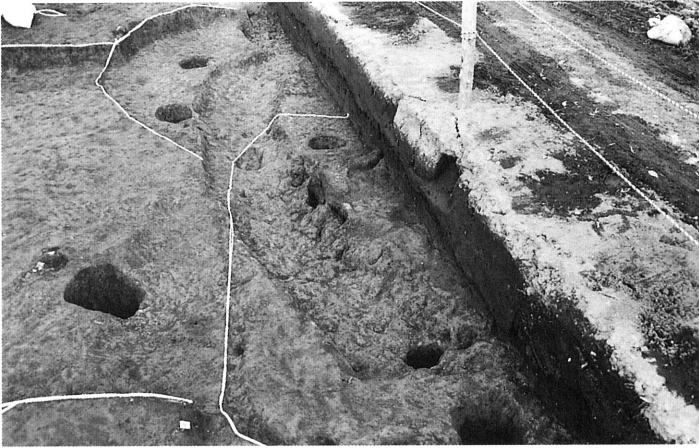


12号遺構

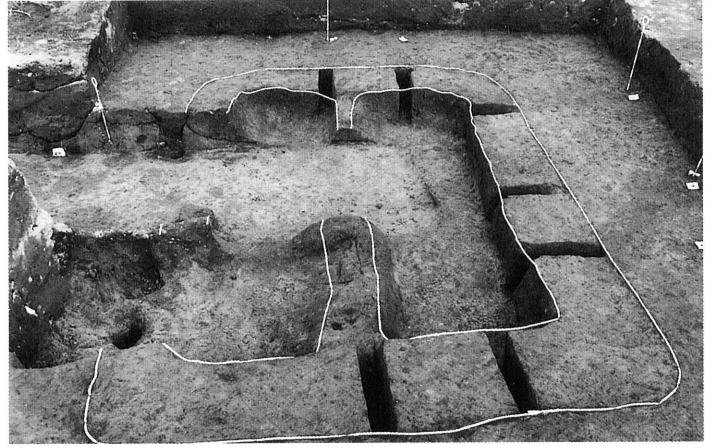


12号遺構

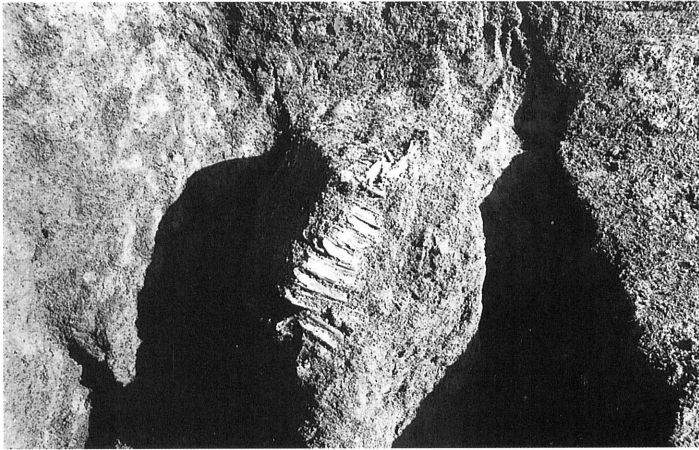
畑木小谷遺跡



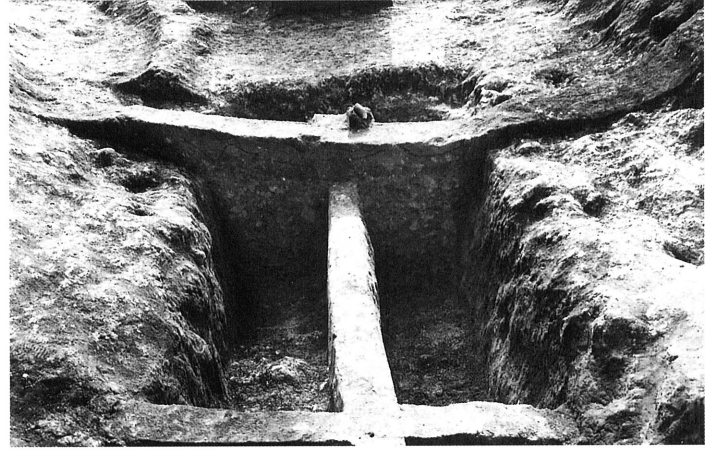
6号・11号遺構



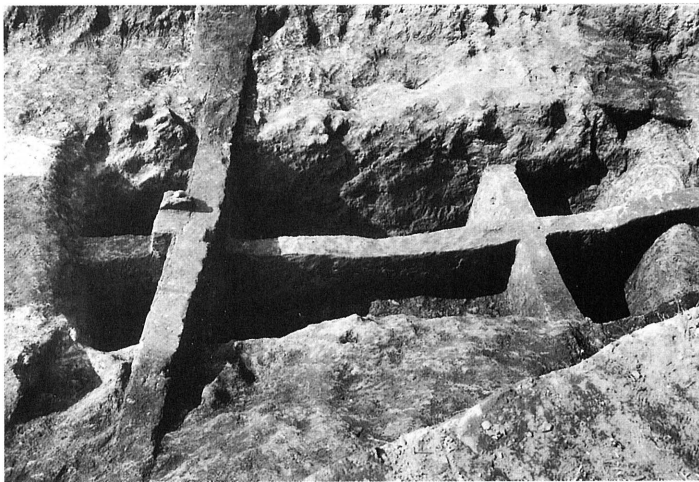
16号遺構



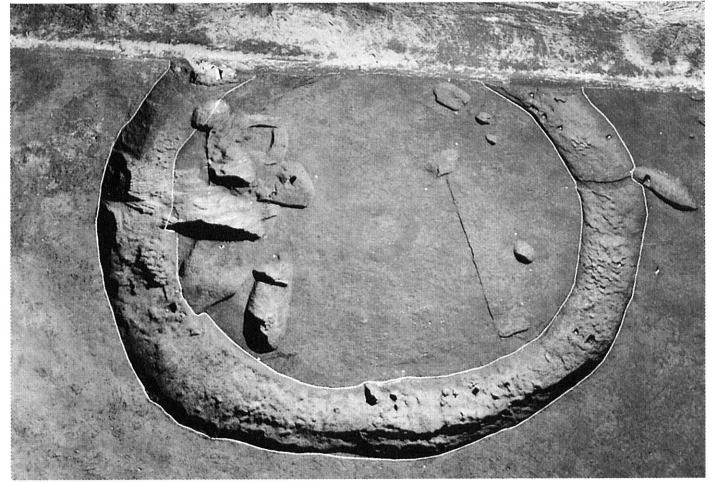
15号馬歯



15号遺構



15号遺構



14号遺構

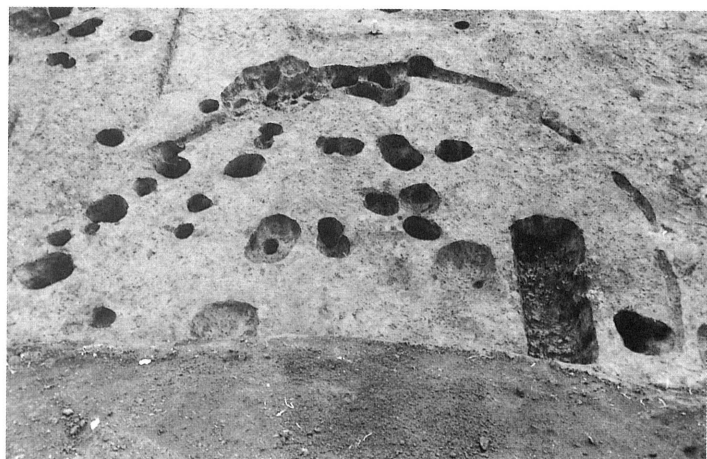


11号遺構



15号遺構

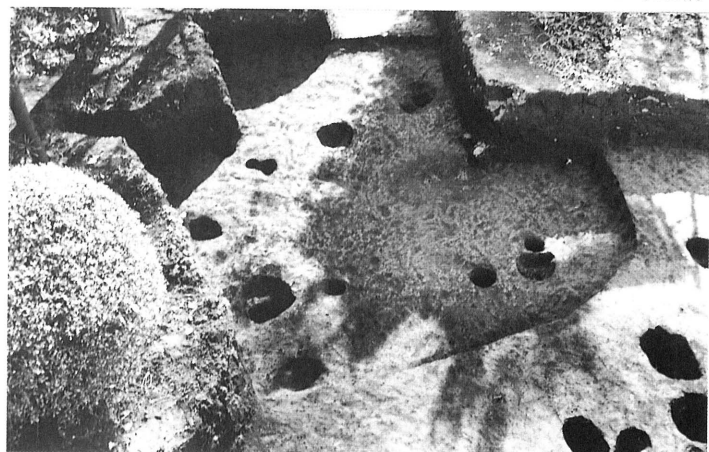
畑木小谷遺跡



1号遺構



2号遺構



3号遺構



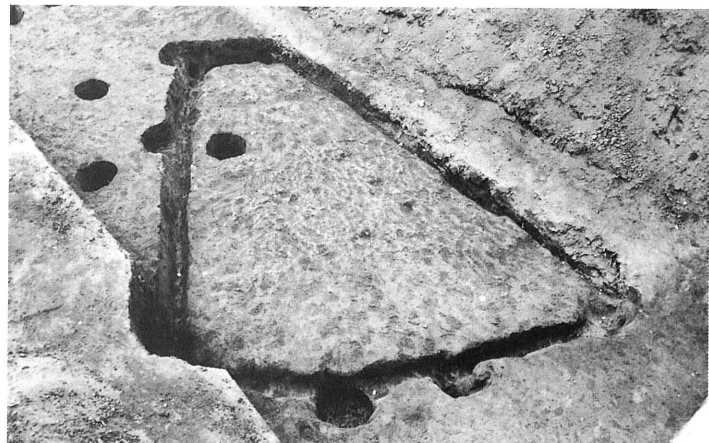
4号遺構貯蔵穴



4号遺構



4号遺構



6号遺構



8号遺構



3トレンチ



3トレンチ



4トレンチ

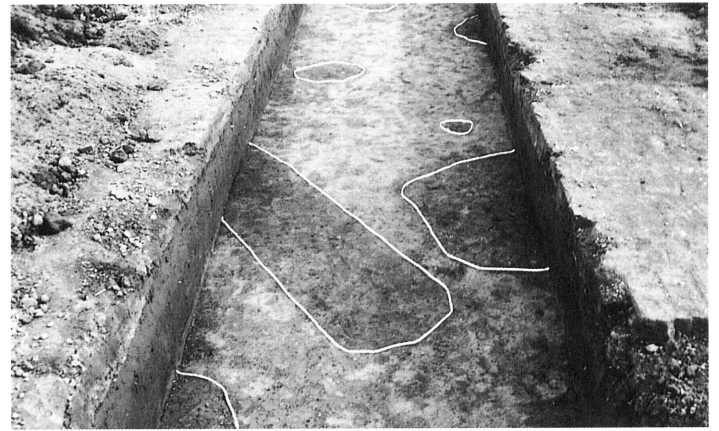


5トレンチ

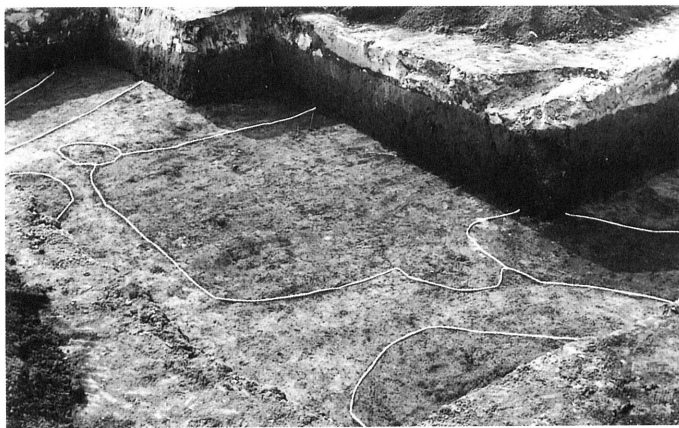
五所居下遺跡



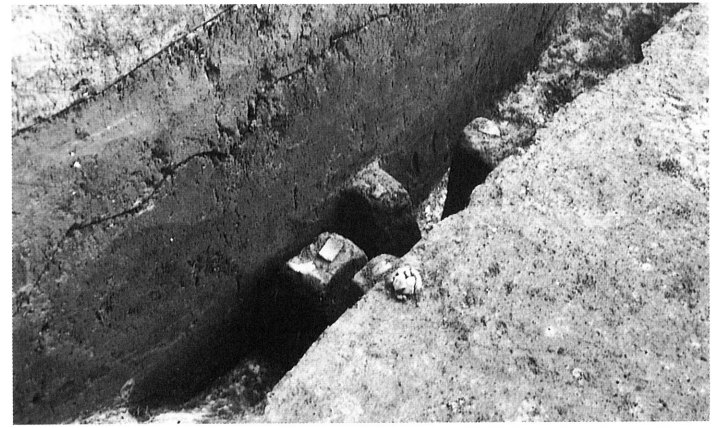
2トレンチ



5トレンチ



6トレンチ

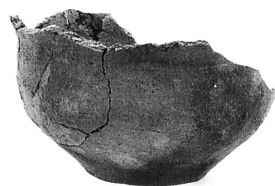


10トレンチ

新堀小鳥向遺跡



7号遺構-1



7号遺構-2



7号遺構-3



7号遺構-5



7号遺構-6



1号遺構-1



8号遺構-1



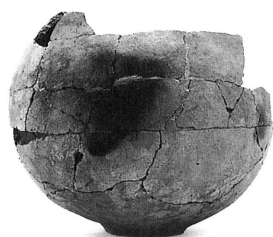
8号遺構-2



8号遺構-3



8号遺構-4



8号遺構-5



8号遺構



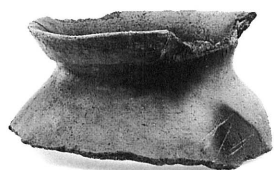
9号遺構-8



10号遺構-2



12号遺構-1



12号遺構 - 5



12号遺構 - 6



12号遺構 - 7



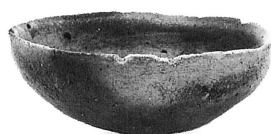
12号遺構 - 8



12号遺構 - 13



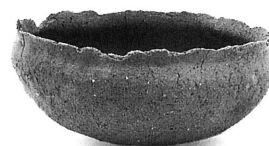
12号遺構 - 15



13号遺構 - 3



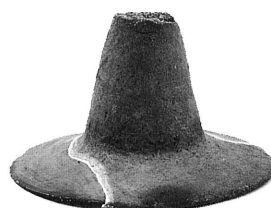
13号遺構 - 2



13号遺構 - 1



13号遺構 - 9



13号遺構 - 10



13号遺構 - 12



13号遺構 - 18



13号遺構 - 19



13号遺構



13号遺構 - 8

图版 8

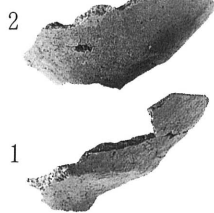
15号遺構-2



17号遺構-2



15号遺構-3



16号遺構



16号遺構-2

畑木小谷遺跡



5号遺構-1



5号遺構-2



5号遺構-5



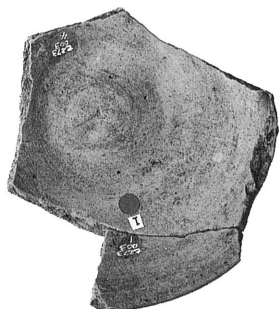
6号遺構-1



5号遺構-6



6号遺構-1



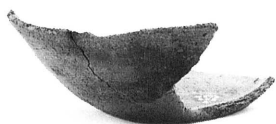
6号遺構-1



8号遺構-1



遺構外-4



遺構外-1



遺構外-7



遺構外-6



遺構外-13



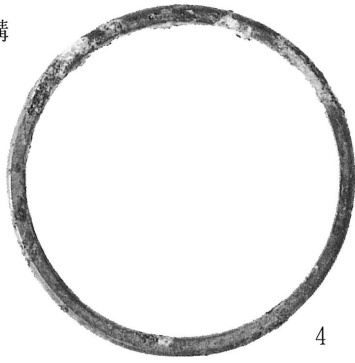
遺構外-14



遺構外-12

郡本遺跡 (5次)

16号遺構



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



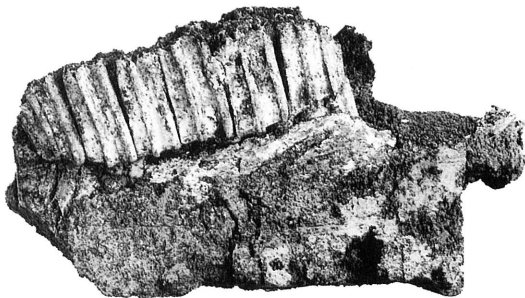
17



15号遺構馬齒



12号遺構-21



燧木小谷遺跡



5号遺構-5



7号遺構-7



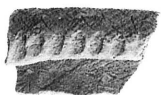
7号遺構-8



7号遺構-10



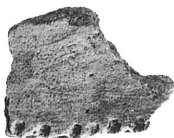
7号遺構-9



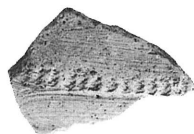
3号遺構-1



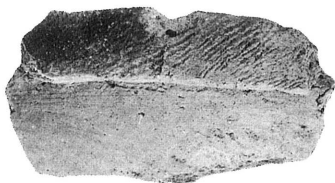
3号遺構-2



3号遺構-3



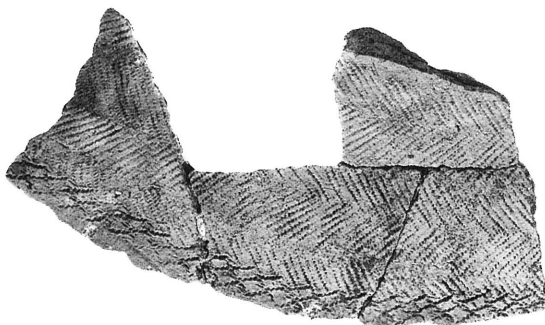
3号遺構-4



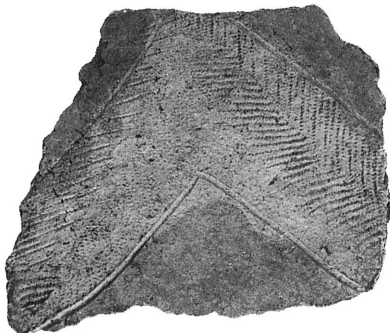
6号遺構-1



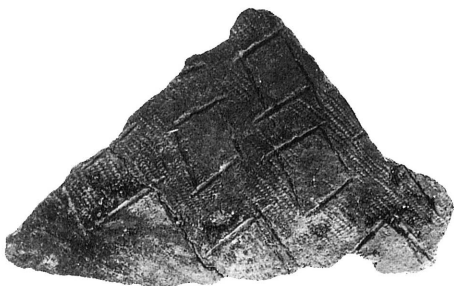
6号遺構-4



6号遺構-5

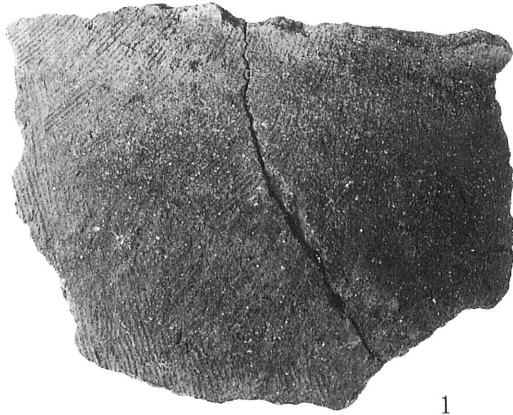


6号遺構-6



4号遺構-1

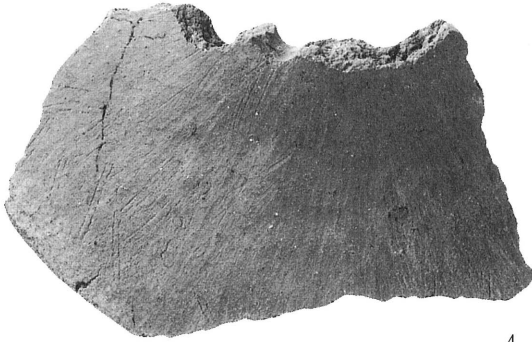
10号遺構



1



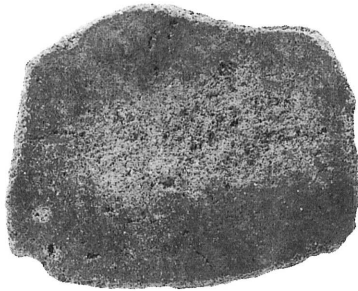
3



4



11号遺構-1



7号遺構-11



7号遺構-12



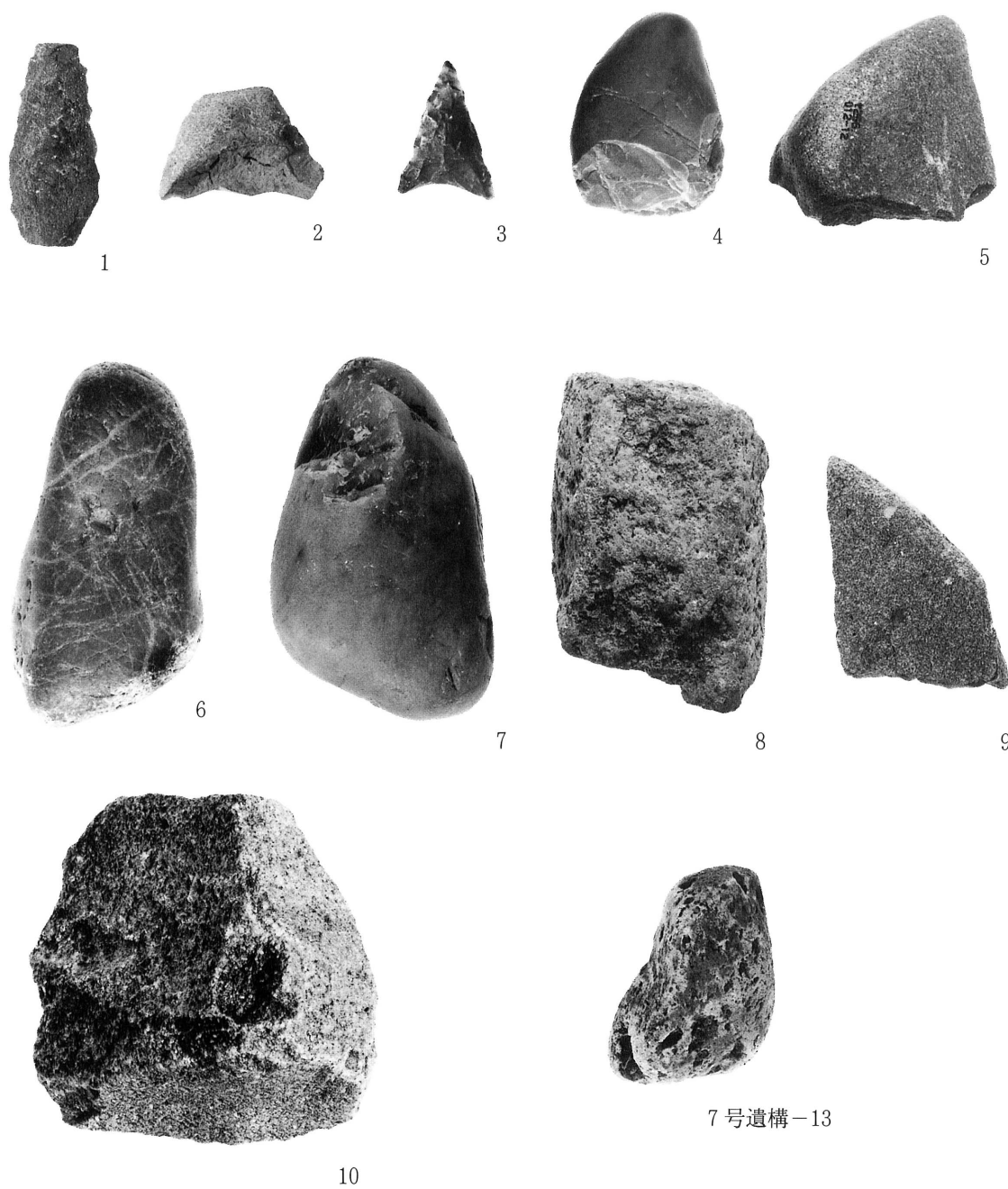
17号遺構-1

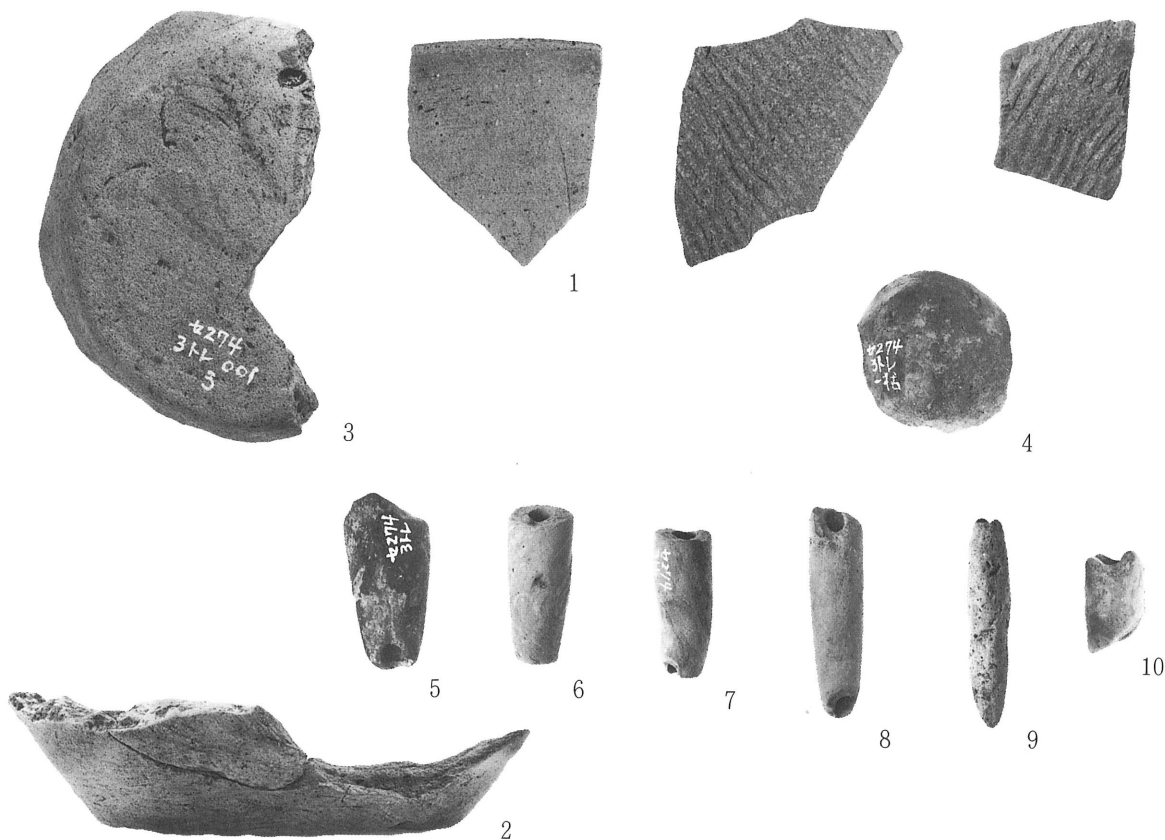


15号遺構-4



15号遺構-5

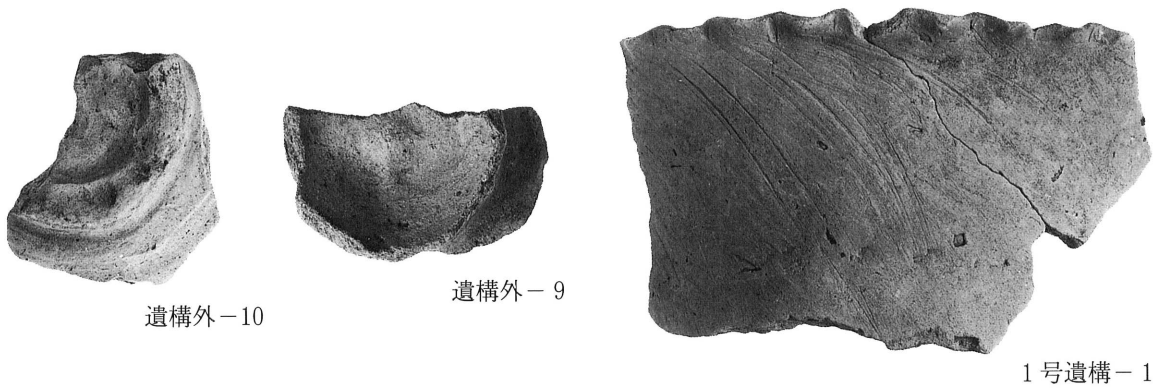
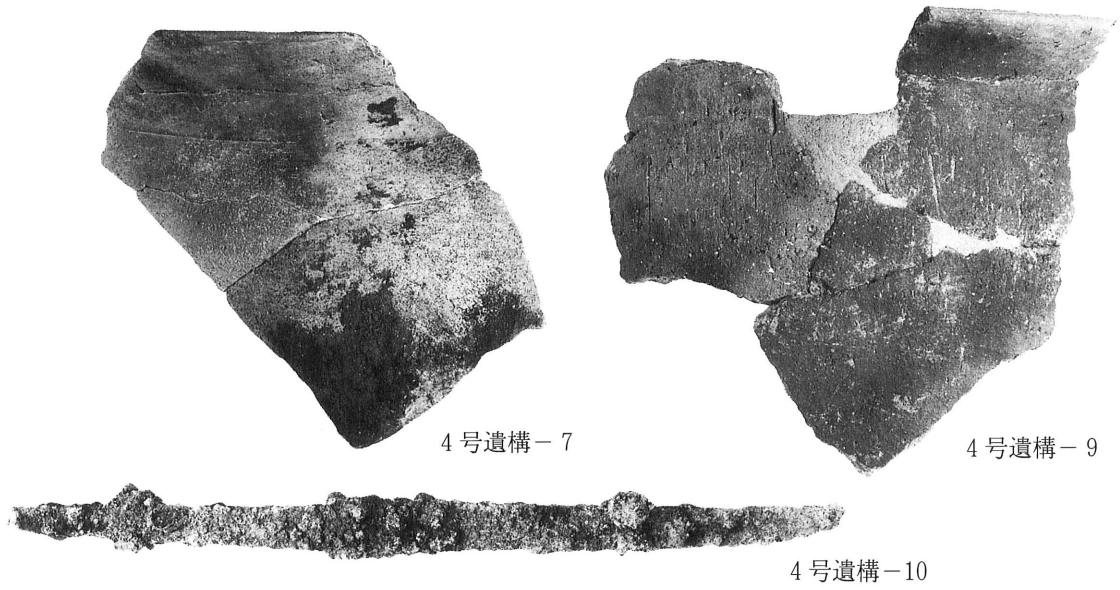
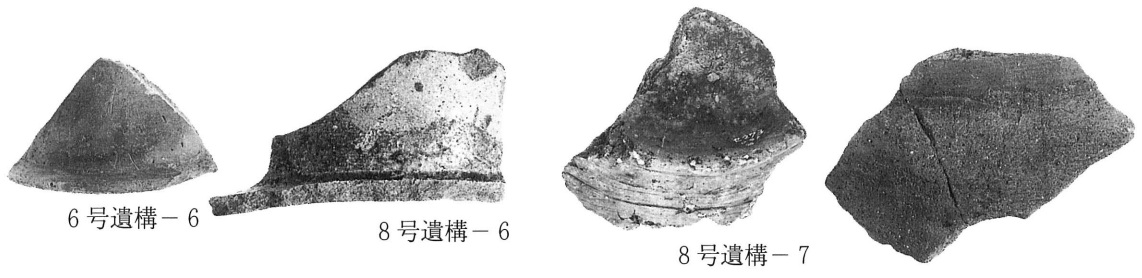




五所居下遺跡



新堀小鳥向遺跡



平成10年度市原市内遺跡発掘調査報告

平成 11 年 3 月 31 日 発行

編 集 財団法人 市原市文化財センター

市原市能満 1,489 番地

発 行 千葉県市原市教育委員会

市原市国分寺台中央1丁目1番地1

印 刷 三 陽 工 業 株 式 会 社

市原市五井5,510－1 番地